

平成31年度
事業報告書

社会福祉法人にしあいづ福祉会

(1) 本部	1 ~	7
(2) 特別養護老人ホームさゆりの園	8 ~	24
(3) さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所	25 ~	37
(4) さゆりの園デイサービスセンターⅡ	38 ~	47
(5) 西会津町訪問介護事業所	48 ~	56
(6) 西会津町居宅介護支援事業所	57 ~	64
(7) にしあいづ地域包括支援センター	65 ~	99
(8) 障がい相談事業所にしあいづ	100 ~	103
(9) グループホームのぞみ	104 ~	110
(10) 西会津町こゆりこども園	111 ~	121
(11) 介護老人保健施設「憩の森」	122 ~	144
(12) 「憩の森」短期入所療養介護事業所	145 ~	152
(13) 「憩の森」通所リハビリテーション事業所	153 ~	158
(14) 西会津町地域ふれあいセンター居住部門	159 ~	166

理事会開催状況

	開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数 定数	出席者の書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名
本年度	令和1年5月7日	令和1年5月31日	5／6	なし	有価証券の資金運用報告について 平成30年度社会福祉法人にしあいづ福祉事業報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉社会給与規程の一部改正(案)について 平成30年度社会福祉事業区分補正予算(第4次)(案)及び公益事業区分補正予算(第4次)(案)について 平成30年度にしあいづ福祉社会拠点区分決算について 平成30年度にしあいづ福祉社会決算について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について	佐藤文男	薄定雄 岩原稔
	令和1年5月31日	令和1年6月14日	6／6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会理事長の選定について 社会福祉法人にしあいづ福祉社会業務執行理事の選定について 社会福祉法人にしあいづ福祉会施設長の選任について		薄定雄 岩原稔
	令和1年9月10日	令和1年9月24日	6／6	なし	有価証券の資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉社会給与規程の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会運営規程の一部改正(案)について		薄定雄 岩原稔
	令和1年11月21日	令和1年12月6日	6／6	なし	有価証券の資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉会ヘルパー就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会定款施行細則(案)の制定について 移行時積立金及び移行時積立資産の取崩について 社会福祉法人にしあいづ福祉会印管理規程の一部改正(案)について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会福祉事業区分補正予算(第1次)(案)について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会公益事業区分補正予算(第2次)(案)について		薄定雄 岩原稔
	令和2年2月13日	令和2年3月10日	6／6	なし	社会福祉法人にしあいづ福祉会資金運用報告について 社会福祉法人にしあいづ福祉社会就業規則の一部改正(案)について 社会福祉法人にしあいづ福祉会事務決裁規程の一部改正(案)について 移行時積立金及び移行時積立資産の取崩について		薄定雄 岩原稔

開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数定数	出席者の書面決議書	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名
				社会福祉法人にしあいづ福祉社会苦情解決第三者委員の選任について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会社会福祉事業区分補正予算(第2次) (案)について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会公益事業区分補正予算(第2次)(案) について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会事業計画(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会社会福祉事業区分予算(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福祉社会公益事業区分予算(案)について 評議員会提出議案及び開催日時の決議について		

評議員会開催状況

	開催通知施行年月日	開催年月日	出席者数 定数	議案等の名称	欠席者氏名	監事出席者の氏名
本年度	令和1年5月31日	令和1年6月14日	8/8	有価証券の資金運用報告について 平成30年度社会福祉法人にしあいづ福社会事業報告について 平成30年度社会福祉事業区分補正予算(第4次)(案)及び公益事業区分補正予算(第4次)(案)について 平成30年度にしあいづ福社会提携区分決算について 平成30年度にしあいづ福社会決算について 理事の選任について 監事の選任について		薄 定雄 岩原 総
	令和2年3月12日	令和2年3月26日	7/8	社会福祉法人にしあいづ福社会資金運用報告について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福社会社会福祉事業区分補正予算(第2次)(案)について 平成31年度社会福祉法人にしあいづ福社会公益事業区分補正予算(第2次)(案)について 令和2社会福祉法人にしあいづ福社会事業計画(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福社会社会福祉事業区分予算(案)について 令和2年度社会福祉法人にしあいづ福社会公益事業区分予算(案)について	芳賀 明	

1. 施設外研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	令和元年度 福島県経営者協議会 並びに全国社会福祉 協議会との共催セミ ナー	令和時代のビジョンを描く。2040年を展望した社 会福祉と社会福祉法人 ここが知りたい社会福祉法人経営Ⅰ・Ⅱ	業務執行理事	若林陽三	令和1年7月3日 ~	ピックハレットふくしま	復命書
2	令和元年度 社会福祉法人評議員 研修	社会福祉法人を取り巻く状況及び評議員の役割 地域共生社会の実現に向けて	評議員	高瀬悦子 芳賀 明 佐藤トミ子 荒海孝子 佐藤新一 佐藤健一	令和1年8月2日	ピックハレット ふくしま	
3	令和元年度 社会福祉法人監事研修	社会福祉法人監事が担う実務の基本と監事監査 のポイントについて	監事	薄 定雄 岩原 錠	令和1年10月7日	郡山 ユラックス熱海	
4	平成30年度 安全運転管理者講習 会	新たな時代の安全運転管理	業務執行理事 事務係長	若林陽三 津川修二	令和1年10月8日	喜多方プラザ	復命書
5	令和元年度 社会福祉法人理事研修	地域共生社会の現実に向けた 今求められる社会 福祉法人理事の役割及び社会福祉法人の経営 戦略	理事長 業務執行理事 理事 理事 理事	廣瀬 渉 若林陽三 物江正俊 嶋田純子 波野英樹	令和1年10月29日	郡山 ユラックス熱海	
6	令和元年度 苦情解決責任者・第 三者委員研修	苦情解決システムにおける第三者委員について 苦情解決から学ぶリスクマネジメント	第三者委員 業務執行理事	長谷川幸志 矢部征夫 伊藤てる子 若林陽三	令和1年11月11日	郡山 ユラックス熱海	
7	令和元年度 社会福祉法人事・ 労務管理講座	全国経営協が目指す人材確保・育成・定着の取り 組み 全国社会福祉法人経営者協議会 福祉人材対策委員長 山田雅人氏	業務執行理事	若林陽三	令和2年1月30日 ~ 令和2年1月31日	新横浜リッチモンドホテル	復命書

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
		労務管理関係法の内容と対応のポイント 人事管理を支える制度の理解と構築方法 人事コンサルタント 綱川晃弘氏					

2. 施設内研修

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	腰痛予防のための労働衛生教育	腰痛予防 (東洋医学のツボ刺激マッサージによる痛み低減と予防) 株式会社源氣堂 代表取締役 平栗辰也氏		全職員	令和1年10月9日 令和1年10月16日	ディサービスⅡ	振り返りシート
2	高齢者・障がい者福祉施設等における虐待防止	背景をとらえた虐待の防止 東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科准教授 認知症介護研究・研修仙台センター研究部長 吉川悠貴氏		全職員	令和1年10月29日	西会津中学校 多目的ホール	振り返りシート
3	ユマニチュード 伝達研修会	ユマニチュードの基本について 特養 作業療法士 中田奈津美 特養 介護員 神田翔太		全職員 (看護職員を除く)	令和1年12月19日 令和1年12月24日	ディサービスⅡ	振り返りシート

平成31年度老人世帯の栄養確保事業（ぶらサボひだまり食堂）実績報告

NO	月日	地区・団体名	人数(食)	ぶらサボ内容
1	4月 9日 (火)	支援ハウス利用者	5	新採用職員及び入居者同士の会食
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、小松菜の辛子和え、酢漬、フルーツヨーグルト		
2	5月 10日 (金)	新郷地区：柴崎・橋立サロン	10	AM カラオケ・輪投げ、PM 烏追観音参拝他
	献立	ご飯、春雨スープ、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、ネギトロ、たまり漬、フルーツヨーグルト		
3	6月 11日 (火)	奥川地区：新町老人クラブ	10	AM 烏追観音・大山神社参拝、PM ふるさと自慢館見学
	献立	ご飯、卵スープ、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、南瓜と里芋の蒸し物、らっきょ漬、フルーツヨーグルト		
4	6月 21日 (火)	野沢地区：健康ふれあいサロン	15	AM 烏追観音・大山神社参拝、PM カラオケ・紙芝居
	献立	ご飯、卵スープ、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、南瓜と里芋の蒸し物、たまり漬、フルーツヨーグルト		
5	8月 6日 (火)	野沢地区：大久保サロン	8	AM 鮎子の口見学・学校めぐり、PM かわちや買い物
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、茄子のツナマヨ和え、じゃが芋とシメジの和え物、酢漬、フルーツヨーグルト		
6	9月 3日 (火)	尾野本地区：出ヶ原サロン	7	AM ロータスイン、PM 奥川巡り（中ノ沢・檜山古民家見学）
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、大根サラダ、ピクルス、フルーツヨーグルト		
7	1月 28日 (火)	尾野本地区：尾豊サロン	16	PM ハンドマッサージ
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、小松菜の辛子和え、甘酢漬、フルーツヨーグルト		
8	2月 28日 (金)	奥川地区：小山サロン	8	AM 大山神社参拝、PM ハンドマッサージ
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、小松菜の辛子和え、たまり漬、フルーツヨーグルト		
9	3月 27日 (金)	奥川地区：塩サロン	10	AM 役場庁舎見学、PM ハンドマッサージ
	献立	ご飯、味噌汁、焼き豚、切干大根、人参シリシリ、茎立葉の辛子和え、酢漬、フルーツヨーグルト		
計	9地区	89人・89食		

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：法人全体

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	4	0	0	0	0	0	4
	家族	4	2	3	0	0	0	3	12
	その他	0	3	0	0	0	0	1	4
合計		4	9	3	0	0	0	4	20

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		4	0	0	0	0	0	4
職員の態度 (接遇)		8	0	0	0	0	1	9
サービスの質 (内容)		3	0	0	0	0	0	3
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	0	0	2	4
合計		17	0	0	0	0	3	20

平成 31 年度 特別養護老人ホームさゆりの園事業報告書

（事業の概況）

平成 31 年度は、運営方針・基本方針に従い、施設サービス計画に基づき入所者が有する能力に応じ、満足感のある日常生活を営むことが出来るように、各専門職がその専門性を活かしながら、チームとして連携し日々の支援を実践してきた。

又、年度内で 17 名と多くの入退所があったが、入所決定過程の透明性と公平性に基づき、真にサービスを必要とする者の円滑な施設入所に資すると共に、スムーズな入所待機の解消に努めた。

ただ、令和 2 年 1 月には施設内でインフルエンザ感染が発生し、入所者、ショートステイ利用者数名が罹患。利用者、家族はもとより各関係機関にも多大なる迷惑と心配をかけてしまった。

その後も新型コロナウイルスの国内感染拡大に伴い、高齢者施設における集団感染抑止を徹底する目的から、2 月末より施設内への入館制限、面会制限等の感染予防策を講じ、外部との接触を可能な限り遮断し安全確保に努めている状況である。

（重点目標についての評価）

1. 利用者の自己実現（QOL の質）を大事にするケア、関わりの向上

① 相談

入所者との個別面談、ご家族よりアンケート等で、より具体的な意向や思いを聴取することが出来た。数名で少しずつではあるが、個々の楽しみや生きがいを諦めず、頑いが少しでも叶う施設生活となることを目標に、多職種と話し合いながら日々のケアに反映させてきた。具体的にはレクリエーション内容の充実、外出や外食、買い物、趣味活動の見い出しや継続支援に繋げられた。ただ、一人ひとりを大切にした QOL 向上の取り組みとなると、まだまだ十分とは言えない状況である。

② 介護

利用者のニーズや個性に合わせたレクリエーション活動等の取り組みを計画し、徐々に実践できる体制を作ってきてている。年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、学ぶ機会も得られたので、更に充実した取り組みへのヒントとすることが出来た。又、施設内も季節に応じた装飾の工夫があり、利用者も季節感を感じることが出来たり、わくわく感や楽しみを感じる雰囲気作りにつなげることが出来た。

③ 看護

日々の看護の提供だけでなく、その方の人生に関わるということをもう一度振り返り、利用者の人生、生活歴、思いを理解し寄り添う取り組みについて、看護スタッフ間で話し合いながら実践してきた。

④ 機能訓練

週 2 回の集団体操は行えているが、利用者のレベルに合わせたグループ編成や、プログラム立案までは未実施。ただ、可能な方には参加を促すことで、以前より集団体操への参加人数も増加し、活気のある活動になっている。今後は利用者の状態や、ニーズに合わせグループ編成した中で実際に実践していくことで、有効点、改善点など評価できるので、まずは行動に移していきたい。

⑤ 栄養

食の楽しみ、口から食べることを諦めない為の取り組みとして、「職下ピラミッド」を作成している。まだ完成には至っていないが、様々な研修会に参加し様々なヒントを得ることが出来た。

2. 「信頼」を得るための接遇力の向上と意識化

① 相談

「接遇力向上」を目指し、OJT委員会を中心に意識化に向けた取り組みを実施。アンケートでさゆりの園の現段階の接遇面について課題分析し、その結果から改善目標を設定し、毎朝の申し送りにて唱和することで意識化を目指してきた。

② 介護

職員によって接遇力にばらつきがあり、日々のOJTも十分とは言えない状況もあるものの、勉強会や研修会に参加することで意識できる職員も多くなっている。

③ 看護

接遇に関する外部研修参加はなかったが、施設内研修や日々のOJTの中で、お互いに注意し合いながら自己啓発に努めた。

④ 機能訓練

施設内において接遇の勉強会に参加。他の研修でも利用者への接し方等、接遇に活かせる内容も多々あり、研修後は更に意識しながら日々の業務にあたることが出来た。

⑤ 栄養

施設内研修以外で栄養係の中でも独自に接遇の勉強会を実施した。その中で接遇のポイント等について学んだが、まだ利用者や他職種とのコミュニケーション不足や正しい言葉遣いが十分とは言えない状況もある。

3. 職員の人材育成と働きがいのある風土づくり

① 相談

OJT委員会を中心に職員各々のキャリアパス作成を推進し、目標・目的意識を持って職務遂行してきた。又、PDCAに基づき、年度途中で進捗評価を実施することで、隨時振り返りや上司からの助言を頂くことで、モチベーションアップにつなげることができた。

② 介護

職員との定期的個別面談は計画性を持って実施することが出来なかった。又、日頃のOJTにおいても、専門性を持ってお互いに注意し合いながら認め合う体制や環境づくりには、まだ至っていない現状である。係長、副係長を中心に常日頃からのOJTの実践を強化していく必要がある。

③ 看護

各自キャリアプランを作成し、目標を具体化することで実践につなげるよう努力してきた。又、日頃からのOJTについては、お互いの気付きに対し声を掛け合いながら実践してきた。

④ 機能訓練

他職種とのコミュニケーションや情報交換・共有については、以前より積極的に図れている。ただ、機能訓練に対し様々な意見を頂けるような関係作りについては課題があるので、今後も専門性を持って意見聴取できるような体制づくりをしていく必要がある。

⑤ 栄養

給食管理業務については日々の献立作成に追われ、献立作成方法の一連の流れの指導を実施できなかったが、発注作業においては集計から各業者への発注までを任せられるようになった。病態栄養の指導は特に実践できなかったが、研修会参加や休日を利用した外部の専門研修と共に参加し、共通理解ができたと思う。

4. 職員の専門性向上

① 相談

専門性を高める為、外部の専門職研修には出来る限り参加し、施設ケアの中だけでは見えない視点や気づきを得る機会を持つことができた。

② 介護

- ・外部研修、チームアプローチ研修会等には積極的に参加し、自施設内だけでは増えない知識や視点、気づきを学ぶことができ、利用者処遇に活かすことができた。
- ・未資格者の介護福祉士、介護支援専門員資格取得を目指していたが、合格者はいなかつた。

③ 看護

終末期ケアに関する研修会参加を予定していたが、計画的に参加実施することが出来なかった。終末期ケアに関しては多職種と協同で、本人と家族の思いに応じたケアに努めた。

④ 機能訓練

福祉用具の知識について得る機会があり、日々の業務で疑問に感じていた点について改善することができた。ただ、他職員へ助言をする為にはまだ知識不足だと感じる為、適切な助言ができるよう、今後も学びの機会をもつ必要がある。又、認知症ケアの一つであるユマニチュード技法の研修会に参加し、認知症ケアの専門的見地を学ぶことが出来た。

⑤ 栄養

外部研修には積極的に参加し、病態に合わせた栄養管理や法改正による最新情報等について知識を得、栄養マネジメントに活かすことができた。又、今年度は調理員も知識や経験に合わせた外部研修に積極的に参加出来た。

<平成31年度の活動実績>

1) 定期

ボランティア 団体名	活動内容	1回の人数	活動した日
野菊の会	入浴後の整髪、会話	2名	H31.4/1、4/8、4/15、4/22 R元.5/7、5/13、5/20、5/27、6/3、6/10、6/17、 6/24、7/1、7/8、7/22、7/29、8/5、8/19、8/26、 9/2、9/9、9/30、10/7、10/21、10/28、11/4、11/11、 11/18、11/25、12/2、12/9、12/16、12/30、2/3、 2/10、2/17、2/24

合計 37回

上野尻敬神女性会	入浴後の整髪、会話	2名	R元.7/18、7/25、8/1、8/8、8/22、8/29 合計6回
老人クラブ女性部	書道教室の指導	2名	R元.5/14、6/14、7/16、8/26、9/17、12/13 合計6回
老人クラブ女性部	読み聞かせ	2名	R元.5/16、6/17、7/18、8/22、9/19、12/19 合計6回

2) 隨時

ボランティア名	活動内容	活動日
下小島老人クラブ	畑の耕うん、花植え	R元.6/18、6/24
穂波会	歌や踊り	R元.6/26
西会津高校生徒	車椅子清掃	R元.7/5、10/3
語り部の会	語り部	R元.7/17
西会津 日本赤十字奉仕団	車椅子清掃、施設内清掃	R元.7/25
シルバー人材センター	施設周囲の除草等	R元.10/15
木村 芳主 様	施設内の新そば会のそば打ち	R元.11/18
藤乃恵会	歌、民謡	R元.11/28
東北電力会津若松支社 会津ダム管理センター・阿賀野川ダム管理所	施設内電灯清掃、電灯交換	R元.12/10
清野家一家、下小島民族芸能保存会、伊勢亀彰 様	祝いの歌、踊り、神楽等	R2.1/1
小柳 厚子 様	歌	R2.2/17

<令和元年度の受け入れ実績>

受入日時	実習者名や団体名
令和元年 7月 10日～11日	西会津中学校職業体験学習（外島 大輔）
令和元年 7月 10日	西会津町役場新規採用職員研修（小林 卓弘）
令和元年 7月 11日	西会津町役場新規採用職員研修（三留 里奈）
令和元年 7月 12日	西会津町役場新規採用職員研修（土田 健斗）
令和元年 9月 17日～21日	福島大学社会福祉実習（片柳 史也）
令和元年 11月 25日	介護職員初任者研修（長谷川かおり、佐藤博美）
令和元年 11月 27日	介護職員初任者研修（大山玲奈、渡部京子）

入所者の状況（令和2年3月31日現在）

※令和2年3月31日現在で、入所者50名

(1) 年齢別性別入所者状況

単位：人

	~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	計
男	3	0	1	3	0	2	1	1	0	11
女	0	2	0	2	2	14	11	7	1	39
計	3	2	1	5	2	16	12	8	1	50
比率%	6	4	2	10	4	32	24	16	2	100

平均年齢：86.2歳 (最高 100歳 最低 62歳)

(2) 出身市町村別

単位：人

	男	女	計	比率%
西会津町	11	37	48	96
会津若松市	0	0	0	0
喜多方市	0	0	0	0
会津美里町	0	1	1	2
大熊町	0	1	1	2
計	11	39	50	100

(3) 在所期間状況

単位：人

	1年未満	1~3年	3~6年	5~10年	10~15年	15~20年	20~25年	計
男	3	8	2	3	0	0	0	11
女	12	12	7	6	1	0	1	39
計	15	15	9	9	1	0	1	50
比率%	30	30	18	18	2	0	2	100

平均男性 3年

平均女性 3年5ヶ月

全体平均 3年4ヶ月

最高男性 6年2ヶ月

最高女性 22年3ヶ月

(4) 新規入所状況（平成 31 年度）

単位：人

	自宅より	介護老人保健施設より	病院より	有料老人ホーム	介護福祉施設	計
男	1	1	1	0	0	3
女	8	5	0	1	0	14
計	9	6	1	1	0	17

(5) 退所状況（平成 31 年度）

単位：人

	死亡	施設看取りでの死亡	家族引取り	長期入院のため	他の施設へ移動	計
男	1	1	0	0	0	2
女	5	9	0	1	0	15
計	6	10	0	1	0	17

(6) 介護度区分状況（令和 2.3.31 現在）

単位：人

	男	女	計	比率 (%)
介護 1	1	0	1	2
介護 2	0	0	0	0
介護 3	4	7	11	22
介護 4	2	20	22	44
介護 5	4	12	16	32
更新申請中	0	0	0	0
計	11	39	50	100

介護度平均 4.0

(7) 介護状況（令和2.8.31現在）

①食事摂取動作状況

単位：人

	男	女	計	%
自立	6	16	22	44
一部介助	0	6	6	12
全介助	4	13	17	34
経管栄養	1	4	5	10
計	11	39	50	100

②行動

単位：人

	男	女	計	%
寝たきり	1	5	6	12
車椅子（自立）	5	4	9	18
車椅子（介助）	4	29	33	66
歩行器等使用	0	1	1	2
一人歩き	1	0	1	2
計	11	39	50	100

③排泄状況

単位：人

	性別	日中	計	%	夜間	計	%
オムツ使用	男	7	37	74	8	39	78
	女	30			31		
誘導(トイレ・便器使用)	男	2	11	22	2	9	18
	女	9			7		
自立(トイレ・便器使用)	男	1	2	4	1	2	4
	女	1			1		
計		50	50	100	50	50	100

④入浴状況

単位：人

	男	女	計	%
一般浴	1	0	1	2
中間浴	8	26	34	68
機械浴	2	13	15	30
計	11	39	50	100

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	平成31年度全会員介護支援専門員協会 研修・記念講演会	記念講演「介護支援専門員が知っておきたい成年後見制度の概要～実践事例を踏まえて～」 講師 川島慶司著 桃李士事務所 川島 勝尚氏	介護支援専門員 准 生活相談員	伊藤健治	31. 4. 23	全会員介護支援専門員協会 会員登録市 アピオスペース	復命書 職員会議にて発表
2	令和元年度社会福祉施設等職員 初任者研修	講義1「社会福祉施設等の職員としての心構え」 講師 社会福祉法人那山清和教養園 遠波 明重氏 講義2「福祉と権利擁護」～利用者の尊厳～ 講師 四國創生大学 錦田 真理子氏	介護員	佐川寿美	元. 5. 8	福島県社会福祉協議会 郡山市 郡山ユラックス駿河	復命書 職員会議にて発表
3	令和元年度社会福祉施設等職員 初任者基礎研修	講義1「社会福祉施設等の職員としての心構え」 講師 社会福祉法人那山清和教養園 遠波 明重氏 講義2「福祉と権利擁護」～利用者の尊厳～ 講師 いわき明星大学 錦田 真理子氏	講理員	黒 純	元. 5. 8	福島県社会福祉協議会 郡山市 郡山ユラックス駿河	復命書 職員会議にて発表
4	令和元年度社会福祉施設等職員 初任者研修	講義1「社会福祉施設等の職員としての心構え」 講師 社会福祉法人那山清和教養園 遠波 明重氏 講義2「福祉と権利擁護」～利用者の尊厳～ 講師 四國創生大学 錦田 真理子氏	介護員	大八木辰巳	元. 5. 8	福島県社会福祉協議会 郡山市 郡山ユラックス駿河	復命書 職員会議にて発表
5	令和元年度社会福祉施設等職員 初任者基礎研修	講義1「社会福祉施設等の職員としての心構え」 講師 社会福祉法人那山清和教養園 遠波 明重氏 講義2「福祉と権利擁護」～利用者の尊厳～ 講師 いわき明星大学 錦田 真理子氏	作業療法士	中田英策美	元. 5. 8	福島県社会福祉協議会 郡山市 郡山ユラックス駿河	復命書 職員会議にて発表
6	スープースチーム講習会	○スупコンの基礎～応用まで ○導入現場の使用実例紹介 ○実戦問題・クックチルの利用方法	講理員	清水茂輔	元. 6. 30	株式会社マルゼン 郡山市 安積総合学習センター	復命書
7	平成31年度福島県喘疾取扱等基本研修	1日目 講義1. 入院と社会 2. 保険医療制度とチーム医療 3. 安全な療養生活 4. 清潔保持と感染予防 2日目 講義4. 清潔保持と感染予防 5. 健康状態の把握 6. 高齢者及び障害児・者の喘疾吸引経路 3日目 講義6. 高齢者及び障害児・者の喘疾吸引経路 4日目 講義7. 高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説 講義8. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」経路 5日目 講義9. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」経路 6日目 講義9. 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 救急蘇生法(実技) 7日目 吸引の技術と留意点 8日目 経管栄養の技術と留意点 演習1日目 ①口座内吸引 ②鼻腔内吸引 ③気管カニューレ内部吸引 演習2日目 ④胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 ⑤福島経管栄養	介護員	佐藤康弘	元. 7. 3 元. 7. 25 ~元. 7. 26	福島県 二本松市 福島県男女共生センター	復命書 職員会議にて発表

地	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	講師者・場所	研修結果の報告方法
8	令和元年度平成防火管理新規講習	1日目 ①防火管理の意義と制度 ②防火管理の進め方と消防計画 ③火災管理 ④地震対策 2日目 ①施設設備の維持管理 ②日常消防 ③危険物の安全管理 ④消防用設備の操作要領 ⑤効果測定	会員	猪瀬良平	元. 6. 13 ～元. 6. 14	喜多方地方広域市町村圏総合消防本部 喜多方市 喜多方プラザ	報告書 職員会議にて発表
9	高齢者虐待学習・身体拘束禁止について「身体拘束を必要としないケアへの取り組み」 講師 東日本福祉大学 教授 松本 嘉一 氏		介護副係長	江川正樹	元. 6. 14	福島県福祉サービス振興会 二本松市 福島県男女共生センター	報告書 職員会議にて発表
10	令和元年度施設ケアマネ研修会	講義 「地域包括ケアシステムと施設ケアマネジメントの実践」～施設充実型から地域充実型へ～ グループワーク 「施設ケアマネジメント業務に関する意見交換と共通理解の促進」 講師 特別養護老人ホーム寿恵園 菅原 伸博氏	介護支援専門員 生生活相談員	伊藤健治	元. 6. 17	福島県老人福祉施設協議会 郡山市 郡山ユラックス船海	報告書 職員会議にて発表
11	令和元年度社会福祉法人事務長等研修	講義1「社会福祉法人制度改革における法人運営の留意事項等について」 「社会福祉法人指導監査に係る留意事項等について」 講師 福島県保健福祉部福祉監査課 講義2「要記載者利用施設の避難誘導計画作成について」 講師 福島県土木部 講義3「社会福祉法人における働き方改革と労務管理のポイントについて」 講師 福島県社会保険労務士会	施設長	若林嘉三	元. 6. 21	福島県社会福祉協議会 郡山市 郡山ユラックス船海	報告書 職員会議にて発表
12	令和元年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研修課程中堅職員研修	1日目 1.「チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理」 2.「福祉サービスの基本概念と倫理の理解を深める」「中堅職員としてのフォローワークの構成」 講師 特別養護老人ホーム金津みどりホーム 大島 一浩氏 2日目 3.「チームケアと問題解決—遭遇要因分岐」 講師 特別養護老人ホーム金津みどりホーム 大島 一浩氏 4.「中堅職員としての能力開発と後輩指導」 講師 福島県老人福祉施設協議会 高木 伸氏 3日目 4.「中堅職員としての能力開発と後輩指導」 5.「行動指針マップの策定」 6.「キャリアデザインとアクションプランの策定」 講師 特別養護老人ホーム福那苑施設長 日置 嘉一氏	看護師	荒島美子	元. 6. 26 ～元. 6. 28	福島県社会福祉協議会 福島市 福島県総合社会福祉センター	報告書 職員会議にて発表
13	熱中！レクリエーション	・意欲を引き出すアクティビティについて・看護・介護におけるレクリエーションの違い ・片麻痺、寝たきり、認知症などの方へのレクリエーション 等 講師 福島県レクリエーション協会 佐藤 審也 氏	介護員 兼 生生活相談員	青津千恵	元. 6. 28	福島県福祉サービス振興会 福島市 福島県文化センター	報告書 職員会議にて発表
14	令和元年度社会福祉施設ボランティア 担当者研修 ～ボランティアの力を引き出す担当者 を目指して～	講義・ワークショップ「ボランティアプログラムと募集方法」 「ボランティアマネジメントと環境づくり」 講師 日本ボランティアコーディネーター協会 後藤 麻理子氏	介護支援専門員 生生活相談員	伊藤健治	元. 7. 5	福島県社会福祉協議会 郡山市 ピックナレットふくしま	報告書 職員会議にて発表
15	認知症高齢者のケア	・基本的な考え方と支援 ・認知症例における対処法とケアの展開等 講師 善心会 横本 舟博 氏	作業療法士	中田恭津美	元. 8. 1	福島県福祉サービス振興会 福島市 福島県文化センター	報告書 職員会議にて発表

順	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
16	令和元年度特定給食施設等講習会	講義1「衛生管理について」 講義2「ふくしまの食の基本、健康な食事について」 講師：会津保健所職員 グループワーク「食事バランス改善が実現できるためのアプローチ」 「無理なく減量が実現できるためのアプローチ」	栄養係長	石川美智子	元. 8. 23	福島県会津保健所 会津若松市 会津大学	復命書 職員会議にて発表
17	令和元年度特定給食施設等講習会	講義1「衛生管理について」 講義2「ふくしまの食の基本、健康な食事について」 講師：会津保健所職員 グループワーク「食事バランス改善が実現できるためのアプローチ」 「無理なく減量が実現できるためのアプローチ」	講師員	清田菜緒	元. 8. 23	福島県会津保健所 会津若松市 会津大学	復命書 職員会議にて発表
18	令和元年度特定給食施設等講習会	講義1「衛生管理について」 講義2「ふくしまの食の基本、健康な食事について」 講師：会津保健所職員 グループワーク「食事バランス改善が実現できるためのアプローチ」 「無理なく減量が実現できるためのアプローチ」	講師員	黒 純	元. 8. 23	福島県会津保健所 会津若松市 会津大学	復命書 職員会議にて発表
19	令和元年度事務長等研修会	講義「地域共生時代の社会福祉法人に求められる組織とマネジメント ～介護職員等特定待遇改善加算を活かす事業経営～」 講師：株式会社ウエルビー　亀井　恵美子氏	事務係長	津川修二	元. 8. 26	福島県老人福祉施設協議会 郡山市 ピッグパレットふくしま	復命書 職員会議にて発表
20	令和元年度事務長等研修会	講義「地域共生時代の社会福祉法人に求められる組織とマネジメント ～介護職員等特定待遇改善加算を活かす事業経営～」 講師：株式会社ウエルビー　亀井　恵美子氏	事務副係長	吉藤恵子	元. 8. 26	福島県老人福祉施設協議会 郡山市 ピッグパレットふくしま	復命書 職員会議にて発表
21	第30回ユマニチュード入門1日間コース	1. ユマニチュードの哲学　2. ユマニチュードの技法 3. 第3の誕生　4. ケア実践のための5つのステップ 5. 基本技術の紹介	作業療法士	中田英津美	元. 8. 28	(株)エクササイズ 郡山市 郡山市医療介護病院	復命書 職員会議にて発表
22	第30回ユマニチュード入門1日間コース	1. ユマニチュードの哲学　2. ユマニチュードの技法 3. 第3の誕生　4. ケア実践のための5つのステップ 5. 基本技術の紹介	介護員	神田照太	元. 8. 28	(株)エクササイズ 郡山市 郡山市医療介護病院	復命書 職員会議にて発表
23	令和元年度福祉職員キャリアパス対応 生涯研修課程チームリーダー研修	1日目 1. 基礎科目的講義と演習「チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理」 2. 基礎科目の講義と演習「福祉サービスの基本理念・倫理を推進する」 「チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成」 3. 重点科目の講義と演習「OJTの効果的推進、業務約・計画的職員指導・育成の展開」 講師：社会福祉法人うどい　八幡　嘉穂氏 2日目 4-1. 研究科目の講義と演習 4-2. 運営促進シート概要紹介 5. 行動指針マップの策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師：社会福祉法人つばさ福祉会　吉川　利彦氏	介護員	鈴木由紀	元. 9. 19 ～元. 9. 20	福島県社会福祉協議会 福島市 福島県社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表

順位	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
24	令和元年度福祉職員キャリア/《ス対応生涯研修課程チームリーダー研修》	1日目 1. 基礎科目の講義と演習「チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理」 2. 基礎科目の講義と演習「福祉サービスの基本理念・倫理を確立する」「チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成」 3. 重点科目的講義と演習「CUTの組織的経過、実証的・計画的職員指導・育成の実践」 講師 福島市社会福祉協議会 連絡 東氏 2日目 4-1. 審査料目の講義と演習 4-2. 研修促進シート相互通信 5. 行動指針マップの策定 6. キャリアデザインとアクションプランの策定 講師 福島県社会福祉事業団 八巻 正男氏	看護係長	三浦慶子	元. 9. 26 ~元. 9. 27	福島県社会福祉協議会 福島市 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
25	令和元年度福祉職員キャリア/《ス対応生涯研修課程管理職員研修》	1日目 1. 新規料目の講義と演習「管理職員としてのキャリアデザインと環境整備」 2. 管理料目の講義と演習「福祉サービスの基本理念・倫理を確立する」「組織・部門管理者としてのリーダーシップの醸成」 3. 重点料目の講義と演習「人材アセスメント」 2日目 4. 「審査料目の講義と演習」 5. 「行動指針の策定」 6. 「キャリアデザインとアクションプランの策定」 講師 株式会社エイティル研究所 田中 鋼也氏	介護副係長	江川正樹	元. 10. 10 ~元. 10. 11	福島県社会福祉協議会 福島市 福島県総合社会福祉センター	復命書 職員会議にて発表
26	スーパーステム・ソリューションセミナー	1. 病院、複数施設におけるステコンの基礎と応用に加え、活用ノウハウとその事例 2. 新技術を利用して介護機器の実演、メニュー提案、試食	調理員	清田菜穂	元. 10. 17	(株)マルゼン 新潟市 マルゼン新潟営業所	復命書
27	スーパーステム・ソリューションセミナー	1. 病院、複数施設におけるステコンの基礎と応用に加え、活用ノウハウとその事例 2. 新技術を利用して介護機器の実演、メニュー提案、試食	調理員	清野恵子	元. 10. 17	(株)マルゼン 新潟市 マルゼン新潟営業所	復命書
28	令和元年度給金担当職員研修会	講師「徹底支援者としての栄養部門の役割を考える～血管障害の予防に努める～」 グループワーク「徹底支援者として具体的にできることは？」 講師 中央病院看護部准看護士 小林山 富士子氏	栄養係長	石川真智子	元. 10. 24	福島県老人福祉施設協議会 郡山市 郡山ユラックス駒場	復命書 職員会議にて発表
29	令和元年度給食担当職員研修会	講師「徹底支援者としての栄養部門の役割を考える～血管障害の予防に努める～」 グループワーク「徹底支援者として具体的にできることは？」 講師 中央病院看護部准看護士 小林山 富士子氏	調理員	藤森ゆみ	元. 10. 24	福島県老人福祉施設協議会 郡山市 郡山ユラックス駒場	復命書 職員会議にて発表
30	高齢者虐待防止セミナー	講師「高齢者虐待防止法と虐待の実態について」 講師 社会福祉士 松本 嘉一氏 講師「介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取組みについて」 講師 社会福祉士 谷川 ひとみ氏	介護支援専門員 生活指導員	伊藤雅治	元. 11. 6	福島県 三春町 コミュニティ福島	復命書 職員会議にて発表
31	高齢者虐待防止セミナー	講師「高齢者虐待防止法と虐待の実態について」 講師 社会福祉士 松本 嘉一氏 講師「介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取組みについて」 講師 社会福祉士 谷川 ひとみ氏	介護員	伊勢進貴裕	元. 11. 8	福島県 三春町 コミュニティ福島	復命書 職員会議にて発表

順位	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
32	高齢者虐待防止セミナー	講演「高齢者虐待防止法と虐待の実態について」 講師 社会福祉士 松本 審一氏 講演「要介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取組みについて」 講師 社会福祉士 各川 ひとみ氏	介護員	佐川寿美	元. 11. 8	福島県 三春町 コミュタン福島	復命書 職員会議にて発表
33	県中地域栄養下ケア体制整備事業における食形態の標準化について	行政説明「県中地域栄養下ケア体制整備事業における食形態の標準化について」 講義「地下調理食学会分類2013の理解～自施設の食事基準に落とし込もう～」 講師 日本栄養士会 富崎 純一氏	栄養係長	石川萬智子	元. 11. 13	県中保健福祉事務所 郡山市 勤労青少年少年ホーム	復命書 職員会議にて発表
34	令和元年度社会福祉施設栄養士研修	講義「糖尿病歴納率から読み解く健康管理～見えてくる生活習慣～」 講義「糖尿病歴納率に応じた栄養ケアの実際～事例検討～」 講師 福島学院大学短期大学部 田村 雪奈美氏	栄養係長	石川萬智子	元. 11. 20	福島県社会福祉協議会 郡山市 ピッグバレットふくしま	復命書 職員会議にて発表
35	令和元度会津介護支援専門員協会 第2回研修会	映画「寄宿の小学校の物語」を観て、地域包括ケアを考える	介護支援専門員 准 生活相談員	伊藤純治	元. 11. 26	会津介護支援専門員協会 会津若松市 アビオスペース	復命書 職員会議にて発表
36	看護職員リフレッシュ研修	講義「看護職としてのキャリアデザインを考える」 講師 岡原記念病院 中本 黄佳子様 講ジスと開い歌手活動をしている小澤綾子さんのコンサート	准看護師	伊藤萬和子	元. 11. 29	福島県看護協会 福島市 福島県看護会館	復命書 職員会議にて発表
37	令和元度会津地域現状認定調査 従事者研修会	説明「介護保険運営状況等について」 会津保健福祉事務所 古川 光一氏 講義及びグループワーク「基本調査項目のポイント・特記事項記載のポイント等について」 講師 那山ソーシャルワーカーズオフィス 高田 光子氏	介護支援専門員 准 生活相談員	伊藤純治	元. 12. 19	会津保健福祉事務所 会津若松市 北会津公民館	復命書 職員会議にて発表
38	令和元度会津地区 老人福祉施設協議会施設部会 第1回テーマ別研修会	講演「私たちができる食支援」～利用者が最後まで美味しく食べるため～ 講師 竹田総合病院 佐藤 アキ子氏・伊藤 光子氏	看護師	疋島純子	2. 1. 31	会津地区老人福祉施設協議会 会津美里町 会津美里町役場	復命書 職員会議にて発表
39	令和元度会津地区 老人福祉施設協議会施設部会 第1回テーマ別研修会	講演「私たちができる食支援」～利用者が最後まで美味しく食べるため～ 講師 竹田総合病院 佐藤 アキ子氏・伊藤 光子氏	介護員	波部唯美	2. 1. 31	会津地区老人福祉施設協議会 会津美里町 会津美里町役場	復命書 職員会議にて発表
40	レク活動充実に向けての視察研修	おはよう体操の見学、みどりホームのレク活動についての説明	生活相談員	大田真紀	2. 2. 25	会津若松市 会津みどりホーム	復命書 職員会議にて発表
41	レク活動充実に向けての視察研修	おはよう体操の見学、みどりホームのレク活動についての説明	介護係長	波部唯美	2. 2. 25	会津若松市 会津みどりホーム	復命書 職員会議にて発表
42	レク活動充実に向けての視察研修	おはよう体操の見学、みどりホームのレク活動についての説明	介護員	石川裕	2. 2. 25	会津若松市 会津みどりホーム	復命書 職員会議にて発表

平成31年度 施設職員の研修状況(さゆりの園)

イ 施設内研修状況

研修名		研修内容	発表者・講師等	参加種別	参加人数	期日	研修結果の周知方法
施設内研修 (全職員対象)	1	腰痛予防(東洋医学のツボ刺激マッサージによる痛み軽減と予防)	株式会社 漢気堂 平賀貞也氏 (衛生委員会主催)	全職員(福祉会)	148名	R元. 10. 9 R元. 10. 16	資料全員配布
	2	産業保健研修 安全衛生委員会の役割	福島県産業保健総合支援センター 産業保健相談員 平子 光基 氏	衛生委員会	9名	R元. 7. 17	会議録
	3	コンプライアンス研修(さゆりの園利用契約書・重要事項説明書について)	介護支援専門員兼生活相談員 伊藤徳治	全職員	26名	R元. 5. 9	資料全員配布
	4	ボランティアについて	介護支援専門員兼生活相談員 伊藤徳治	全職員	25名	R元. 10. 3	資料全員配布
	5	高齢者虐待防止法の基本について	介護支援専門員兼生活相談員 伊藤徳治	全職員	25名	R元. 12. 5	資料全員配布
	6	新ターミナルケアマニュアルについて	介護支援専門員兼生活相談員 伊藤徳治	全職員	26名	R元. 11. 6	資料全員配布
	7	接遇の勉強会	OJT委員会(新澤文枝、瓜生 彰香)	全職員	24名	R元. 8. 5	資料全員配布
	8	ノロウイルス・インフルエンザウイルスの勉強会	感染対策委員会	全職員	53名	R元. 11. 22 R元. 11. 29	資料全員配布
	9	「精神長寿と免疫」について	会津ヤカルト 五十嵐敏博 (福祉会給食委員会主催)	全職員(福祉会)	16名	R元. 7. 24	資料全員配布
	10	どろみ剂の適切な使い方	ニュートリー(株) (福祉会給食委員会主催)	全職員(福祉会)	22名	R元. 9. 18	資料全員配布
	11	新規入職者への研修「身体拘束廃止に関する指針・虐待予防マニュアル」について	介護支援専門員 伊藤 徳治	中田高志氏、大八木晶子、吉川 隆氏、大野玲香、佐藤ちづる (新任職員)	5名	R元. 6. 21 R2.1.27 R2. 2. 19	資料全員配布
	12	「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」について	介護係長 江川 正樹 (身体拘束廃止・虐待防止検討委員会主催)	全職員	48名	R元. 8. 22 R元. 9. 5 R元. 11. 14	資料全員配布
	13	「施設で起こりやすい虐待とその予防」について	施設部 作田 公子 生活相談員 大田 真記 (身体拘束廃止・虐待防止検討委員会主催)	全職員	48名	R2. 2. 18 R2. 3. 5 R2. 3. 24	資料全員配布
	14	「介護事故発生時対応マニュアル」の読み合わせ	事故予防対策委員会	全職員	26名	R元. 12. 5	マニュアル確認
	15	消防設備の説明	防火管理車両除雪委員会 (神田翔太)	新人職員	2名	H31.4.25	資料全員配布
	16	夜間想定合同避難訓練	防火管理車両除雪委員会 (神田翔太、佐藤康弘)	介護員	4名	R元. 7. 19	資料全員配布
	17	発電機及び蓄電器の使用方法の説明	防火管理車両除雪委員会 (神田翔太)	介護員	5名	R元. 7. 26	資料全員配布
	18	消防訓練(消火器、消火栓による放水)	防火管理車両除雪委員会 (神田翔太、佐藤康弘)	介護員	10名	R元. 8. 22 R元. 9. 21	資料全員配布

施設内研修 (直接処遇職員対象)	1	令和元年度「施設サービス自己評価」の改善点と実践の為の検討会	OJT委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	17名	R2.3.17	検討会議録
	2	手洗いの勉強会	感染対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	17名	R元. 8. 22	資料全員配布
	3	ポジショニングの基礎	(株)ケープ 高野 悅 氏 (認定介護入浴改善委員会主催)	ケアスタッフ会議 メンバー	21名	R元. 7. 18	資料全員配布
	4	公用車の使用方法等の説明会	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	26名	R元. 6. 7 R元. 6. 10	実技
	5	排泄ケアについて（新しいおむつの使用方法）	白十字(株) 横本 氏 (認定介護入浴改善委員会主催)	ケアスタッフ会議 メンバー	29名	R元. 11. 15 R元. 11. 25	資料全員配布
	6	「介護事故予防マニュアル」の読み合わせ	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	20名	R元. 10. 17	マニュアル確認
	7	センサーマット等の勉強会	事故予防対策委員会	ケアスタッフ会議 メンバー	17名	R元. 10. 17	資料全員配布
栄養部門研修	1	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	H31.4.22	資料全員配布
	2	手指の洗浄方法の確認		管理栄養士 調理員	9名	H31.4.22	実技
	3	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	10名	R元. 6. 24	資料全員配布
	4	接遇について	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R元. 8. 26	資料全員配布
	5	危険予知トレーニング	管理栄養士 石川美智子 管理栄養士 佐藤明日香	管理栄養士 調理員	10名	R元. 9. 30	資料全員配布
	6	インフルエンザ・ノロウイルス予防について	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R元. 10. 26	資料全員配布
	7	嘔吐時の対応方法について	管理栄養士 石川美智子	管理栄養士 調理員	9名	R元. 11. 26	実技
	8	厨房内細菌臨床検査結果に基づく改善指導	福島衛生検査所 安達 亨 氏	管理栄養士 調理員	9名	R2.2.10	資料全員配布
ケア連携委員会	1	看護による経管栄養、口腔内吸引の手技確認	看護職員 (三浦康子、登島純子)	介護員	小会議録 R元. 7月・11月	R元. 7月・11月	資料全員配布
	2	普通救命講習	・西会津消防署等 ・応急手当普及委員会	介護員		R元. 6月・11月	心肺蘇生訓練 実施

平成31年度 行事食一覧表

特別養護老人ホームさゆりの園

実施日			行事食名	行事食内容		実施日			行事食名	行事食内容	
平成31年 令和元年	4月	① 18日	お花見御膳	春のちらし寿司 吸い物(季まり鮨) 炊き合わせ 揚げだし豆腐の梅だれかけ いちごゼリー		令和元年	④ 14日	体育の日	しめじ御飯 お月見汁 魚の番り漬け 五目豆		
		② 27日	副菜選択デー	すんだ和え フルーツカスクード和え			⑤ 16日	秋の味覚寿膳	御飯 豚汁 卵紅葉蒸し 青菜と荀の胡桃和え 柿		
		③ 29日	昭和の日	赤飯 なめこ汁 エビフライ 胡瓜の酢の物			⑥ 29日	副菜選択デー	ほうれん草の胡桃和え 揚げ芋の海老あんかけ		
	5月	④ 1日	天皇即位の日	ご飯 小づゆ 魚の煮付け クルミの白和え			⑦ 3日	文化の日	豚飯 小づゆ 炊き合わせ ブロッゴリーの梅かつお和え		
		⑤ 3日	憲法記念日	赤飯 味噌汁(豆腐) 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め			⑧ 18日	新そば会	新そば かき揚げ りんごのコンポート 漬物		
		⑥ 4日	みどりの日	焼肉ビーフカレー 味噌汁(大根) インゲンと帆立の煮物			⑨ 28日	副菜選択デー	ツナサラダ 新ごぼうの味噌煮		
		⑦ 5日	こどもの日	春の炊らし寿司 あさりの潮汁 ポテトサラダ こどもの日ポンチ			⑩ 24日	クリスマス献立	クリスマス炊らし寿司 道根のすり流し汁 チキン豆腐 団子 手サラダ		
		⑧ 15日	お田植え御膳	しそ味噌のおにぎり 味噌汁(じゃが芋とうりい) 春の天ぷら 天つゆ わらびのナムル			⑪ 27日	副菜選択デー	春菊の白和え 南瓜のミルク煮		
	6月	⑨ 27日	副菜選択デー	アスパラのゆず味噌かけ 豚と春キャベツのグラタン			⑫ 31日	大晦日	年越しそば かき揚げ インゲンの胡麻味噌和え		
		⑩ 3日	さなづり御膳	寿司(鮒・白身・帆立・太巻き) 吸い物(花鮨) 鮭の燻えびブリッター 小さくうどんの油炒め 和菓子風ムースヨモギ		令和2年	⑬ 1日	お盆月特別御膳	銀鱈の照り煮 伊達巻 筑前煮 炊らし寿司 雑煮盛 煮物 さんどん 豚汁 紅白なます おたふく豆 鮭の照り焼き 精進揚げ 野菜のモミ味噌和え 五目煮しめ たたき牛蒡 三日とろろ 七福神イモ雑煮 鮭なます 豚肉の南蛮煮 春雨の酢の物		
		⑪ 20日	副菜選択デー	ナスのおりし煮 トマトとワカメの胡麻サラダ			⑭ 15日	小正月御膳	三色おはぎ 小づゆ 柿たらの甘露煮 数の子豆 いご		
	7月	⑫ 8日	七夕御膳	冷やしうめん 美味 精進揚げ 奴豆腐 七夕ポンチ			⑮ 25日	副菜選択デー	カリフラワーサラダ ヤーコンのすんだ和え		
		⑬ 15日	海の日	ご飯 豚汁 魚の胡麻味噌焼き マカロニサラダ			⑯ 3日	節分御膳	大豆御飯 ざくざく 天ぷら盛 ほうれん草の胡桃和え		
		⑭ 24日	副菜選択デー	ごぼうサラダ ナスのミートグラタン			⑰ 11日	建国記念日	赤飯 小づゆ 魚の味噌煮 ゼンマイと油揚げの煮付け		
		⑮ 27日	土用の丑の日	うな丼 吸い物(花鮨) 胡瓜もみ 桜漬け大根			⑱ 26日	副菜選択デー	さつま芋サラダ さつま芋とナスのカレー煮		
8月	8月	⑯ 9日	薬膳献立	十五穀米御飯 豆と根菜のスープ 鮒と小松菜の生姜炒め 春菊とのりの白和え			⑲ 3日	ひな祭り御膳	ひな祭り寿司 吸い物(花鮨) 煮魚 菜花のお浸し 和菓子風		
		⑰ 13日	盆入り	御飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ クルミの白和え あわせせるゼリー(桃)			⑳ 17日	彼岸入り	三色おはぎ 小づゆ 魚の生姜煮 鶏ササミのマリネ		
		⑱ 15日	終戦記念日	赤飯 小づゆ 煮魚 揚げ出し豆腐の枝豆あん			㉑ 20日	お中日	赤飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ 味噌マヨサラダ		
		⑲ 30日	副菜選択デー	冬瓜の帆立あんかけ 冬瓜の梅和え			㉒ 23日	彼岸明け	いなり寿司 吸い物(うど) 五目煮しめ 野菜の白和え		
	9月	㉐ 21日	お盆入り御膳	三色おはぎ 小づゆ 魚の酒粕焼き 冬瓜の蟹あんかけ			㉓ 31日	副菜選択デー	大根のマヨネーズ和え 大根と蟹の(ず煮)		
		㉑ 23日	お中日	赤飯 かき卵汁 ブリの照り焼き えのきの御しあと		行 事 食	31回				
		㉒ 26日	彼岸明け	いなり寿司 小づゆ 肉と野菜の旨煮 柿の白和え			副菜選択食			12回	
		㉓ 30日	副菜選択デー	秋野菜のかき揚げ 秋ナスのナムル							

平成31年度 給食実績年計表

特別養護老人ホーム さゆりの園

	1ヶ月	1食平均	1か月	1人1日平均	基準栄養	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	炭水化物 g	カルシウム mg	鉄 mg	カロテン ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg	塩分 g
	食数	食数	購入金額(円)	食材料費(円)	1食単価(円)											
平成31年 4月	(入所)4,183 (S S)1,482	(入所)46 (S S)16	(入所)1,194,118 (S S)338,243	(入所)751 (S S)751	(入所)323	1,475	59.8	35.9	207.6	575	12.0	4,019	253	1.02	87	7.20
令和元年 5月	(入所)4,337 (S S)1,443	(入所)47 (S S)16	(入所)1,206,086 (S S)326,016	(入所)743 (S S)743	(入所)233	1,482	58.4	35.7	211.0	580	12.1	4,320	251	1.02	85	7.30
6月	(入所)4,369 (S S)1,219	(入所)48 (S S)14	(入所)1,056,903 (S S)248,052	(入所)679 (S S)688	(入所)281	1,486	57.4	37.3	211.0	588	11.8	3,844	254	1.00	94	7.40
7月	(入所)4,476 (S S)1,289	(入所)48 (S S)14	(入所)1,233,171 (S S)299,831	(入所)759 (S S)759	(入所)290	1,484	57.6	36.2	210.3	582	12.1	4,366	256	1.06	86	7.00
8月	(入所)4,475 (S S)1,417	(入所)48 (S S)15	(入所)1,177,022 (S S)306,408	(入所)714 (S S)714	(入所)240	1,491	58.6	36.5	208.3	602	11.8	4,085	260	1.03	89	7.20
9月	(入所)4,428 (S S)1,408	(入所)49 (S S)16	(入所)1,144,016 (S S)297,574	(入所)696 (S S)696	(入所)308	1,487	59.1	36.9	210.0	577	11.8	4,325	250	10.60	90	7.40
10月	(入所)4,596 (S S)1,389	(入所)49 (S S)15	(入所)1,147,557 (S S)286,438	(入所)640 (S S)640	(入所)208	1,494	59.6	32.9	212.0	609	11.8	4,789	249	1.11	91	7.30
11月	(入所)4,442 (S S)1,416	(入所)49 (S S)16	(入所)1,163,645 (S S)302,424	(入所)701 (S S)711	(入所)226	1,515	59.8	38.3	211.6	584	11.9	4,509	255	1.53	91	7.30
12月	(入所)4,597 (S S)1,459	(入所)49 (S S)16	(入所)1,235,036 (S S)320,813	(入所)711 (S S)711	(入所)265	1,504	58.7	38.3	213.2	602	12.4	4,391	255	1.09	87	7.60
令和2年 1月	(入所)4,429 (S S)1,498	(入所)48 (S S)16	(入所)1,225,865 (S S)327,006	(入所)713 (S S)713	(入所)267	1,511	58.6	37.1	216.4	689	12.1	4,611	262	0.99	89	7.40
2月	(入所)4,331 (S S)1,391	(入所)50 (S S)16	(入所)1,155,320 (S S)298,205	(入所)704 (S S)704	(入所)133	1,503	59.5	37.0	216.9	599	11.8	4,825	249	1.03	92	7.00
3月	(入所)4,613 (S S)1,531	(入所)50 (S S)16	(入所)1,196,860 (S S)317,696	(入所)680 (S S)680	(入所)257	1,507	58.6	36.9	218.3	600	12.1	3,997	250	1.10	87	7.20
合計	(入所)53,260 (S S)16,942	(入所)48食 (S S)16食	(入所)14,136,598 (S S)3,668,706	(入所)3,031	(入所)253円 (S S)709円	17,939	706.6	438.0	2646.6	7,087	143.7	52,081	30.24	22.58	1,068	87.30
基 標																
平均																
(入所)4,438食	(入所)48食	(入所)11,779,665円	(入所)706円	(入所)253円		1,400	50.5	36.0	200.0	600	10.0		120	1.00	100	8.00
(S S)16,942食	(S S)16食	(S S)305,725円	(S S)709円			1,495	58.8	36.5	212.2	591	12.0	4,340	262	1.88	89	7.25

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：特別養護老人ホームさゆりの園

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

平成31年度
さゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業報告書

< 事業概況 >

平成31年度は、介護保険法及びさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規程に基づき、利用者の身体状況又は認知症の重度化が著しい状況において、施設利用中も安心して、その方らしい生活を営むことができるよう事業を展開してきた。

利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、担当介護支援専門員、他サービス提供事業者等から心身状況に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向を十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めた。また、居宅介護支援事業所の開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つの在宅サービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう援助してきた。

しかし、令和2年1月には、施設内でインフルエンザ感染が発生し、入所者、ショートステイ利用者数名が罹患。利用者、家族はもとより各関係機関にも多大なる迷惑と心配を掛けてしまった。

その後も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国で緊急事態宣言が発令され、高齢者施設における集団感染抑止を徹底する目的から、2月末より施設内への入館制限、面会制限等の感染予防策を講じ、外部との接触を可能な限り遮断し安全確保に努めている状況である。

< 重点目標についての評価 >

1. 利用者の自己実現(QOLの質)を大事にするケア、関わりの向上

①相談

利用者一人ひとりが望むことや心地よく過ごせる習慣等に目を向け、多職種と話合いながら日々のケアに反映させることができた。又、レクリエーション内容の充実では、趣味活動の見出しに繋ぐことができたが、一人一人を大切にした取り組みとなると、まだまだ十分とは言えない状況である。

②介護

利用者のニーズや個性に合わせたレクリエーション活動等への取り組みを企画し、徐々に実践できる体制を構築している。年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、余暇活動についてどのような取り組みをしているのかを学び、当施設での余暇活動プログラムを見直す機会を得ることができた。又、利用者が季節を感じるように施設内の装飾を工夫することができた。

③看護

入所中の生活だけではなく、利用者を取り巻く背景や家族等との関わりを踏まえながら、利用者の思いや意向、感じている不安などを理解し、寄り添う取り組みについて看護スタッフ間で話し合い実践してきた。

④機能訓練

週2回の集団体操は行っているが、利用者のレベルに合わせたグループ編成やプログラム立案は未実施である。集団体操が可能な利用者には参加を促しているため、参加人数が増加し活気ある活動となっている。今後は、利用者の状態やニーズに合わせたグループ編成を行い、評価していくことで改善点等が見えてくるため、まずは行動に移していきたい。

⑤栄養

利用者の食の楽しみ、口から食べることへの取り組みとして、最適な嚥下食が提供できるよう「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類に従った嚥下ピラミッド表」を作成している。まだ完成には至っていないが、研修会に参加し様々なヒントを得ることができた。

2. 「信頼」を得るための接遇力の向上と意識化

①相談

OJT 委員会を中心に「接遇」に関する取り組みを実施。アンケートでさゆりの園の現段階の接遇面について課題分析し、その結果から改善目標を設定したものを朝の申し送りで唱和することで職員個人の意識化を図ってきた。

②介護

職員によって接遇力にばらつきがあり、OJT も十分とは言えないが、勉強会や研修会に参加することで、職員一人一人が意識できるようになった。

③看護

接遇に関する外部研修への参加はなかったが、施設内研修や OJT の中で、お互いに注意し合いながら意識向上に努めた。

④機能訓練

接遇の研修会への参加はなかったが、施設内で接遇の勉強会に参加した。他の研修でも学んだ内容に利用者への接し方など、接遇に生かせる点も多々あり、研修後はさらに意識しながら業務にあたることができた。

⑤栄養

栄養係の中でも、独自に接遇の勉強会を実施した。接遇のポイントについて学んだが、利用者や他職種とのコミュニケーション不足や正しい言葉遣いが十分とは言えない状況があった。

3. 職員の人材育成と働きがいのある風土づくり

①相談

OJT 委員会を中心にキャリアパス作成を推進し、目標や目的意識をもって職務遂行してきた。又、PDCAに基づき、年度途中で進捗評価を実施し、随時振り返りや上司からの助言をいただくことで、モチベーションアップに繋げることができた。

②介護

職員への定期的な個別面談を計画的に実施することができなかつた。又、日頃の OJT ではお互いに注意し合い、認め合うような環境作りが十分とは言えないため、係長や副係長を中心に日頃からの OJT の実践を意識していく必要がある。

③看護

各自キャリアプランを作成し、専門職としての働き方をプランに組み込み実践することができなかつた。又、日頃からの OJT については、お互いに声を掛け合いながら啓発することができた。

④機能訓練

他職種とのコミュニケーションや情報交換・共有については、以前より図れるようになつた。機能訓練に対する意見を話せるような関係づくりについては、課題はあるが、今後も他職種とのコミュニケーションを図り、さらに良い関係性を築いていくよう取り組んでいく必要がある。

⑥栄養

給食管理業務については日々の献立作成に追われ、献立作成方法の一連の流れの指導を実施できなかったが、発注作業においては集計から各業者への発注までを任せられるようになった。病態栄養の指導は特に実践できなかったが、研修会参加や休日を利用した外部の専門研修と共に参加し、共通理解ができたと思う。

4. 職員の専門性向上

①相談

研修会等には参加できなかったが、年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、施設の中だけでは得られない様々な視点を吸収することができた。

②介護

介護福祉士、介護支援専門員資格取得を目指していたが、合格者はいなかった。

日常の利用者や家族との関わりの中で苦情や要望を受け付ける機会はあるが、苦情解決に向けての研修会への参加はできなかった。又、外部研修等の参加により、様々な視点を吸収することができ、利用者処遇に活かすことができた。

③看護

研修会への参加を計画していたが実施することができなかった。終末期ケアでは、個人の状況は違うが、多職種と連携し、情報共有しながらケアすることができた。

④機能訓練

研修会に参加する機会はなかったが、福祉用具の使用方法等で日々疑問に感じていたことを改善することができた。しかし、他職員へ助言をするためにはまだ知識不足だと感じるため、適切な助言ができるよう学びの機会を持つ必要がある。又、認知症ケアの一つであるユマニチュード研修会に参加し、認知症ケアの専門的見地を学ぶことができた。

⑤栄養

外部研修には積極的に参加し、病態に合わせた栄養管理や法改正による最新情報等について知識を得ることができ、栄養マネジメントに活かすことができた。又、今年度は調理員も知識や経験に合わせた外部研修に積極的に参加できた。

平成31年度

さゆりの園ショートステイ指定介護予防短期入所生活介護事業報告書

< 事業概況 >

平成31年度は、要支援者に対して個々の目標に合わせ、その有する能力に応じ、安心してその方らしい自立した日常生活を営むことができるよう、介護予防短期入所生活事業を開催してきた。利用者にサービスを提供するにあたっては、家族、地域包括支援センター、他サービス提供事業所等から心身状況等に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向も十分に伺い予防短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごしていただけるよう、統一した介護サービスの提供に努めた。また、地域包括支援センターの開催するサービス担当者会議に積極的に参加することにより、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つのサービス機関として、施設サービス提供内容の充実、又在宅での生活が安心して営めるよう援助してきた。

しかし、令和2年1月には、施設内でインフルエンザ感染が発生し、入所者、ショートステイ利用者数名が罹患。利用者、家族はもとより各関係機関にも多大なる迷惑と心配を掛けてしまった。

その後も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国で緊急事態宣言が発令され、高齢者施設における集団感染抑止を徹底する目的から、2月末より施設内への入館制限、面会制限等の感染予防策を講じ、外部との接触を可能な限り遮断し安全確保に努めている状況である。

< 重点目標についての評価 >

1. 利用者の自己実現(QOLの質)を大事にするケア、関わりの向上

①相談

利用者一人ひとりが望むことや心地よく過ごせる習慣等に目を向け、多職種と話し合いながら日々のケアに反映させることができた。又、レクリエーション内容の充実では、趣味活動の見出しに繋ぐことができたが、一人一人を大切にした取り組みとなると、まだまだ十分とは言えない状況である。

②介護

利用者のニーズや個性に合わせたレクリエーション活動等への取り組みを企画し、徐々に実践できる体制を構築している。年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、余暇活動についてどのような取り組みをしているのかを学び、当施設での余暇活動プログラムを見直す機会を得ることができた。又、利用者が季節を感じるように施設内の装飾を工夫することができた。

③看護

入所中の生活だけではなく、利用者を取り巻く背景や家族等との関わりを踏まえながら、利用者の思いや意向、感じている不安などを理解し、寄り添う取り組みについて看護スタッフ間で話し合い実践してきた。

④機能訓練

週2回の集団体操は行っているが、利用者のレベルに合わせたグループ編成やプログラム立案は未実施である。集団体操が可能な利用者には参加を促しているため、参加人数が増加し活気ある活動となっている。今後は、利用者の状態やニーズに合わせたグループ編成を行い、評価していくことで改善点等が見えてくるため、まずは行動に移していきたい。

⑤栄養

利用者の食の楽しみ、口から食べることへの取り組みとして、最適な嚥下食が提供できるよう「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類に従った嚥下ピラミッド表」を作成している。まだ完成には至っていないが、研修会に参加し様々なヒントを得ることができた。

2. 「信頼」を得るために接遇力の向上と意識化

①相談

OJT 委員会を中心に「接遇」に関する取り組みを実施。アンケートでさゆりの園の現段階の接遇面について課題分析し、その結果から改善目標を設定したものを朝の申し送りで唱和することで職員個人の意識化を図ってきた。

②介護

職員によって接遇力にばらつきがあり、OJT も十分とは言えないが、勉強会や研修会に参加することで、職員一人一人が意識できるようになった。

③看護

接遇に関する外部研修への参加はなかったが、施設内研修や OJT の中で、お互いに注意し合いながら意識向上に努めた。

④機能訓練

接遇の研修会への参加はなかったが、施設内で接遇の勉強会に参加した。他の研修でも学んだ内容に利用者への接し方など、接遇に生かせる点も多々あり、研修後はさらに意識しながら業務にあたることができた。

⑤栄養

栄養係の中でも、独自に接遇の勉強会を実施した。接遇のポイントについて学んだが、利用者や他職種とのコミュニケーション不足や正しい言葉遣いが十分とは言えない状況があった。

3. 職員の人材育成と働きがいのある風土づくり

①相談

OJT 委員会を中心にキャリアパス作成を推進し、目標や目的意識をもって職務遂行してきた。又、PDCAに基づき、年度途中で進捗評価を実施し、随時振り返りや上司からの助言をいただくことで、モチベーションアップに繋げることができた。

②介護

職員への定期的な個別面談を計画的に実施することができなかった。又、日頃の OJT ではお互いに注意し合い、認め合うような環境作りが十分とは言えないため、係長や副係長を中心に日頃からの OJT の実践を意識していく必要がある。

③看護

各自キャリアプランを作成し、専門職としての働き方をプランに組み込み実践することができなかった。又、日頃からの OJT については、お互いに声を掛け合いながら啓発することができた。

④機能訓練

他職種とのコミュニケーションや情報交換・共有については、以前より図れるようになった。機能訓練に対する意見を話せるような関係づくりについては、課題はあるが、今後も他職種とのコミュニケーションを図り、さらに良い関係性を築いていくよう取り組んでいく必要がある。

⑤栄養

給食管理業務については日々の献立作成に追われ、献立作成方法の一連の流れの指導を実施できなかったが、発注作業においては集計から各業者への発注までを任せられるようになった。病態栄養の指導は特に実践できなかったが、研修会参加や休日を利用した外部の専門研修と共に参加し、共通理解ができたと思う。

4. 職員の専門性向上

①相談

研修会等には参加できなかったが、年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、施設の中だけでは得られない様々な視点を吸収することができた。

②介護

介護福祉士、介護支援専門員資格取得を目指していたが、合格者はいなかった。日常の利用者や家族との関わりの中で苦情や要望を受け付ける機会はあるが、苦情解決に向けての研修会への参加はできなかった。又、外部研修等の参加により、様々な視点を吸収することができ、利用者処遇に活かすことができた。

③看護

研修会への参加を計画していたが実施することができなかった。終末期ケアでは、個人の状況は違うが、多職種と連携し、情報共有しながらケアすることができた。

④機能訓練

研修会に参加する機会はなかったが、福祉用具の使用方法等で日々疑問に感じていたことを改善することができた。しかし、他職員へ助言をするためにはまだ知識不足だと感じるため、適切な助言ができるよう学びの機会を持つ必要がある。又、認知症ケアの一つであるユマニチュード研修会に参加し、認知症ケアの専門的見地を学ぶことができた。

⑤栄養

外部研修には積極的に参加し、病態に合わせた栄養管理や法改正による最新情報等について知識を得ることができ、栄養マネジメントに活かすことができた。又、今年度は調理員も知識や経験に合わせた外部研修に積極的に参加できた。

< 事業概要 >

平成31年度は、障害者総合支援法とさゆりの園ショートステイ指定短期入所生活介護事業所運営規程に基づき、身体障害者の方の心身状態とその有する能力に応じ、主体性と自立性を持ってその方らしい日常生活が営めるよう、個々に合わせた介護の提供と、サービス内容の充実と向上を目指し障害福祉サービス短期入所事業を行ってきた。また、家族、担当相談支援専門員、他サービス提供事業所等から心身状況等に関する情報を得、施設や在宅での生活に対する意向も十分に伺い短期入所サービス計画を作成し、利用中安心して過ごして頂けるよう、統一した介護サービスの提供に努めた。また、関連機関との連携を密にし、利用者を支援する一つのサービス機関として、施設サービス提供内容の充実、また在宅での生活が安心して営めるよう援助してきた。

しかし、令和2年1月には、施設内でインフルエンザ感染が発生し、入所者、ショートステイ利用者数名が罹患。利用者、家族はもとより各関係機関にも多大なる迷惑と心配を掛けてしまった。

その後も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国で緊急事態宣言が発令され、高齢者施設における集団感染抑止を徹底する目的から、2月末より施設内への入館制限、面会制限等の感染予防策を講じ、外部との接触を可能な限り遮断し安全確保に努めている状況である。

< 重点目標についての評価 >

1. 利用者の自己実現(QOLの質)を大事にするケア、関わりの向上

①相談

利用者一人ひとりが望むことや心地よく過ごせる習慣等に目を向け、多職種と話合いながら日々のケアに反映させることができた。又、レクリエーション内容の充実では、趣味活動の見出しに繋ぐことができたが、一人一人を大切にした取り組みとなると、まだまだ十分とは言えない状況である。

②介護

利用者のニーズや個性に合わせたレクリエーション活動等への取り組みを企画し、徐々に実践できる体制を構築している。年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、余暇活動についてどのような取り組みをしているのかを学び、当施設での余暇活動プログラムを見直す機会を得ることができた。又、利用者が季節を感じることができるように施設内の装飾を工夫することができた。

③看護

入所中の生活だけではなく、利用者を取り巻く背景や家族等との関わりを踏まえながら、利用者の思いや意向、感じている不安などを理解し、寄り添う取り組みについて看護スタッフ間で話し合い実践してきた。

④機能訓練

週2回の集団体操は行っているが、利用者のレベルに合わせたグループ編成やプログラム立案は未実施である。集団体操が可能な利用者には参加を促しているため、参加人数が増加し活気ある活動となっている。今後は、利用者の状態やニーズに合わせたグループ編成を行い、評価していくことで改善点等が見えてくるため、まずは行動に移していきたい。

⑤栄養

利用者の食の楽しみ、口から食べることへの取り組みとして、最適な嚥下食が提供できるよう「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類に従った嚥下ピラミッド表」を作成している。まだ完成には至っていないが、研修会に参加し様々なヒントを得ることができた。

2. 「信頼」を得るための接遇力の向上と意識化

①相談

OJT 委員会を中心に「接遇」に関する取り組みを実施。アンケートでさゆりの園の現段階の接遇面について課題分析し、その結果から改善目標を設定したものを朝の申し送りで啓和することで職員個人の意識化を図ってきた。

②介護

職員によって接遇力にばらつきがあり、OJT も十分とは言えないが、勉強会や研修会に参加することで、職員一人一人が意識できるようになった。

③看護

接遇に関する外部研修への参加はなかったが、施設内研修や OJT の中で、お互いに注意し合いながら意識向上に努めた。

④機能訓練

接遇の研修会への参加はなかったが、施設内で接遇の勉強会に参加した。他の研修でも学んだ内容に利用者への接し方など、接遇に生かせる点も多々あり、研修後はさらに意識しながら業務にあたることができた。

⑤栄養

栄養係の中でも、独自に接遇の勉強会を実施した。接遇のポイントについて学んだが、利用者や他職種とのコミュニケーション不足や正しい言葉遣いが十分とは言えない状況があった。

3. 職員の人材育成と働きがいのある風土づくり

①相談

OJT 委員会を中心にキャリアパス作成を推進し、目標や目的意識をもって職務遂行してきた。又、PDCAに基づき、年度途中で進捗評価を実施し、随時振り返りや上司からの助言をいただくことで、モチベーションアップに繋げることができた。

②介護

職員への定期的な個別面談を計画的に実施することができなかった。又、日頃の OJT ではお互いに注意し合い、認め合うような環境作りが十分とは言えないため、係長や副係長を中心に日頃からの OJT の実践を意識していく必要がある。

③看護

各自キャリアプランを作成し、専門職としての働き方をプランに組み込み実践することができなかった。又、日頃からの OJT については、お互いに声を掛け合いながら啓発することができた。

④機能訓練

他職種とのコミュニケーションや情報交換・共有については、以前より図れるようになつた。機能訓練に対する意見を話せるような関係づくりについては、課題はあるが、今後も他職種とのコミュニケーションを図り、さらに良い関係性を築いていくよう取り組んでいく必要がある。

⑥栄養

給食管理業務については日々の献立作成に追われ、献立作成方法の一連の流れの指導を実施できなかったが、発注作業においては集計から各業者への発注まで任せられるようになつた。病態栄養の指導は特に実践できなかつたが、研修会参加や休日を利用した外部の専門研修と共に参加し、共通理解ができたと思う。

4. 職員の専門性向上

①相談

研修会等には参加できなかつたが、年度末には他の先進施設へ視察研修に出向き、施設の中だけでは得られない様々な視点を吸収することができた。

②介護

介護福祉士、介護支援専門員資格取得を目指していたが、合格者はいなかつた。日常の利用者や家族との間わりの中で苦情や要望を受け付ける機会はあるが、苦情解決に向けての研修会への参加はできなかつた。又、外部研修等の参加により、様々な視点を吸収することができ、利用者処遇に活かすことができた。

③看護

研修会への参加を計画していたが実施することができなかつた。終末期ケアでは、個人の状況は違うが、多職種と連携し、情報共有しながらケアすることができた。

④機能訓練

研修会に参加する機会はなかつたが、福祉用具の使用方法等で日々疑問に感じていたことを改善することができた。しかし、他職員へ助言をするためにはまだ知識不足だと感じるため、適切な助言ができるよう学びの機会を持つ必要がある。

⑤栄養

外部研修には積極的に参加し、病態に合わせた栄養管理や法改正による最新情報等について知識を得ることができ、栄養マネジメントに活かすことができた。又、今年度は調理員も知識や経験に合わせた外部研修に積極的に参加できた。

平成31年度SS利用者要介護度別の実人数及び延べ人数

		要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	その他 (障害・独立 支援)	合計
4月	実人数	1	0	10	10	12	11	4	5	53
	延べ人数	3	0	91	96	114	175	66	29	574
5月	実人数	2	0	11	12	13	11	2	5	56
	延べ人数	3	0	90	141	119	160	39	34	586
6月	実人数	1	0	13	15	10	8	2	6	55
	延べ人数	2	0	81	140	103	129	6	40	501
7月	実人数	1	0	11	12	11	8	1	6	50
	延べ人数	2	0	84	144	155	110	3	44	542
8月	実人数	2	0	12	11	12	8	0	5	50
	延べ人数	5	0	94	139	158	131	0	40	567
9月	実人数	1	0	13	13	11	11	1	5	55
	延べ人数	2	0	101	168	102	142	13	52	580
10月	実人数	2	0	10	13	9	8	2	6	50
	延べ人数	6	0	114	146	110	137	31	43	587
11月	実人数	1	0	13	11	11	9	2	6	53
	延べ人数	3	0	119	128	135	118	26	48	577
12月	実人数	3	0	15	11	8	8	2	6	53
	延べ人数	11	0	145	141	100	134	32	40	603
1月	実人数	0	0	13	9	8	6	2	5	43
	延べ人数	0	0	126	133	122	108	50	48	587
2月	実人数	2	0	13	13	9	5	3	6	51
	延べ人数	7	0	127	138	115	73	53	37	550
3月	実人数	1	0	14	12	9	5	4	5	50
	延べ人数	3	0	150	172	111	68	58	37	599
合計	実人数	17	0	148	142	123	124	55	66	619
	延べ人数	47	0	1322	1686	1444	1485	377	492	6853

平成31年度 さゆりの園ショートステイ利用状況

《予防給付》

利用市町村(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人數
4月	1	3	0.1
5月	2	3	0.1
6月	1	2	0.1
7月	1	2	0.1
8月	2	5	0.2
9月	1	2	0.1
10月	2	6	0.2
11月	1	3	0.1
12月	3	11	0.4
1月	0	0	0
2月	2	7	0.2
3月	1	3	0.1
合計	17	47	年平均：0.1人

《介護給付》

利用市町村(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人數
4月	47	542	18
5月	49	549	18
6月	48	459	15.3
7月	43	496	16
8月	43	522	17
9月	49	526	17.5
10月	42	538	17.3
11月	46	526	17.5
12月	44	552	17.8
1月	38	539	17.3
2月	43	508	17.4
3月	44	559	18
合計	536	6,314	年平均：17.2人

《障害福祉サービス》

利用状況(西会津町・喜多方市)

月	利用実人数(人)	利用延人数	1日平均人數
4月	5	29	1
5月	5	34	1.1
6月	6	40	1.3
7月	6	44	1.4
8月	5	40	1.3
9月	5	52	1.7
10月	6	43	1.4
11月	6	48	1.6
12月	6	40	1.3
1月	5	48	1.5
2月	6	37	1.3
3月	5	37	1.2
合計	66	492	1.3

平成31年度さゆりの園ショートステイ市町村別利用状況

《予防給付》

月	西会津町		喜多方市								全体	
	実人数(人)	延日数(日)										
4月	1	3	0	0							1	3
5月	2	3	0	0							2	3
6月	1	2	0	0							1	2
7月	1	2	0	0							1	2
8月	2	5	0	0							2	5
9月	1	2	0	0							1	2
10月	2	6	0	0							2	6
11月	1	3	0	0							1	3
12月	3	11	0	0							3	11
1月	0	0	0	0							0	0
2月	2	7	0	0							2	7
3月	1	3	0	0							1	3
合計	17	47	0	0							17	47

《介護給付》

月	西会津町		喜多方市								全体	
	実人数(人)	延日数(日)										
4月	47	542	0	0							47	542
5月	49	549	0	0							49	549
6月	48	459	0	0							48	459
7月	43	496	0	0							43	496
8月	43	522	0	0							43	522
9月	49	526	0	0							49	526
10月	42	538	0	0							42	538
11月	46	526	0	0							46	526
12月	44	552	0	0							44	552
1月	38	539	0	0							38	539
2月	43	506	0	0							43	506
3月	44	559	0	0							44	559
合計	536	6314	0	0							536	6314

《障害福祉サービス》

月	西会津町		喜多方市								全体	
	実人数(人)	延日数(日)										
4月	3	19	2	10							5	29
5月	2	17	3	17							5	34
6月	4	28	2	12							6	40
7月	3	27	3	17							6	44
8月	2	28	3	12							5	40
9月	3	38	2	14							5	52
10月	3	23	3	20							6	43
11月	3	28	3	20							6	48
12月	3	23	3	17							6	40
1月	2	16	3	32							5	48
2月	3	22	3	15							6	37
3月	2	23	3	14							5	37
合計	33	292	33	200							66	492

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園ショートステイ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	2	0	0	0	0	0	1	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		2	0	0	0	0	0	1	3

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		2	0	0	0	0	0	2
職員の態度(接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	0	0	0	0	1
合計		3	0	0	0	0	0	3

平成31年度 さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護事業所事業計画及び
さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号
通所事業所事業報告

1. 基本方針

- (1) 介護保険法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護運営規程、さゆりの園デイサービスセンターⅡ日常生活支援総合事業第一号通所事業所運営規程に基づき、居宅サービス計画の基に、家族と通所者のニーズにあった通所介護計画を作成し、その利用者が、可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、必要な日常生活上の援助及び機能訓練を行い、利用者の社会孤立感の解消及び心身機能の維持、並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
- (2) 日常生活支援総合事業第一号通所事業サービスについては、軽度者の状態を踏まえつつ、自立支援の観点に立った効果的なサービス提供体制を確保し、サービス提供を行う。

2. 重点目標

- (1) 社会参加
閉じこもりがちな高齢者がサービスを利用することで、外出の機会を得ることにより、身体的、社会的、心理的活性化を図り生活への意欲の向上につながるような機会を設けた。地域社会に参加する機会を提供することは難しかったが、季節に応じたドライブ、大山まつりの参拝を行うことが出来た。
- (2) 機能訓練
日常動作訓練を基本として行い、レクリエーションや集団体操を楽しく活動でき、機能維持向上につなげることが出来た。
- (3) 健康管理
健康チェック等により、通所者の心身の状態の把握に努める。状態の異常、急変については家族や担当介護支援専門員と連携を密にし、速やかに主治医、協力医療機関等に連絡し適切な対応ができた。
- (4) 感染予防
一年を通して、デイサービス利用毎に、うがい・手洗いを実施して頂いた。通所利用中でのインフルエンザやノロの診断を受けた方はおられなかったが、家族や他での感染により休まれる方は数名おられた。

(5) 食事

- (ア) 情報共有の場である申し送りに参加出来たことで、利用者の直近の身体状況や在宅での栄養に係る情報などを把握することができたが、自身から、栄養に関する情報を発信できるまでには至らなかった。
- (イ) 調理員に対し、週1回調理作業や厨房内の衛生管理についての指導と確認を行った。その中でも衛生管理の不十分な点については指導を行い、調理員の衛生管理を図ることができた。
- (ウ) 調理員の特定給食施設研修会やチームコンペクションオープン講習会には都合がつかず調理員の参加ができなかった。その為、後日伝達を行った。ヒヤリハット・事故については、調理中の事故件数が多くかったが、その都度検討会を通じて、改善・対応を行い、安全な食事提供に繋げる事ができた。

(6) 介護

- (ア) 一年を通して、デイサービス利用毎に、うがい・手洗いを実施して頂いた。通所利用中のインフルエンザやノロの診断を受けた方はおられなかつたが、家族や他での感染により休まれる方は数名おられた。
- (イ) 「ヒヤリハット」・「事故発見書・事故報告書」等をすぐに作成し、職員間で検討を行い、情報の共有をして事故予防に努めた。

(7) 家族、他機関との連携

日頃より、連絡ノートの活用や情報共有を行うことにより、家族、他機関との連携を密に行い、少しの状態変化に対しても、随時介護支援専門員・医療機関・家族に報告することで連携がスムーズに行うことが出来た。

(8) 職員の質の向上

栄養士の専門職研修や、ネイリストの資格取得をすることができ、今後のサービスの質の向上につなげることが出来たが、今後は職員全員が専門的スキルの向上に向けて、施設内・外の研修に積極的に参加できるようにしたい。

(9) ボランティア導入によるサービス内容の充実

今年度は、週1回のドライバーのボランティアのみだったため、今後は、話を聞いて頂く傾聴や、趣種の活動の支援につながるような活動、もしくは環境整備にかかる活動などで、地域の方々と交流を持つ機会が得られるような、ボランティア導入を考えていきたい。

(10) 防災体制

デイサービス内の火災避難訓練については、実施できだが、地震・水害に関しての訓練については、検討の必要があると感じた。非常食の備蓄に関しては、栄養係と相談してロスの無いように使用できた。今後は、通報訓練や、内部だけでなく外への避難も行っていきたい。

平成31年度さゆりの園デイサービスセンターⅡ通所介護利用状況

1. 利用者数(令和2年3月利用者)

男 15名 女 88名 計 103名

2. 介護度別利用(3月利用者)

事業対象者	日常生活総合事業		介護度					
	要支援1	要支援2	介護Ⅰ	介護Ⅱ	介護Ⅲ	介護Ⅳ	介護Ⅴ	
実人数	6	3	2	47	20	11	10	4

3. 年齢内訳

年齢	~64 69	65~ 74	70~ 79	75~ 84	80~ 89	85~ 94	90~ 99	95~ 100 以上	計
男	0	0	1	2	4	1	7	0	15
女	1	1	0	2	9	32	27	14	88
計	1	1	1	4	13	33	34	14	103

	男	女
平均年齢	85.7歳	89.3歳
最高年齢	94歳	103歳

7. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人数	一日平均 利用者数	入浴介助	同一建物 減算	送迎種類	キャンセル	
							前日	当日
H31. 4月	20	523	26.15	504	10	4	8	6
H31. 5月	21	540	24.54	534	0	1	12	12
6月	21	539	25.66	535	0	0	10	12
7月	22	566	25.72	566	0	0	4	15
8月	21	555	26.42	554	0	0	5	12
9月	20	517	25.85	516	0	3	8	12
10月	22	582	26.45	580	0	1	6	9
11月	21	545	25.95	545	0	8	11	13
12月	20	500	25.00	500	7	5	15	13
R2. 1月	21	506	24.09	503	8	2	8	13
2月	20	467	23.35	460	7	3	10	9
3月	20	481	24.05	467	7	0	11	6
合計	249	6,321	25.28	6,012	39	27	107	132

平成31年度 さゆりの園デイサービスセンターⅡ障害福祉サービス事業報告

1. 基本方針

- (1) 障害自立支援法、及びさゆりの園デイサービスセンターⅡ身体障害者運営規程に基づき、障害者自己決定と自己選択を尊重し、地域社会において質の高い生活が継続できるように、創作的な活動機会の提供や機能訓練を行い、身体能力、日常生活能力の維持・向上を図る。

2. 重点目標

(1) 社会参加

閉じこもりがちな高齢者がサービスを利用することで、外出の機会を得ることにより、身体的、社会的、心理的活性化を図り生活への意欲の向上につながるような機会を設けた。地域社会に参加する機会を提供することは難しかったが、季節に応じたドライブ、大山まつりの参拝を行うことが出来た。

(2) 機能訓練

日常動作訓練を基本として行い、レクリエーションや集団体操を楽しく活動でき、機能維持向上につなげることが出来た。

(3) 健康管理

健康チェック等により、通所者の心身の状態の把握に努める。状態の異常、急変については家族や担当介護支援専門員と連携を密にし、速やかに主治医、協力医療機関等に連絡し適切な対応ができた。

(4) 感染予防

一年を通して、デイサービス利用毎に、うがい・手洗いを実施して頂いた。通所利用中でのインフルエンザやノロの診断を受けた方はおられなかつたが、家族や他での感染により休まれる方は數名おられた。

(5) 食事

- (ア) 情報共有の場である申し送りに参加出来たことで、利用者の直近の身体状況や在宅での栄養に係る情報などを把握することができたが、自身から、栄養に関する情報を発信できるまでには至らなかつた。
- (イ) 調理員に対し、週1回調理作業や厨房内の衛生管理についての指導と確認を行つた。その中でも衛生管理の不十分な点については指導を行い、調理員の衛生管理を図ることができた。
- (ウ) 調理員の特定給食施設研修会やチームコンペクションオープン講習会には都合がつかず調理員の参加ができなかつた。その為、後日伝達を行つた。ヒヤリハット・事故については、調理中の事故件数が多かつたが、その都度検討会を通じて、改善・対応を行い、安全な食事提供に繋げる事ができた。

(6) 介護

- (ア) 一年を通して、デイサービス利用毎に、うがい・手洗いを実施して頂いた。通所利用中でのインフルエンザやノロの診断を受けた方はおられなかつたが、家族や他の感染により休まれる方は数名おられた。
- (イ) 「ヒヤリハット」・「事故発見書・事故報告書」等をすぐに作成し、職員間で検討を行い、情報の共有をして事故予防に努めた。

(7) 家族、他機関との連携

日頃より、連絡ノートの活用や情報共有を行うことにより、家族、他機関との連携を密に行い、少しの状態変化に対しても、随時介護支援専門員・医療機関・家族に報告することで連携がスムーズに行うことが出来た。

(8) 職員の質の向上

栄養士の専門職研修や、ネイリストの資格取得をすることができ、今後のサービスの質の向上につなげることが出来たが、今後は職員全員が専門的スキルの向上に向けて、施設内・外の研修に積極的に参加できるようにしたい。

(9) ボランティア導入によるサービス内容の充実

今年度は、通1回のドライバーのボランティアのみだったため、今後は、話を聞いて頂く傾聴や、趣味の活動の支援につながるような活動、もしくは環境整備にかかる活動などで、地域の方々と交流を持つ機会が得られるような、ボランティア導入を考えていきたい。

(10) 防災体制

デイサービス内の火災避難訓練については、実施できたが、地震・水害に関しての訓練については、検討の必要があると感じた。非常食の備蓄に関しては、栄養係と相談してロスの無いように使用できた。今後は、通報訓練や、内部だけでなく外への避難も行っていきたい。

平成31年度さゆりの園デイサービスセンターⅡ障がい福祉生活介護利用登録状況
令和2年3月31日現在

1. 利用登録者数

男 4名、女 1名、合計 5名

2. 区分別内訳

	性別		区分					
	男	女	1	2	3	4	5	6
実人数	4	1	0	0	1	1	3	0

3. 年齢内訳

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	1	0	0	1	2	4
女	0	0	0	0	1	0	1
計	0	1	0	0	2	2	5

平均年齢：49.0 歳

4. 利用実施状況

項目 月	開所 日数	利用 延べ人數	一日平均 利用者数	入浴介助 回数	同一建物 減算	送迎減額	キャンセル	
							前日	当日
H31. 4月	20	23	1.15	23	0	0	0	0
R1. 5月	22	21	0.95	21	0	0	2	0
6月	21	21	1.00	21	0	0	2	0
7月	22	21	0.95	21	0	0	0	2
8月	21	20	0.95	20	0	0	0	0
9月	20	16	0.80	16	0	0	0	0
10月	22	14	0.63	14	0	0	1	0
11月	21	9	0.42	9	0	0	2	1
12月	20	9	0.45	9	0	0	1	0
R2. 1月	21	15	0.71	15	0	0	0	0
2月	20	18	0.90	18	0	0	0	0
3月	20	10	0.50	10	0	0	2	0
合計	249	197	0.79	197	0	0	10	3

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	スーパースチーム講習会	・スチームコンベクションの構造と基本機能 ・メリットとデメリット	管理栄養士	五十嵐愛未	令和元年5月27日	安積総合学習センター	復命 職員会議で発表
2	令和元年度生活相談員研修会	・権利擁護と成年後見制度について ・権利擁護と高齢者虐待防止について	介護副係長	薄三平	令和元年7月30日	ウィル福島アクティおろしまち	復命 職員会議で発表
3	令和元年度特定給食施設等講習会	・衛生管理について ・高齢者の低栄養に伴う疾患予防のための取組みについて	管理栄養士	五十嵐愛未	令和元年8月23日	会津大学	復命 職員会議で発表
4	令和元年度苦情受付担当者研修	・苦情から学ぶ福祉サービスの向上とは ・苦情解決に求められる役割と対応	介護副係長	薄三平	令和元年10月4日	郡山ユラックス熱海	復命 職員会議で発表
5	令和元年度給食担当職員研修会	・健康支援者としての栄養部門の役割を考える ・健康支援者として具体的にできることについて	管理栄養士	五十嵐愛未	令和元年10月24日	郡山ユラックス熱海	復命 職員会議で発表
6	令和元年度苦情解決責任者・第三者委員研修	・苦情制度の仕組み・第三者委員について ・苦情相談事例から学ぶリスクマネジメント	看護係長	赤城富美江	令和元年11月11日	郡山ユラックス熱海	復命 職員会議で発表

7	令和元年度全会津介護支援専門員協会第2回研修会	・奇跡の小学校の物語から地域包括ケアを考える	看護係長	赤城富美江	令和元年11月26日	アピオスペース	復命 職員会議で発表
8	ハイジエニック・ピューティシャン ハイジエニック・ネイリスト	ハイジエニックピューティシャン・ネイリストの資格取得のための講義・実技	介護員 管理栄養士	小林幸介 五十嵐愛未	令和2年1月10.11日 1月20.21日 2月3.10日	高齢者生活支援ハウス ティーサービスセンターⅡ	復命 職員会議で発表

平成31年度 給食実績年計表・行事食一覧

さゆりの園デイサービスセンター II

	1ヶ月 食数	1日平均 食数	1ヶ月 購入金額(円)	1人1食 食材料費(円)	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	炭水化物 g	カルシウム mg	鉄 mg	レチノール活性量 ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg	塩分 g
平成31年4月	563	28.2	174,606	311	596	25.6	13.0	79.6	325	3.9	325	0.87	0.56	36	2.6
令和元年5月	579	27.6	184,502	320	597	23.2	19.1	81.9	333	3.8	290	0.84	0.52	31	2.8
6月	558	26.6	160,280	278	605	25.7	18.8	81.4	332	4.1	252	0.81	0.55	43	3.0
7月	584	26.5	185,360	307	588	24.9	19.1	76.9	314	3.6	234	0.87	0.54	31	2.7
8月	572	27.2	177,228	300	601	24.0	18.8	75.7	316	3.6	217	0.76	0.53	29	2.8
9月	529	26.5	163,826	299	596	25.3	18.3	78.5	323	3.8	237	0.82	0.59	29	2.6
10月	596	27.1	175,153	285	587	24.5	19.4	75.8	316	3.6	249	0.80	0.57	33	2.7
11月	552	26.3	181,136	317	631	26.5	20.3	81.3	330	4.3	308	0.84	0.58	37	2.7
12月	507	25.4	186,242	355	612	24.5	19.0	82.3	327	4.0	275	0.82	0.57	32	3.1
令和2年1月	618	24.7	167,839	313	606	24.0	20.0	80.7	339	3.9	231	0.83	0.53	29	2.8
2月	483	24.2	133,830	267	581	24.3	16.6	80.2	328	4.0	253	0.76	0.52	34	2.7
3月	508	25.4	143,065	283	588	23.8	18.1	78.7	320	4.0	236	0.84	0.54	31	2.7
合 計	6,549		2,033,065		7,188	296.3	220.5	953.0	3,903	46.6	3,107	9.86	6.60	395	33.2
目標値															
580 21.0 14.5 82.5 240 4.0 0.48 0.40 40 3.2															
平均															
546食 26食 169,422円 303円 599 24.7 18.4 79.4 325 3.9 259 0.82 0.55 33 2.8															

実施日	行事食名	行事食内容	実施日	行事食名	行事食内容
平成31年 ① 4月 10日	お花見御膳	春の手まり寿司、或い物(そば)、焼き合せ、菜の花サラダ	令和元年 ⑪ 11月 7日	紅葉狩り御膳	五目おふかし、わほ園子汁、さんまの塩焼き、卵紅葉蒸し
令和元年 ② 6月 17日	お田舎えび膳	しそ味噌おにぎり、味噌汁、鮭の山椒焼き、卯焼き、五目さんぴら	⑪ 12月 21日	冬至献立	ごはん、みそ汁(ち豆・白菜)、味噌煮込みおでん、冬至南瓜
③ 6月 6日	若草御膳	やまとけいん(じ)、或い物、切干し大根とにしんの煮物、ももせりー	⑫ 25日	クリスマスランチ	ピラフ、いろいろスープ、マーマレードチキン、ミザサラダ、珈琲ゼリー
④ 7月 17日	七夕御膳	冷やしセラそうめん、精進揚げ、フルーツボンボン	令和2年 ⑬ 1月 7日	七草献立	七草粥、みそ汁、昆布の邊煮け焼き、冷み豆腐の合め煮
⑤ 27日	上用の盆の日	牛丼、すまし汁(とろろ昆布)、胡瓜とみかんのおろし和え	⑭ 18日	小正月御膳	ごはん、柚子汁、天ぷら盛り合わせ、おかかがけ、やわらかあんこ餅
⑥ 8月 10日	平和御膳	赤坂、さくら、精進揚げ、ほれんそうのみぞれ和え、水ようかん	⑮ 2月 4日	年分御膳	ひじきごはん、すまし汁、ニシンと大根の煮つけ、ほれん草の雑煮
⑦ 9月 13日	お月見御膳	月見うどん、スイートサラダ	⑯ 3月 3日	ひな祭り献立	ひな祭り駄菓子寿司、あさりの漬け、野菜の白和え、桃ゼリー
⑧ 17日	敬老の日献立	椎茸寿司、のっつい汁、鶏の照り焼き、なめたけがけ	⑰ 19日	お彼岸献立	赤飯、すまし汁(とろろ昆布)、飛竜巻あんかけ、お煮しめ
⑨ 10月 16日	秋の味覚御膳	栗ご飯、豚汁、鮭ムニエル(のソース)、胡桃和え、林檎コンポート	合 计		17回

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：さゆりの園デイサービスセンターⅡ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

平成31年度

西会津町訪問介護事業所 訪問介護事業報告

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、要介護状態にある利用者に対し、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が継続でき、適正な訪問介護サービスを提供し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう入浴・排泄・食事、その他の生活全般に支援をおこなった。また、地域の関係機関との連携を強化し、地域福祉に貢献するよう努めた。

2. 重点目標

(1) 連携及び年間実績

サービス提供責任者は、ケアプランに沿った訪問介護計画書（生活目標）を作り、訪問介護員と協働しつつ、年間1,018名、17,827件のサービスが円滑に提供できるようにしてきた。サービス提供するなか訪問介護員からの情報とともにモニタリングを強化し、サービス内容に変更が必要と思われる場合は、速やかに居宅介護支援事業所の介護支援専門員に報告・相談し、その人らしい生活が継続できる為に柔軟なサービス提供に努めた。

(2) 訪問介護員との連携

毎月の研修会を通し、職業倫理・法令等を確認した。訪問時に感じた普段との著変等の気づきを隨時連絡をもらい、利用者の状態把握について、連携に努めた。

(3) 質の向上について

年間研修計画を基に毎月の研修会を開催し、毎月13名～20名が参加した。調理について減塩や野菜中心で簡単かつ時間短縮で調理できるメニューを町管理栄養士から学んだり、インフルエンザ等感染症予防への対応、消防署での普通救命講習など、サービス提供に直結する内容にすることでスキルアップを図ることができた。

(4) 苦情受付とリスク管理

苦情受付にいたるまでのケースは今年度はなかった。利用者を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供をおこなった。連絡が取れにくい家族とは、連絡ノートを活用し、利用者の現状のやり取りを行うことでコミュニケーションを図った。

(5) 人材確保

訪問介護員の人材確保として、資格取得者の掘り起こしやケーブルテレビ等の広報活動をおこない、昨年は2名の訪問介護員の増員ができた。

平成 31 年度

西会津町訪問介護事業所 総合事業報告

1. 基本方針

介護保険法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、利用者の心身の状態に応じ、適正な訪問介護サービスを提供した。可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活が継続できるように自立支援の観点から、利用者が出来ることは利用者がおこなうことを基本としたサービス提供に努めた。

2. 重点目標

(1) 連携及び実績

サービス提供責任者は、ケアプランに沿った訪問介護計画書（生活目標）を作り、訪問介護員と協働しつつ、年間 294 名、1,986 件のサービスが円滑に提供できるようにしてきた。サービス提供するなか訪問介護員からの情報とともにモニタリングを強化しサービス内容に変更が必要と思われる場合は、速やかに地域包括支援センターの介護支援専門員に報告相談し、その人らしい生活を継続できるよう柔軟なサービス提供に努めた。

(2) 訪問介護員との連携

毎月の研修会を通し、職業倫理・法令等を確認した。訪問時に感じた普段との着変等の気づきを随時連絡をもらい、利用者の状態把握について、連携に努めた。

(3) 質の向上について

年間研修計画を基に毎月の研修会を開催し、毎月 13 名～20 名が参加した。調理について減塩や野菜中心で簡単かつ時間短縮で調理できるメニューを町管理栄養士から学んだり、インフルエンザ等感染症予防への対応、消防署での普通救命講習など、サービス提供に直結する内容にすることでスキルアップを図ることができた。

(4) 苦情受付とリスク管理

苦情受付にいたるまでのケースは今年度はなかった。利用者を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供をおこなった。連絡が取れにくい家族とは、連絡ノートを活用し、利用者の現状のやり取りを行うことでコミュニケーションを図った。

(5) 人員確保

訪問介護員の人材確保として、資格取得者の掘り起こしやケーブルテレビ等の広報活動をおこない、昨年は 2 名の訪問介護員の増員ができた。

平成31年度

西会津町訪問介護事業所 障害福祉サービス事業報告

1. 基本方針

障害者総合支援法と西会津町訪問介護事業所運営規程に基づき、障害のある方の主体性と自己決定を尊重し、地域社会において安心して暮らすことが継続できるよう利用者の生活全般にわたる支援に心がけた。また、地域の関係機関との連携を強化し、地域福祉に貢献するよう努めた。

2. 重点目標

(1) 連携及び実績

サービス提供責任者は、ケアプランに沿った訪問介護計画書（生活目標）を作り、訪問介護員と協働しつつ、年間159名、1,934件のサービスが円滑に提供できるようにしてきました。サービス提供するなか訪問介護員からの情報とともにモニタリングを強化しサービス内容に変更が必要と思われる場合は、速やかに障がい相談事業所の相談員に報告相談し、地域社会において安心して暮らすことが継続できるよう柔軟なサービス提供に努めた。

(2) 訪問介護員との連携

毎月の研修会を通じ、職業倫理・法令等を確認した。訪問時に感じた普段との著変等の気づきを隨時連絡をもらい、利用者の状態把握について、連携に努めた。

(3) 質の向上について

年間研修計画を基に毎月の研修会を開催し、毎月18名～20名が参加した。調理について減塩や野菜中心で簡単かつ時間短縮で調理できるメニューを町管理栄養士から学んだり、インフルエンザ等感染症予防への対応、消防署での普通救命講習など、サービス提供に直結する内容にすることでスキルアップを図ることができた。

(4) 苦情受付とリスク管理

苦情受付にいたるまでのケースは今年度はなかった。利用者を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供をおこなった。連絡が取れにくい家族とは、連絡ノートを活用し、利用者の現状のやり取りを行うことでコミュニケーションを図った。

(5) 人員確保

訪問介護員の人材確保として、資格取得者の掘り起こしやケーブルテレビ等の広報活動をおこない、昨年は2名の訪問介護員の増員ができた。

防府介護事業所利用状況

【平成31年度】

平成31年度実績

1.介護度別実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	30	31	33	32	29	32	33	32	32	29	29	30	372
要介護2	14	14	14	13	14	14	18	21	19	17	20	20	198
要介護3	20	17	16	16	14	17	14	13	12	13	9	11	172
要介護4	18	21	17	15	14	15	16	15	11	13	15	15	185
要介護5	8	8	8	9	7	6	7	7	7	8	7	9	91
申請中等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	90	91	88	85	78	84	88	88	81	80	80	85	1,018
事業対象者	9	9	9	9	9	10	9	8	8	8	8	7	103
要支援1	11	10	8	8	7	8	7	6	8	6	6	7	90
要支援2	8	8	8	10	10	9	9	8	9	7	7	8	101
計	28	27	25	25	26	27	25	22	25	21	21	22	294
障害者自立支援	14	14	13	14	13	13	14	13	13	13	13	12	159
移動支援	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	8
計	14	14	14	15	14	14	15	14	14	13	13	13	167
合計	132	132	127	125	118	125	128	124	120	114	114	120	1,479

2.延べ回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,470	1,573	1,430	1,467	1,308	1,308	1,615	1,555	1,512	1,364	1,551	1,674	17,827
総合事業	188	192	171	191	173	183	171	158	169	132	133	125	1,986
申請中等													0
障害者自立支援	180	179	166	179	130	155	144	186	146	148	159	162	1,934
移動支援	0	0	3	5	3	6	5	4	2	0	0	5	33
合計	1,638	1,944	1,770	1,842	1,614	1,652	1,935	1,903	1,829	1,644	1,843	1,968	21,780

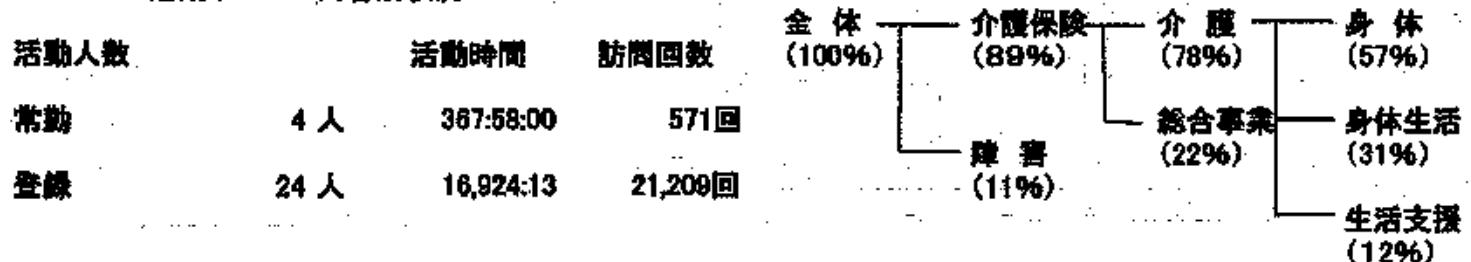
3.延べ時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	1,091:37	1,150:39	1,067:15	1,113:07	1,008:22	1,028:00	1,165:30	1,122:19	1,081:13	1,012:14	1,098:51	1,183:10	13,142:17
総合事業	187:20	192:30	171:50	192:35	169:35	186:45	176:15	164:20	172:25	135:00	135:25	127:05	2,011:05
申請中等													0:00
障害者自立支援	190:00	188:30	178:00	182:30	139:30	163:00	158:00	189:30	158:00	152:00	161:30	167:30	2,028:00
移動支援	0:00	0:00	1:30	2:30	1:30	3:00	2:30	2:00	1:00	0:00	0:00	2:30	16:30
合計	1,469:57	1,581:39	1,418:35	1,490:42	1,318:57	1,380:45	1,522:15	1,478:00	1,412:38	1,299:14	1,398:46	1,480:15	17,197:52

4.サービス提供責任者業務

	件 数	時 間		件 数	時 間
モニタリング(介護)	1,198	790:49:00	訪問介護計画書作成	203	152:20:00
モニタリング(総合)	213	165:51:00	個別援助計画書	130	93:55:00
モニタリング(障害)	56	40:50:00	サービス担当者会議	219	252:45:00
モニタリング(移動)	9	240:00	カンファレンス	26	17:55:00
訪 問	571	430:21:00	訪問調整		613:35:00
実施報告書作成	1,010	331:00:00	その他		4,017:54:00

5.ヘルパー活動サービス内容別状況



ア 施設外研修状況

平成31年度

西会津町訪問介護事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	同行接觸従事者養成研修 一般課程	<ul style="list-style-type: none"> ○障害疾患の理解、視覚障害者の心理、同行接觸の制度と従事者の業務 ○代筆・代読の基礎知識、視覚障害者の福祉サービス ○同行接觸の基礎知識、情報支援と情報提供 ○基本技能、応用技能 講師：中村雅彦氏・熊田洋子氏 視覚障害者講師：菊地正光氏 	サービス提供責任者 登録ヘルパー	伊藤萌美 須藤千枝美	R1.6.10～6.12	公益社団法人視覚障がい者福祉会 障がい者支援センターから ムカム	復命書 朝礼で報告
2	同行接觸従事者養成研修 応用課程	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚障害者の心理、心理学の基礎的理論 ○障害・疾病の理解 ○交通機関の利用 ○場面別基本技能（トイレ・食事・自動車の乗降） ○場面別応用技能（買い物および支払、窓口カウンター利用） 講師：中村雅彦氏・熊田洋子氏 視覚障害者講師：菊地正光氏 	サービス提供責任者	伊藤萌美	R1.6.13～6.14	公益社団法人視覚障がい者福祉会 障がい者支援センターから ムカム	復命書 朝礼で報告
3	新任訪問介護員研修	<p>1日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルパーの役割その①、その② ○福島県の高齢者福祉の現状について ○あんしんサポート概要説明 <p>2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルパーの医療行為と業務上の留意点 ○訪問介護計画書と指示書 ○グループワークを通じて考えるヘルパーの役割 ○認知症事例を通じてヘルパーの関わり方を考える 	サービス提供責任者	伊藤萌美	R1.6.18～6.19	社会福祉法人福島県社会 福祉協議会 ビッグパレットふくしま	復命書 朝礼で報告
4	訪問介護テーマ別技術向上 研修Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の人口構造と財政構造 ○地域包括ケアとは ○地域共生社会とは ○長生きリスクと自助・互助・地域づくり ○居宅サービスの主役：訪問介護の特徴 ○「自立支援」を実践してみよう ○認知症の人の意思決定支援ガイドライン ○認知症事例紹介 ○パーソンセンタードケアとエマニチュード ○人生の最終段階のガイドライン 	登録ヘルパー	新城廣子	R1.7.16	福島県社会福祉協議会 ビッグパレットふくしま	復命書

5	会津リハビリテーション実習者研修会	1.竹男のこころ～とある一日～ 2.介助を行う際の基本・注意点 3.介助を行う際の触れ方・触れる部位 4.各動作の介助法	登録ヘルパー 登録ヘルパー	物江みのり 田部初子	R1.8.8	会津地域リハビリテーション広域支援センター 竹田総合病院 リハビリテーション部 竹田看護専門学校	復命書
6	訪問介護適正実施研修	○解説：介護を取り巻く動向 ○講義：平成30年度改正における訪問介護の決定事項・自立支援・重度化防止の観点から考えるアセスメント ○演習：自立支援・重度化防止の防止の観点から考える訪問介護計画書、手順書の作成 ○演習：地域ケア個別介護の事例検討、自立支援、重度化防止の観点から考える記録	サービス提供責任者 兼介護員	外島裕子	R1.9.17～18	社会福祉法人 社会福祉協議会 ピッグパレットふくしま	復命書 朝礼で報告
7	摂食嚥下障害のための食支援	1.基調講演 摂食嚥下障害及びその対策・予防について 会津中央病院 宮島久先生 2.事例提供 磐梯町保健医療福祉センターにおける取組み ア・食支援のための多職種連携にむけた取組み 管理栄養士 萩上美樹子先生 イ・デイサービスにおける口腔機能訓練 看護師・機能訓練指導員 増尾幸智恵先生 ウ・口腔機能低下を予防するためにできること	登録ヘルパー	小柴幸世	R1.12.10	福島県会津保健福祉事業所 会津大学	復命書

平成 31 年度事業報告(登録ヘルパー研修)

No	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場 所	研修結果の報告
1	第 1 回登録ヘルパー研修会	・接遇について 年間研修計画について ・にしあいづ福祉社会 理念・指針について	訪問介護員	登録ヘルパー 20名	H31.4.12	介護センター	報告書を回覧
2	第 2 回登録ヘルパー研修会	・伝達研修会 訪問介護員の知識と理念 ・記録物の重要性について	訪問介護員	登録ヘルパー 15名	R1.5.30	介護センター	報告書を回覧
3	第 3 回登録ヘルパー研修会	・調理実習(高齢者向けの肉料理) ・食中毒について ・講師 町管理栄養士 斎藤紀子氏	訪問介護員	登録ヘルパー 15名	R1.6.26	町公民館	報告書を回覧
4	第4回登録ヘルパー研修会	・尊徳商法から高齢者を守るために見守りのポイント ・講師:福島県消費生活センター庄司 遼氏	訪問介護員	登録ヘルパー 14名	R1.7.26	介護センター	報告書を回覧
5	第5回登録ヘルパー研修会	・精神障がい者の理解 ・講師 障がい相談事業所 佐藤千春氏	訪問介護員	登録ヘルパー 15名	R1.8.27	介護センター	報告書を回覧
6	第6回登録ヘルパー研修会	・普通救命講習会 ・講師 西会津消防署職員	訪問介護員	登録ヘルパー 13名	R1.9.26	介護センター	報告書を回覧
7	第7回登録ヘルパー研修会	・高齢者・障がい者福祉施設における虐待防止研修会 ・講師 東北福祉大学准教授吉川悠貴氏	訪問介護員	登録ヘルパー 19名	R1.10.29	西会津中学校	報告書を回覧
8	第8回登録ヘルパー研修会	・笑顔トレーニング ・講師 町スポーツインストラクター成田尚美氏	訪問介護員	登録ヘルパー 11名	R1.10.25	介護センター	報告書を回覧
9	第9回登録ヘルパー研修会	・感染症について ・講師 訪問介護事業所職員	訪問介護員	登録ヘルパー 15名	R1.11.25	介護センター	報告書を回覧
10	第 10 回登録ヘルパー研修会	・事例検討 ・認知症の方各2名づつ	訪問介護員	登録ヘルパー ① 6名 ② 9名	R2. 1.24	①丸川みらい交流館 ②介護センター	報告書を回覧
11	第 11 回登録ヘルパー研修会	・伝達研修 (小柴・須藤・田部) ・摂食嚥下障害及びその対策・予防について ・会津地域リハビリテーション実務者研修会	訪問介護員	登録ヘルパー ① 4名 ② 13名	令和 2.2.21	①丸川みらい交流館 ②介護センター	報告書を回覧

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町訪問介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質(内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度(接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質(内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

平成31年度

西会津町居宅介護支援事業所事業報告

1. 基本方針

- ・西会津町居宅介護支援事業所運営規定に基づき、要介護状態になった場合でも、その利用者が可能な限り住み慣れた居宅において、本人の持てる力を活かし自立した生活を支援するために利用者の心身状況、利用者の置かれている環境の把握に努めるとともに、地域の方々との交流や顔の見える関係づくりを目指し、民生委員協議会等へ参加を通じ地域の把握に努めた。
- ・利用者の選択に基づき、出来る限り本人の意向に添えるよう、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが総合的かつ効率的に提供されるよう配慮し、常に利用者の立場に立ち提供されるサービスが公正中立に行われるよう、市町村等関係機関、地域包括支援センター、サービス提供機関、他の居宅介護支援事業者、介護保険施設等との連携を密に努めた。
- ・介護支援専門員として信頼関係構築に重点を置き、より良いコミュニケーションの向上を目指し、利用者、家族、各サービス事業所、関係機関との関係を良好に保てるよう、事業所内で定期的に勉強会を実施した。

2. 重点目標

(1) 地域との顔の見える関係づくり、社会資源の把握について

- ・事業所として、顔の見える関係づくりの構築として地域に出向き、サロン活動への参加や各地域の民生児童委員協議会への参加をさせて頂いた。直接な意見交換会を通じ各地区の活動状況や社会資源の習得、地域における課題について学ぶ機会が持てた。
- ・町生活支援体制整備事業の協議体へ参加について、地域の中で、居宅介護支援事業所として貢献できることは何か、事業所としての役割を考える機会を持つことができた。また、担当ケースを通して介護支援専門員自ら、支援者、近隣者へ出向き声かけを行う等顔の見える関係づくりに努めた。
- ・主任介護支援専門員の役割の一つである地域課題の把握から社会資源の開発、地域づくりが求められている。認知症困難ケースについて地域ケア会議への提案、会議への参加を行うことで町、地域包括支援センター、各事業等と協議を行う機会を持つことが出来た。

(2) 「信頼」を得るために、より良いコミュニケーションのスキルアップについて

- ・介護支援専門員としてコミュニケーションの重要性を理解し、利用者、ご家族との相談面接や関係機関との連絡調整の中、誤解や相手に不愉快な印象を持たれないよう常に傾聴を意識して対応に努めてきた。また、今年度も事業所内で年3回の勉強会を実施し、利用者や事業者の思いや心情を汲み取り、誤解なく伝達出来る様コミュニケーション能力の向上に努めてきた。次年度も引き続き、どの様な場面においても信頼を得られる事業所をめざし向上に努めていきたい。

(3) アセスメントの強化・拡大について

- 利用者や家族の意向を尊重し、客観的で継続的なアセスメントができるように、課題整理総括表の活用を実施した。結果、課題整理総括表の活用は根柢のあるプラン作成へ結び付けることに有効であることを学んだ。今後も適切なマネジメントを実施して行くため、効率的な業務改善を目指し、日々の業務の中で意識付けを高く持ち計画的に進めて行きたい。

3、平成31年度月別活動実績状況

(1) 介護度別利用人数(人)

年月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	81	64	49	32	19	245
5月	81	63	48	33	24	246
6月	87	64	43	29	19	242
7月	90	60	43	25	18	236
8月	88	59	42	24	15	228
9月	89	56	41	31	15	232
10月	92	58	40	30	14	234
11月	93	57	41	30	14	235
12月	90	54	41	26	16	227
1月	85	58	40	30	15	228
2月	87	63	38	31	12	231
3月	90	59	35	27	12	223
31年度累計	1053	715	501	348	190	2807
30年度累計	893	747	546	434	258	2878

(2) ケアマネジメント対応別件数(件)

年月	数 電 話 対 応 件	数 来 所 対 応 件	訪 問 件 数	業 所 連 絡	サ ー ビ ス 事	作 成 数	ケ ア ブ ラ ン	件 数 担 当 者 会 議	ク 件 数 モ ニ タ リ ン	入 数 福 祉 用 具 購	住 宅 改 修
4月	278	12	365	293	61	55	400	0	0	0	
5月	285	22	369	294	38	34	394	3 (3)	1		
6月	251	13	354	270	27	38	356	0	0	0	
7月	317	12	368	355	43	37	424	1 (2)	1		
8月	276	18	348	310	45	40	371	0	0	0	
9月	295	15	340	333	33	28	395	2 (3)	1		
10月	286	26	360	309	62	31	396	0	0	0	
11月	276	20	333	292	18	45	359	0	0	0	
12月	262	12	333	250	18	26	344	2 (2)	2		
1月	327	08	327	306	28	33	355	2 (2)	0		
2月	261	21	304	251	24	30	315	0	0		
3月	226	16	338	254	38	48	318	0	0		
合計	3339	195	4139	3517	435	445	4427	10 (9)	5		

(3)利用者の動向

年月	新規契約	入院	入所	退院	退所	非該当等	永眠
4月	6	2	4	1	0	0	2
5月	8	7	6	5	2	2	9
6月	7	3	6	3	0	0	4
7月	9	5	1	7	1	2	4
8月	7	5	4	3	2	0	3
9月	9	8	1	4	5	0	4
10月	11	4	4	2	0	2	5
11月	11	4	4	4	0	0	5
12月	11	6	3	5	3	1	2
1月	8	7	3	5	3	0	2
2月	11	3	4	1	0	0	6
3月	11	3	4	1	0	0	6
合計	109	57	44	41	14	7	52

(4)認定調査・加算・住宅改修のみプラン作製

年月	認定調査 (3,780円)	初回加算 (3,000円)	入院連携 加算 I (2,000円) II (1,000円)	退院連携 加算 I (4,500円) II (6,000円)	住宅改修プラン (4,000円)	減算 (1/2)
4月	4	19	1 1	0 0	0	0
5月	3	15	4 3	2 0	0	0
6月	10	13	2 1	1 0	0	0
7月	2	12	5 0	0 0	0	0
8月	0	9	3 0	1 0	0	0
9月	3	9	6 1	0 0	1	0
10月	5	21	1 1	2 0	0	0
11月	3	12	5 0	2 0	0	0
12月	7	11	3 1	3 0	0	0
1月	7	16	3 0	3 0	0	0
2月	8	14	3 0	1 0	0	0
3月	5	9	2 1	1 0	0	0
合計	57	160	38 9	16 0	0	0

ア 施設外研修状況

平成31年度

西会津町居宅介護支援事業所

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	全会津介護支援専門員協会 総会・記念講演	○総会 ○記念講演 介護支援専門員が知りたい成年後見制度の概要～実践事例をふまえて 川島康司 司法書士事務所 川島康司氏	管理者兼主任介護支援専門員 介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 主任介護支援専門員	田崎裕子 薄君子 加藤美世子 佐藤恵 海老名三起子 一登ユミ子	H31.4.23	全会津介護支援専門員協会 会津アビオ	復命書 朝礼で報告
2	第1回新任認定調査員研修会	○介護保険運営状況 ○認介職認定に関する基本的事項 ○認定調査項目の基本的な考え方	介護支援専門員	薄君子	H31.4.26	福島県保健福祉部高齢福祉課 とうほう・みんなの文化センター	復命書 朝礼で報告
3	全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	自立支援型ケアプランの作成を学ぶ ～ケアマネージャーに求められるケアマネジメントとコンプライアンス～ 講師：あたご研究所 代表 後藤佳苗氏	管理者兼主任介護支援専門員 介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員	田崎裕子 薄君子 加藤美世子 佐藤恵	R1.7.26	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース	復命書 朝礼で報告
4	地域介護支援専門職員研修 ④相談援助面接研修（初級編）	○1日目 講義：相談援助専門職に必要とされる資質について①、② 演習：相談援助の実際（電話・訪問編） ○2日目 講義：相談援助専門職の心得と対人援助職の基本的視点①、② 演習：相談援助専門職のスキルアップのために必要な視点 講師：千葉喜弘氏	介護支援専門員	薄君子	R 1.10.18 ~ 10.19	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県男女共生センター	復命書 朝礼で報告

		○認知症調査票（特記事項）等記載に関する留意点 喜多方地方広域市町村圏組合 福祉介護係長 濑部慎也氏	管理者兼主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	田崎裕子 加藤美世子 海老名三起子 折笠みゆき 薄君子	R1.11.12	喜多方地方定住自立圏 喜多方プラザ	復命書 朝礼で報告
5	喜多方地方定住自立圏認定調査員合同研修会	○市町村からの説明 ・アンケートの結果について：北塙原村 ・認定調査時の留意点について：西会津町 ・認定調査票（概況調査）等記載の留意点：喜多方市					
6	全会津介護支援専門員協議会 第2回研修会	○映画『奇跡の小学校』 ○意見交換会	管理者兼主任介護支援専門員 介護支援専門員 主任介護支援専門員	田崎裕子 薄君子 一登ユミ子	R1.11.26	全会津介護支援専門員協議会 会津アビオ	復命書 朝礼で報告
7	地域介護専門員研修③相談援助面接研修（記録編）	推奨I 対人援助職に求められる記録とは 演習I SOAPで表現する 講師 アライ(株) 代表取締役 八木亜紀子氏	介護支援専門員 介護支援専門員	海老名三起子 折笠みゆき	R1.11.26	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 福島県男女共生センター	復命書 朝礼で報告
8	会津地域現任認定調査従事者研修会	○説明 介護保険運営状況について 会津保健福祉事務所 古川光一氏 ○講義 基本調査項目のポイント・特記事項記載のポイント等について 郡山ソーシャルワーカーズオフィス 吉田光子氏	管理者兼主任介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	田崎裕子 折笠みゆき 佐藤恵	R1.12.19	福島県会津保健福祉事務所 会津若松市北会津公民館	復命書 朝礼で報告

9	福島県主任介護支援専門員更新研修	1. 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向① 2. 主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導・支援の実績(リハビリ・看取り・入退院) 3. 介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向② 4. 主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導・支援の実績(認知症・家族・社会資源・地域密着) 5. 研修の振り返りと自己評価	主任介護支援専門員 主任介護支援専門員	一登ユミ子 加藤美世子	R1.11.6～11.7 R 1.12.17 ~ 12.19 R2.1.8～1.9	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 ビッグパレットふくしま	復命書 朝礼で報告

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町居宅介護支援事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	1	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	1	0	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		1	0	0	0	0	0	1
職員の態度（接遇）		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質（内容）		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		2	0	0	0	0	0	2

平成31年度にしあいづ地域包括支援センター事業報告

1. 基本方針に対する評価

西会津町の業務委託実施方針のもと、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中、要介護状態や認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで暮らし続けられるよう、介護や医療、生活支援、介護予防を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築推進のため、それに関わる人々、関係機関が連携する体制づくりに努めた。

今年度から認知症の人やその家族、認知症について理解したい人が集まる場である認知症カフェを「オレンジカフェいいで愛」と名付け、3回開催した。昨年から実施している自立支援型地域ケア会議は県のモデル事業として公開型で行われ、多様な専門職の助言を踏まえ支援方法を検討する機会となつた。

2. 重点目標に対する評価

(1) 介護予防ケアマネジメント

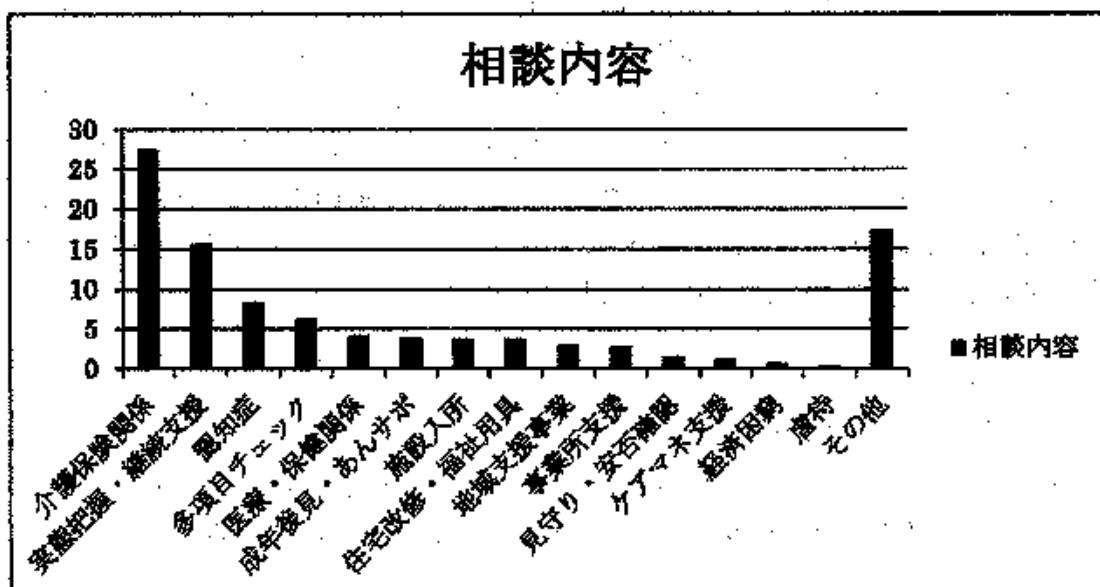
- ①事業対象者に対して、要支援者と同様の様式で、介護予防の視点に立ったケアプランを作成している。その事により、要支援になつてもスムーズなサービスの移行ができる。
- ②要支援から要介護に移行した利用者の半数は、認知症、難病、がんの末期による心身面の低下により、介護サービスの充実、拡充が必要となり要介護になつていていた。予防できる病気や生活習慣の改善、見直しにより、できるだけ要介護状態にならないよう今後も関係機関等と連携していく。
- ③ミニデイサービス利用者に対して、定期的な検討会をミニデイ事業者と実施し利用状況の把握、サービスの向上に努めた。
- ④訪問型生活援助事業は3人の利用があり、シルバー人材センターと利用者の意向を確認、事業内容や状態を観察し、利用者の生活機能の維持・向上に努めた。

(2) 総合相談支援業務

- ①「地域包括支援センター」が高齢者の相談窓口であることを地域住民に浸透するために、関係機関の会議に参加した時や認知症サポーター養成講座・サロン等での講話の際、また家庭訪問時に、地域包括支援センターの役割を説明しパンフレットを配り周知に努めた。さらに活動状況を法人のホームページに載せ、日頃の様子を知つてもらう機会となつた。
- ②地域ケア個別会議を主催し地域支援ネットワーク構築を目指したことに加えて、包括もそのネットワークの一員として、民生児童委員協議会定例会、上野尻須刈ふれあいネットワーク全体会議、西会津町生活支援体制整備事業ささえ愛支援会議・3者協議、西会津町健康コミュニティづくり推進事業、グループホーム連絡会、啓和

会運営推進会議、グループホームのぞみ運営推進会議、福島県生活困窮者自立相談支援事業会議に参加し、さまざまな分野と連携し、高齢者等の支援のために協働できるように努めた。

③相談内容をおおまかに分類すると、下記のようになった。(単位は%)



昨年度実績と比べると、相談件数・相談実人数ともに増加している。相談対象の年代は85歳以上、世帯は高齢者単身が多い。相談内容を分類すると、昨年度と同様で介護保険関係（認定申請やサービス利用）、次に実態把握・継続支援（民生委員や家族・行政・医療機関からの情報で生活状態の実態確認、サービス利用はしていないが継続的にモニタリングが必要なケースの訪問、会議後の継続的フォロー等）、認知症（家族・地域・警察等から対応相談、徘徊、物盗られ妄想、金銭管理、車運転等）という順位結果になっている。

相談を受け付け後は、三職種で共有協議し適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローし、必要に応じてセンター自らの各業務として対応していった。

さらに相談内容を分析すると下記のような課題が把握されたため、毎月の月次報告で町と共有してきた。

【連携】

- ・緊急時対応が必要な時に、近隣支援者がいない。（子供遠方住、近い親族は高齢で支援難しい等）
- ・独居高齢者の日常的な見守り
- ・末期がんの在宅生活支援

【認知症】

- ・認知症高齢者への対応（徘徊、日常的な見守り、地域での交流の場、認認夫婦、独居、物盗られ妄想、自動車運転、金銭管理、服薬管理、家族の負担軽減、家族の介護力がない、地域の理解、介護拒否、消費者支援、アルコール依存症、若年性認知症）

【高齢者運転】

- ・初期認知症の運転
- ・運転ができなくなった後の買物や医療機関受診

【多問題を抱えるケース】

- ・多問題家族（同世帯に精神疾患と要介護高齢者、家族間不和、同居者がいても介護者にならない家庭、親が要介護になった時の障がいをもった子供の支援）
- ・8050問題

【その他】

- ・サービス利用拒否、医療拒否
- ・男性介護者
- ・障がい高齢者の金銭管理
- ・介護保険料滞納者がサービス必要になった時
- ・生活不活発な高齢者の地域での交流の場
- ・地域とつながりが希薄な人の見守り
- ・若い難病患者の支援
- ・精神障がいの方の理解と対応
- ・公営住宅上層部に住む高齢者が要介護状態になった時の対応
- ・小規模多機能居宅介護利用者の医療対応
- ・独居高齢者の食生活

④介護予防事業実態調査で多項目チェックがあった高齢者訪問は、健康支援係から依頼が38名あり、心身や生活状況の実態調査を行った。多項目チェックになっていく要因として、疾患（整形疾患、心疾患、糖尿病等の生活習慣病悪化等）、認知症や閉じこもり（高齢で近隣に友人がいなくなった、男性はサロンに行きたがらない等）により日常生活動作の低下がみられた。ただし、同居家族の支援があることや自分で運動したり、サロンに参加していることが介護サービスを利用しなくてもよい理由だった。今回の訪問をきっかけに、2名が介護申請、他2名が総合事業でサービス利用することになった。

（3）権利擁護業務

①金銭管理能力が不十分で、サービス利用料や税金・光熱費等の滞納が増大している精神疾患高齢者兄妹のケースに対し、町と共に成年後見制度町長申立てを進めた。

制度につながるまでは世帯の収支整理を支援し、兄は保佐類型・妹は後見類型の審判につながった。また、書類の紛失により未払い等が見られる認知症高齢者1名は日常生活自立支援事業（あんしんサポート）につながった。

②高齢者虐待対応事例は4件あり、多問題を抱えた世帯背景（認知症介護+男性介護者の孤立・老老介護、生活困窮家族）が把握されている。課題解決に向け、町や関係機関と連携しながら対応にあたってきた。

③消費者被害相談は3件あり、認知症独居高齢者宅を訪問したケアマネやサービス事業所や認定調査員から情報提供があった。県消費生活センターや警察等と相談しながら被害の拡大防止に努めた。

（4）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①町内の介護支援専門員やサービス事業所職員から支援困難事例などの相談があつた時は随時対応してきた。解決が困難な複雑なケースで様々な地域資源の活用が必要な場合は地域ケア個別会議（個別ケース会議）を開催し対応を協議した。

②介護支援専門員やサービス事業所、関係機関の知識・技術・手法等対応力の向上を高めることを目指し、地域ケア個別会議（チームアプローチ研修会、ケアマネジメント研修会）を開催した。認知症対応や多問題家族等の事例検討の他、精神疾患を持つ高齢者の理解と対応、看取りを含め医療介護連携についてなど、地域課題や関係者からのアンケートによりテーマを決めてことで、すぐに実践につながるようにした。

（5）地域ケア会議

①地域ケア個別会議に位置づけしている（高齢者サービス調整会議、チームアプローチ研修会、ケアマネジメント研修会）は定期的に開催し、介護支援専門員やサービス事業所職員等の実践力向上・情報共有の場となった。また、研修会後に参加者と地域課題の抽出を行い、月次報告にて町へ報告した。チームアプローチ研修会は昨年まで毎月開催していたが今年度は年4回とし、提出されたテーマについてのグループワークを3回、外部講師を招いての研修会を1回開催して、町内のサービス事業所関係者が多数参加した。

②会議開催時には、個人情報の守秘義務について参加者から誓約書をもらうことで介護保険法を遵守した。

③自立支援重度化予防・地域資源の有効活用の実践として「自立支援型地域ケア会議」を3回実施し、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士より、自立支援に向けた具体的な助言を得る機会となった。今後は、専門的な助言をケアプランや日々の支援に活かすことが出来るようにしていく。

(6) 認知症総合支援業務

- ①認知症ケアパスについては、認知症に関する総合相談の際、相談者への説明資料に活用したり、認知症カフェの情報コーナーに展示した。
- ②認知症サポーター養成講座の企画・実施では、身近によくある症状と声掛け対応の仕方について理解を深めもらえるよう、キャラバンメイトが実体験を伝えたり、ロールプレイで対応例を紹介するなど、対象者に合わせた内容で実施した。働き盛り世代への認知症の普及啓発が進まないことが課題であり、今年度は会津美里町と情報交換会を実施し、子供から親世代への認知症の普及啓発の取り組みを学んだ。次年度の企画で活かしていきたい。
- ③認知症ケアスキルアップ研修会では、今年度はより多くのサービス事業所職員が参加できるよう、初めて夜間4回に分けて基礎研修を開催した。次年度の研修会は、今年度基礎研修を修了した受講者の活動支援として、ステップアップ研修の開催を検討している。
- ④認知症初期集中支援チームについては、今年度新たに介入したケースがなかったためチーム会議の開催はなかったが、他市町村のチーム員活動実践報告研修会を受講したり、医療や介護につながっていない認知症に関する相談ケースは、チーム員内でも情報共有してきた。
- ⑤今年度は本町でも「認知症カフェ」の設置・運営について町やグループホーム連絡会のメンバーと共に検討し、「認知症カフェ（名称：オレンジカフェいいで愛）」を9・10・11月の3回開催した。また、昨年度に引き続き、グループホームの地域支援の展開のため、町内3ヵ所のグループホームとともに園児との農作業やレクリエーション交流会、収穫した野菜を活用してグループホーム合同の収穫祭の開催、オレンジカフェへの参加など、交流事業を町と共に協力した。
- ⑥認知症高齢者の見守り体制の整備では、徘徊や物盗られ妄想に関する相談ケースが数件あり、警察・消防等も含めた関係機関と随時情報共有し、在宅生活で危険性の高いケースについては、施設利用を進めるなど、サービス事業所の協力も得た。

にしあいづ地域包括支援センター実績報告書 平成31年4月～令和2年3月

※()は前年度

1.相談件数(延べ件数)

	来所	電話	訪問	メール	会議	その他	総計
日中	84	1288	465	19	9	300	2165(1565)
夜間	0	5	0	0	2	3	10(6)
総計	84(61)	1293(932)	465(334)	19(9)	11(13)	303(222)	2175(1571)
新規(再掲)	37(36)	188(173)	66(74)	1(1)	3(0)	45(43)	340(327)

2.相談実人数

前年度()

	男性	女性	総計
継続	98	136	234(185)
新規	133	178	311(286)
総計	231(164)	314(307)	545(471)

3.年代別(延べ件数)

前年度()

	65歳未満	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	総計
相談者年齢	121(35)	339(146)	612(601)	1100(788)	3(1)	2175(1571)

4.世帯構成(延べ件数)

前年度()

	高齢者単身	高齢者世帯	高齢者同居	その他	総計
世帯構成	630(520)	596(416)	518(557)	231(78)	2175(1571)

5.相談者(延べ件数)

家族	本人	510(289)	近隣 地域関係	近隣住民	41(18)
	配偶者	139(78)		親戚・知人	26(19)
	子供	365(304)		自治会・老人クラブ	10(4)
	子の配偶者	60(48)		商店・コンビニ	4(1)
	兄弟姉妹	33(36)		金融機関	0(2)
	親	0(1)		新聞店	0(0)
	甥姪	19(45)		宅配・交通機関	0(0)
	その他(家族)	24(20)		飲食店	0(0)
関係機関等	地域包括	5(1)		その他(近隣)	4(1)
	ケアマネ	135(90)	行政関係	福祉担当	72(78)
	サービス事業所	173(93)		介護保険担当	196(169)
	福祉施設	22(5)		障害者担当	4(0)
	社会福祉協議会	12(4)		健康支援係	95(143)
	シルバーパーソンセンター	10(3)		初期集中支援チーム	0(7)
	家庭裁判所	0(2)	その他	警察・消防	14(14)
	医療機関	385(253)		NPO・団体	0(3)
	薬局	8(7)		ケース会議	0(0)
	民生委員	61(45)		その他	1(3)
	成年後見人	12(2)	統計		
	その他(調査機関)	9(16)			2449(1813)

6.相談内容(延べ件数)

前年度()

	件数		件数
1.日常生活相談	196(115)	14.生活保護・経済的困難に関する事	29(22)
2.介護一般の相談	55(38)	15.成年後見制度に関する事	31(31)
3.介護保険サービスに関する事	341(253)	16.日常生活自立支援事業に関する事	4(7)
4.介護保険に関する事	388(319)	17.虐待に関する事	58(52)
5.保健・医療に関する事	438(199)	18.消費者被害に関する事	11(12)
6.介護予防事業に関する事	81(87)	19.情報提供・情報共有	517(337)
7.障害福祉に関する事	4(118)	20.継続観察・情報共有	143(-)
8.施設入所に関する事	103(124)	21.見守り相談	33(22)
9.家族間の問題に関する事	19(28)	22.安否確認	8(5)
10.住宅改修・福祉用具に関する事	75(59)	23.緊急対応	22(9)
11.認知症に関する事	179(98)	24.苦情	10(2)
12.精神疾患に関する事	20(9)	25.その他	116(96)
13.アルコール問題に関する事	15(6)	総計	2896(2048)

7.介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント(延べ件数)

○予防給付管理

	介護予防支援	総合事業予防ケアマネジメント
直営プラン	516(471)	266(366)
委託プラン	0(1)	0(0)

○介護予防ケアマネジメント

ミニデイ・訪問型生活援助	420
--------------	-----

8.包括的・継続的ケアマネジメント支援(延べ件数)

前年度()

	ケアマネージャー	サービス事業所	その他
相談・助言	11	23	11
サービス調整	2	3	0
関係機関調整	4	0	1
同行訪問等	1	2	0
医療機関等への同行	0	0	0
担当者会議参加	0	0	0
会議開催支援	8	5	7
連絡・報告	21	21	22
その他	9	11	2
合計	56(100)	65(57)	43(66)

○介護支援専門員や事業所等からの相談内容(実件数)

	ケアマネージャー	サービス事業所
支援困難ケースについて	1	4
ケアマネジメントについて	2	0
認知症高齢者への対応	0	1
利用者や家族からの苦情	0	0
医療・介護の連携	0	1
生活困窮・金銭管理	2	1
その他	1	3
合計	6	10

地域ケア高齢者支援会議

参加事業所（略の説明）

特養⇒特別養護老人ホームさゆりの園、D S⇒さゆりの園デイサービスセンターⅡ、のぞみ⇒グループホームのぞみ、生支ハ⇒高齢者生活支援ハウス、老健⇒老人保健施設「憩の森」、D C⇒老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション、訪介⇒西会津町訪問介護事業所、居宅⇒西会津町居宅介護事業所、障がい相談⇒障がい相談事業所、レンタル⇒福祉用具貸与事業者、薬局⇒さゆり・こゆり調剤薬局、訪看⇒西会津町訪問看護事業所、西診⇒西会津診療所、しなのき⇒介護付き有料老人ホームしなのきホーム、しょうぶ苑⇒小規模多機能型居宅介護事業所西会津しょうぶ苑、桐⇒しょうぶ苑グループホーム桐、おとめゆり⇒しょうぶ苑グループホームおとめゆり、社協⇒西会津町社会福祉協議会、民協⇒民生児童委員協議会、福祉介護課⇒福祉係・介護係、健康増進課⇒健康支援係、包括⇒にしあいづ地域包括支援センター

【高齢者サービス調整会議】

<目的>

地域の高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、地域の関係機関が集まり、地域のサービス利用状況や各事業所が抱える課題等の情報を共有し、解決に向けた連絡調整や役割分担を図り、必要な地域づくり・資源開発と、政策形成につなげられるようにすることを目的に開催する。

開催回数	参加事業所	内容	
12回	特養・D S・のぞみ・生支ハ・老健・D C・訪介・居宅・訪看・西診・薬局・しなのき・しょうぶ苑・おとめゆり・桐・社協・民協・福祉介護課・健康増進課・包括	<ul style="list-style-type: none">・各機関の利用情報・診療所の役割と介護サービス事業所との連携・在宅での緩和ケアについて・西会津町認知症ケアスキルアップ研修会について・機能訓練事業対象者の変更について・高齢者生活支援ハウス入居希望者について・福祉施設等における虐待防止研修会について・緊急通報システムについて・コンプライアンス低下患者様及び服用薬変更患者様への電話での確認について	<ul style="list-style-type: none">・各事業所からの近況・会津・南会津医療圏域過院調整ルールについて・地域ケア個別会議について・認知症カフェについて・ささえ愛支援会議について・冬期間の憩の森入所について・公開自立支援型地域ケア会議の開催について・介護予防日常生活圏域ニーズ調査について

【個別ケース会議（困難事例）】

<目的>

解決すべき課題や多問題を抱えた困難事例のケースについて、各専門職、団体や関係機関と連携を図り、個別支援及び地域課題を意識しながら迅速な課題解決に向けての支援につなげる。

開催回数	参加事業所	開催日・対象者	内 容	地域課題	結果・その後
3回	福祉介護課、 健康増進課、 特養 S.S.、 D.S.、防介、 訪看（精神）、 居宅、包括	① 7月5日 74歳（男性） 67歳（女性）	精神疾患を抱える高齢兄妹世帯。妹は要介護3。兄が妹の介護している状況だが、兄も体調不良で定期受診困難になり受診支援が必要な状況にあった。自宅も老朽化により、雨漏りがあり危険な状況にある。現在の世帯の状況について関係機関で共有し、抱える課題解決に向けて今後の支援の方向性と役割分担について協議した。自宅の老朽化が酷くつぶれる可能性があるため、妹は特養のショートを利用して施設に慣れていく特養入所を目指す。兄はアパートに一人暮らししか、養護老人ホームを見学してもらう。支援者については、他県に住む姉妹の協力は難しいので、妹の担当ケアマネ、兄の担当保健師、親戚の方で話し合いを持つ。受診に同行できる支援サービスが使えるか検討する。金銭管理は姉妹が出来ないとのことでの成年後見制度の事務手続きを進めていく等役割分担した。	支援者不足 (高齢化等) 障がい高齢者の 金銭管理	妹は9月5日に特養入所となった。 兄は12月25日に養護老人ホームに入所となった。 (成年後見相談事例と同ケース)

	福祉介護課 健康増進課 特養 S S 訪問、訪介 D S、居宅 包括	② 1月 31 日 81歳（女性） 55歳（男性）	糖尿病を抱えた母・息子の世帯。息子が母親の介護をしている状況ではあるが、息子も疾患を抱えており生活に十分な支援が難しい状況。さらに息子は債務整理、今後の就労等の問題も抱えている。現在の世帯の状況について、関係機関で共有し、抱える課題について今後の支援の方向性と役割分担について協議した。母親に関しては、在宅生活困難なため施設入所方向で調整。区分変更申請をしてあるので、特養申し込みについては近日中に息子が行うことへの促し、支援を行う。糖尿病治療のため、息子の教育入院に合わせて母親のショートステイの日程を調整していく。生活保護受給世帯なので、利用料の滞納については、福祉担当者と包括所長で対応していく等役割分担した。	8050問題 生活困窮 (息子の就労支援)	母親は4月13日に特養入所となつた。
	福祉介護課 西診、GH、 特養 S S、 居宅、包括	③ 2月 27 日 77歳（女性）	認知症高齢者と長男・長女同居の世帯。本人は昼夜間わざ町内を徘徊して、これまで何度も警察に保護されているケース。月の大半をショートステイ利用しながらグループホーム（特機1番）の入所を待っている状況。現在のショートステイ利用の仕方や、グループホームに入所した際の課題等について、関係機関で共有し、今後の支援の方向性と役割分担について協議した。長期のショートステイの利用は本来なら望ましくはないが、徘徊中の事故や生命の危険を考慮し、特養かグループホーム入所までは、現行の利用もやむを得ないということを確認・共有した。また、特養とグループホームの他に、老健の申し込みもあることを担当ケアマネから伝える等役割分担した。	認知症高齢者の 徘徊の対応	3月31日にグループホームのぞみ入所となつた。

【ケアマネジメント研修会】

<目的>

高齢者のみの世帯やひとり暮らしが増加する中、介護が必要になったとしても、また認知症になったとしても、できるだけ住み慣れた地域で生活できるための仕組み作りが求められている。個別の事例の検討を通じ、個々のニーズに応じて必要とされるサービス（インフォーマルを含む）を適切に結びつけ調整を図りつつ包括的かつ継続的にサービス供給を確保できるように、地域の対応のスキルアップを目指し開催する。

今年度は県のモデル事業として、地域の自立支援に資する実践力を高めるために、運動・口腔・栄養等の多職種による専門的な意見を持ち寄り、関係者全体の相互理解を高め、生活を支えるための連携体制強化のための自立支援型地域ケア会議を開催していく。

開催回数	参加事業所	内 容 ※() 内は事例提出事業所	地域課題
15回	居宅・包括 福祉介護課 健康増進課 しなのき 柄・おとめゆ り・しょうぶ 苑・特養・老 健・のぞみ・D C・D S・訪 介・レンタル・ 障がい相談・社 協・会津保健福 祉事務所・県健 康づくり推進 課	<p>5月① 74歳男性。要介護1。妻と同居。自立度A2 認知度Ⅲa。言語障害・認知症がある夫、さらに身体動作の改善を望む妻。ケアプラン目標設定について検討。(居宅) ※その他、平成31年2月に事例検討した2ケースの振り返り報告。</p> <p>6月① 自立支援型地域ケア会議 助言者：薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ・69歳女性。要支援2。独居。自立度自立。認知度Ⅱa。精神疾患を抱えた高齢者の食生活改善にむけた支援について（包括） ・68歳男性。要支援1。独居。自立度J2。認知度I。右手の握力が弱い利用者が調理が出来るための工夫や支援の方法について（包括）</p> <p>6月② 89歳男性。要介護3。グループホーム入所中。自立度B1。認知度Ⅲa。知的障がいの方が認知症となり入所中。他の利用者に対し大声をだしたり、ケガにつながるような危険な場面もある。本人・他の利用者ともに穏やかに生活するための支援について検討。（グループホームのぞみ）</p> <p>7月① 81歳男性。要介護2。妻と同居。自立度A1。認知度I。脳梗塞後遺症で右不全麻痺。筋力維持のため冬期間は通所リハビリ利用しているが、春～秋は通所サービス利用せずに自宅周辺散歩。今の身体機能を維持するための支援について検討。(居宅)</p>	町に言語聴覚士 短期集中通所リハビリの場

	<p>8月① 89歳女性。要介護4。二女家族と同居。自立度A2。認知度Ⅲb。介護全般について二女への依存心強く、二女もそれに応えようとする。小規模多機能に通所中も午後になると不穏で落ち着かない。本人・家族それぞれへの支援を検討。(小規模) ※その他、令和元年5月に事例検討した1ケースの振り返り報告。</p>	在宅介護者（家族等）の支援 事業所内だけでなく第三者を交えた検討の場 ケアマネ同士話せる機会
	<p>9月① 70歳女性。要介護3。老健入所中。自立度A1。認知度Ⅲb。認知症で落ち着かず、常にエスケープする危険性がある。町からの依頼で緊急入所したが、本人を知るための情報収集や共有方法について意見交換。(憩の森)</p>	徘徊認知症高齢者
	<p>9月② 76歳女性。要介護2。夫、長男、長女と同居。自立度J2。認知度Ⅲb。認知症で自宅からかなり離れた場所までの徘徊で警察に保護されること数回。家族はその重大さについて認識薄い。今後の支援方法について検討。(居宅)</p>	多問題家族（家族の経済状況が本人に影響・危険認識が薄い家族）
	<p>10月① 自立支援型地域ケア会議 助言者：薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ・87歳女性。要支援2。三男と同居。自立度J2。認知度I。転倒を予防し今後も元気に生活するために（包括） ・87歳女性。要支援2。独居。自立度A1。認知度I。脳梗塞後の再発、転倒を予防し、住み慣れた自宅での生活を支えていくために（包括）</p>	
	<p>10月② 85歳女性。要介護3。グループホーム入所中。自立度B2。認知度Ⅲa。キャバーソンの二男は関東在住、医療機関入院の際もすべて施設対応できないかと相談されている。他の事業者での対応や地元支援者についての情報を収集しつつ、今後の医療機関の受診対応を検討。(グループホーム桐) ※その他、令和元年6月に事例検討した1ケースの振り返り報告。</p>	家族遠方・地元支援者がいない人の緊急入院時の対応 町に受診時の移動支援や移送サービスの必要性
	<p>11月① 主任介護支援専門員から、介護支援専門員を支援した事例の検討 徘徊認知症高齢者とその家族の支援で、担当介護支援専門員に同行訪問。今後もこの介護支援専門員のマネジメント支援をするための視点や方法について、町内の主任介護支援専門員で意見交換。(居宅)</p>	主任ケアマネがつながる場 認サボ講座受講後のフォローアップの必要性

	<p>11月② 60歳女性。障害区分4。姉夫婦家族と同居。脳性麻痺で言語不明瞭な障がいをもつショートステイ利用者。壁やテーブルを叩く自傷行為や発声が、利用開始時より増えてきている。発語がなく思いをくみ取ることが難しいと事業所は感じているが、どのような対応があるか検討。(さゆりの園ショートステイ)</p> <p>※その他、令和元年7月に事例検討した1ケースの振り返り報告。</p>	困っていても相談につがらない本人や家族 障がい者が親亡き後も安心して暮らせる地域づくり
	<p>12月① 公開自立支援型地域ケア会議（町外からの傍聴者もあり）</p> <p>助言者：薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80歳女性。要支援2。長男家族と同居。自立度J1。認知度自立。さらにやりたいことを広げていくために（包括） ・74歳男性。要支援2。妻と同居。自立度A1。認知度自立。1本杖で歩けるようになるためには（包括） 	
	<p>1月① 令和元年6月～10月に事例検討した6ケースの振り返り報告</p>	
	<p>2月① 86歳女性。要介護1。グループホーム入所中。自立度J1。認知度II b。</p> <p>毎日、他の利用者を過剰に責めるので、相手も応戦しトラブル。職員が口論になると仲裁に入るが、これ以外に対応方法があるか検討。（グループホームおとめゆり）</p> <p>※その他、令和元年7月に事例検討した1ケースの振り返り報告。</p>	町に横聴ボランティア 認サポを受けた人の、その後の活かし方
	<p>3月① 73歳男性。要介護1。介護付き有料老人ホーム入所中。自立度A1。認知度自立。</p> <p>身元引受人のいない入所者。本人に成年後見制度の利用を勧めるが同意を得ることができない。どのようなアプローチをすれば理解いただけるかを検討。（しなのき）</p> <p>※その他、令和元年11・12月に事例検討した2ケースの振り返り報告。</p>	身寄りのない方への対応

【チームアプローチ研修会】

<目的>

ケアマネジメント（介護支援サービス）は、さまざまな領域の専門職がチームとして対応することが重要。チームアプローチに焦点をあて、利用者が住み慣れた地域で最後まで尊厳を保ちながらその人らしい生活を継続できることを目指し研修会を開催。

開催回数	参加事業所	内 容
4回	特養・D.S.・のぞみ・老健・D.C.・訪介・居宅・防看・西診・しなのき・しょうぶ苑・楓・おとめゆり・社協・福祉介護課・健康増進課・包括・障がい相談・薬局	<p>事例研究テーマ・事例提供事業所</p> <p>5月 平成30年度6回～8回の研修後の実施報告配布する。</p> <p style="text-align: center;">第6回「帰宅願望や自分の想いの内で葛藤している利用者の対応について」 ・グループホームのぞみ</p> <p style="text-align: center;">第7回「服薬管理が出来るようになるための支援について」・訪問看護事業所</p> <p style="text-align: center;">第8回「家族や事業者が必要と思っている支援を 拒んでいる利用者へのアプローチについて」・小規模多機能しょうぶ苑</p> <p>5月「ターミナルケアの利用者の対応について」・憩の森ショートステイ</p> <p>6月「社会支援を活用しながら自立に向けた支援について」・さゆりの園デイサービスⅡ</p> <p>11月「精神疾患を持つ高齢者の理解と対応について」・外部講師：訪問看護ステーション こころのあい 代表社員兼所長 精神科認定看護師 小島一行氏</p> <p>12月「本人（独居高齢者、末期癌患者）が望む生活を支援するために」 ～医療と介護の連携について～・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター</p>

【高齢者虐待対応事例】

対応件数	対象者	内容	対応・結果
4件	92歳 女性 要介護4 認知症	二男夫婦と3人暮らし。二男夫婦は就労しており日中独居で自宅は施錠がされている。介護者は二男のみで、二男の妻は介護に関わっていない。通所サービス利用時に、両頬と左頸に内出血発見。通所サービスより帰宅後にケアマネが訪問した際、二男から「畳を排泄物で汚染したため首を絞めた」と話を受けた。これまで軽く叩いたり小突いたりすることもあり「また何かあればやってしまう」と発言。二男自身もアルコール摂取量が増え、休日は朝から飲酒している状況と居宅ケアマネより通報。(身体的虐待疑い)	高齢者虐待対応協力者会議開催。福祉係と同行訪問し事実確認。本人の左耳下には濃い内出血跡確認。二男からは畳の上に失禁シーツを敷いていたが、それ以外の所に排泄したため、カッとなり首を絞めたこと認め。二男は畳を汚染したことは妻には言えず、遠方の兄弟や妻の支援はなく一人で介護を抱えている状況。自宅が汚いとの理由でヘルパーの利用は拒否。不定期でショートステイを利用し、特別養護老人ホームは入所申込待機者であるため、二男の介護負担軽減のためショートステイを追加利用。その後、特別養護老人ホームの入所案内となつたが、本人が施設入所を拒否。二男は残された予後を考えると迷う気持ちもあるが、介護に苛立ちもあるということを口にするが、施設入所により本人は十分なケアが受けられ、今後のステージごとに適切な対応があることを説明。二男も他親族と相談の結果、特養契約入所となつたため終結。
	70歳 女性 要介護1 認知症	夫と2人暮らし。自宅は国道に近く、冬に徘徊搜索があった以降、夫は目を離すことも出来ず、行動を共にしていた。ショートステイ利用中に腕・腰部に数ヶ所内出血跡発見。本人から「夫に殴られた。家に帰りたくない」と訴えあり。数日前の通所サービス帰宅送迎時にも、「夫が怖いので家に帰りたくない」と訴えることがあり、夫の介護負担も心配であるとサービス事業所からの通報。(身体的・心理的虐待疑い)	ショートステイ先で事実確認。本人の右腕と左腰部に内出血跡あり、「夫から叩かれた。家に帰りたくない」と訴え、背部からの物音に怯えたり涙ぐみ、ショートステイ入所継続の意向。福祉係と自宅訪問し夫と面談。これまで徘徊により警察・消防に3度保護歴があり、徘徊が頻回になっていることで夫の介護負担も増大。夫は自分の指示に従わない本人に対してもストレスが高まり、手や髪を掴んで自宅に戻さざるを得ない状況で介護をしていた。高齢者虐待対応協力者会議開催。夫の介護負担により再発の恐れと、徘徊による生命の危険性があるため、老健施設へ緊急入所受入を町より依頼。老健長期入所となつたため終結。

84歳 女性 介護保険利用なし	<p>夫と2人暮らし。平成29年に夫婦間で口論の末、転倒し腰部骨折歴により入院。夫は昔の嫌な記憶を思い出しては本人に対し怒鳴り攻め続ける行為があり、警察も介入し虐待ケースとして対応経過あり。この度、再び夫からの暴力が再発し、本人は親戚宅に逃げ込み、県外の長女宅で保護。以後、夫から本人と長女に昼夜間わず電話やメールで脅迫的な内容が数分おきにある。夫は長女宅まで車を運転して迎えに来たが、本人が自宅に戻らない意思を伝えると、夫は諦め自宅に戻ったが、頻繁に電話やメールをする行為は継続していると長女から通報あり。子供からも警察に相談済。(身体的・心理的虐待疑い)</p>	<p>高齢者虐待対応協力者会議開催。現時点で本人は長女宅で生活し夫と分離しているが、今後も2人での生活は再発の恐れが高いことから、自宅には戻らない分離生活が望ましいことを長女に説明。長女宅に長期間滞在できなくなった場合は生活場所を検討する方向性となった。喜多方警察署からも役場に連絡があり、子供から相談を受け警察が夫の所に訪問した所、暴力行為を認めたため厳重注意し、長女宅管轄の警察署とも連携し夫の下に戻さないよう連絡したこと。分離から1週間後、夫が長女からの電話に出ないので、長女が帰省すると衰弱していたため、家族の判断で長女宅に夫を連れて行き、再び同居生活を送る。夫はその後県外の医療機関を受診。認知症の可能性は低く、精神分裂的なものとの診断を受けた。家族の責任の下、長女宅での生活を継続することとなり、現在も警察が見守り継続中。</p>
78歳 女性 介護保険利用なし	<p>多額の負債を抱え金銭管理が十分に出来ない長女夫婦と、無職の孫娘との4人暮らし。家事は本人が全て担い、家族からは年金収入を充てにされ、長女の夫・孫達からは金銭を要求されている。別居の孫（亡き二女の子）宅に来ていた本人から、「同居の孫娘から暴力（蹴る・叩く）行為を受けている」という話を訪問した障がい相談支援専門員と保健師が聞き通報。(身体的・心理的・経済的虐待疑い)</p>	<p>孫娘が就労支援面談で不在になる日に自宅訪問し事実確認。孫娘からの暴力行為は、昨年左側腹部を蹴られ内出血になったことや、孫娘の洗濯物が不足していたことに対し逆上して頭部を蹴られた事実があった。現時点で外傷はないが、孫娘は急にカッとなるため当たらず触らず接していることや、孫娘は日常的に些細なことを長女の夫に告げ口をするため、長女の夫からも責め立てられる。長女の夫は金銭を要求するが一度も返済はなく、孫息子の就学資金・生活費も年金から充て、不足すると親族から借入していた。自宅を離れても行く當てもなく、家族に追いかけられる恐怖心あり。固定電話もないため外部との連絡手段もない状況。世帯の課題を福祉係等と役割分担。本人には身体機能維持と自宅から分離する機会も含め機能訓練事業につないだ。その後、連絡手段として本人は携帯電話を所持するが使いこなせない。孫娘は町外に就職し分離。継続観察中。</p>

【成年後見相談事例】

相談件数	対象者	内容	対応・結果
1件	74歳 男性 事業対象者 総合失調症 67歳 女性 要介護3 総合失調症 高齢者・精神障害兄妹世帯	兄妹共に障害年金受給者。74歳男性が2人分の金銭管理をしているが、計画的な管理が出来ず、年金が入ると支給額の半分以上を支給月に使ってしまうため、生活が困窮。手元に現金が無くても移動販売等には後払いでの購入したり、サービス利用料や税金・光熱水費等は滞納するなど、負債が膨大。家屋状況も老朽化し、生活の場の確保も必要となっている。	前年度より継続事例。親族も高齢・遠方で支援困難であることから町と共に成年後見制度町長申立てを進めた。制度につながるまでは、金銭管理をしている兄（74歳男性）の収支整理を支援。兄妹共に審査確定し、専門職（社会福祉士）が選任され、兄は保佐・妹は後見開始。その後、兄は養護老人ホーム、妹は特別養護老人ホームにそれぞれ入所となった。

【消費者被害相談事例】

相談件数	対象者	内容	対応・結果
3件	93歳 女性 独居 認知症 要支援2	訪問介護職員が訪問した際、通信販売業者から届いた空箱と定期購入契約書・振込納付書を発見。商品が見当たらないため、自宅内を探したら冷蔵庫の中に黒酢2本があった。 (平成29年・30年にも電話での勧誘による代引き商品送りつけがあったケース)	自宅訪問。定期購入契約書と振込書・黒酢が未開封状態であり。本人は購入した記憶はなく、不用品とのことで県消費生活センターにクリーリング・オフ対応を相談。県消費生活センター仲介により、契約解除・業者着払いでの商品返送手続きの指示あり。県消費生活センターから業者に本人宅への連絡経緯を確認した所「電話帳を調べ特定の地域の不特定多数の方に連絡をした」との回答。平成30年に警察署より録音機能装置を貸与し取り付けではいたが、再発防止のため電話番号を変えることの提案あり。帰省した姪が着払いでの返品対応。電話番号変更について姪からNTTに問い合わせすると亡き夫の名義であったため、新規電話番号取得手続きをしていくこととなった。
	84歳 女性 独居 認知症 要介護1	自宅に健康補助食品等の販売の電話や訪問があり、使用しきれない程の物が沢山あったことに認定調査員が気付いた。調査に同席していたケアマネは「契約解除するようにする」と言つていたが、状況確認の依頼が福祉介護課より連絡あり。	居宅担当ケアマネ・訪問介護サービス提供責任者と同行訪問。置き薬業者2社より商品購入。内1社からはしょうが湯・肝油・美容クリームを複数購入しており、本人からは「業者が強引に置いていくため断れない」と話あり。置き薬自体も使用していない、定期的に受診し、処方を受けていた。ヘルパーが週1回買い物支援で関わっており、本人には必要のない高額な商品は返却し、必要な物はその都度ヘルパーに買物依頼した方が経費も安く済むことを説明。商品解約の意向確認。担当ケアマネから家族へ情報提供し解約手続きを代行してもらうことと、商品引き取りの際には立ち合いの下、確認が望ましいことを伝えた。今後も訪問時に関係者間で見守り確認していく方向性となった。

	86歳 女性 夫・子供同居 要支援2	自宅に買取業者から着物の買取の電話連絡あり。本人は断りの返答をすると、業者は何度もしつこく繰り返すため、電話を切る対応を行った。	訪問中のケアマネが本人に電話の相手を確認すると、買取業者からで、同様の電話が過去にも数回あったことが判明。福祉介護課・西会津交番へ情報提供。西会津交番より今後巡回訪問することと、迷惑電話があった時に直接交番に連絡し、買取訪問等があった場合にはすぐにその場で警察に連絡することを当事者に伝達して欲しいとの助言あり、本人へ伝える。町内で同様の電話を受けた世帯が複数あることから、町広報・ケーブルテレビ等でも町民に向け注意喚起した。
--	--------------------------	--	---

【西会津町地域包括支援センター連絡会】

町における地域包括ケアシステム推進のため、にしあいづ地域包括支援センターの業務が円滑に運営できるよう「西会津町地域包括支援センター連絡会」を行う。

開催回数	参加事業所	内容
12回	福祉介護課・介護係（課長補佐、地域包括支援センター担当者）、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会福祉活動専門員	<p>毎月、ミニディサービス、生活支援体制整備事業に関すること、認知症対策と認知症地域支援推進員、地域ケア会議、地域福祉活動、新総合事業に関すること等について情報共有や検討をした。</p> <p>※上記のほか、主な内容</p> <p>(4月) 認知症キャラバンメイト市町村担当者研修、キャラバンメイト養成研修、認知症地域支援推進員現任者研修、認知症ケアスキルアップ研修・基礎研修、ケアマネジメント研修、チームアプローチ研修の予定について</p> <p>(5月) 民生委員地区会議、町福祉大会について、地域貢献事業道の駅「よりっせ」研修室の利用について、自立支援型地域ケア会議開催について、認知症カフェ企画案の提出について、認知症ケアスキルアップ研修打ち合わせ</p> <p>(6月) 認知症初期集中支援チーム経過報告、認知症カフェ企画会議について、認知症ケアスキルアップ研修、要介護認定者の機能訓練利用について検討、運営推進会議・グループホーム連絡会について</p> <p>(7月) 須刈ネットワーク会議報告、認知症カフェ名称案・企画について、「移送支援」に関するアンケート結果について、グループホーム連絡会報告、エンディングノートについて</p> <p>(8月) キャラバンメイト打ち合わせ、認知症ケアスキルアップ研修、認知症カフェについて、認知症による徘徊対応について「事が起こった時の情報の共有の仕方・警察署との連携について」</p> <p>(9月) 認知症ケアに携わる人材育成のための研修会、福島県認知症カフェサミット、自立支援型地域ケア会議（2回目）、福島県自立支援型地域ケア会議先進自治体視察研修</p>

- (10月) ささえ愛支援会議喜多方市視察研修、認知症ケアスキルアップ研修（振り返り）、認知症カフェ開催内容検討、会津美里町との情報交換会日程調整
- (11月) ささえ愛支援会議における調査について、ミニデイサービス緊急搬送時の付き添い・支援体制の確認と対応について、認知症カフェ（3回目）について、認知症疾患医療センター研修会、予算要求、自立支援型地域ケア会議について、会津美里町との情報交換会
- (12月) ミニデイ利用者への理学療法士からの評価、ささえ愛支援会議視察研修復命、認知症サポート一養成講座、認知症ケアバス改訂版発行について、会津美里町認知症カフェ視察予定、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、運営推進会議予定について
- (1月) 認知症サポート一養成講座実施状況報告、サロンのメニュー内容の確認と講話の内容検討求められるサロン内容についての話し合い、認知症対策担当者意見交換会（会津若松市）出席について、除雪給付券について、G P Sの取り扱いについて
- (2月) ささえ愛支援会議年間計画及び西会津町協議体参加者名簿（令和2年度）案について、認知症キャラバンメイト事務局打ち合わせについて、ミニデイサービス評価と環境整備について、G P S希望者選定について
- (3月) ミニデイサービス行事・活動・制作作品計画について、生活コーディネーターが行う具体的活動について、在宅介護実態調査実施について、G P Sの使い方について（説明）、支援ハウス利用契約書の内容の見直しについて

【平成31年度サロンにおける講話実施状況】

開催回数	対象サロン（参加人数）		内 容
7回	4月	井谷サロン（8名）	テーマ「認知症予防について」 認知症は病気であること。初期対応が重要であることを伝え、そのための7つの対策をエピソードを交えながら説明。座りながらできる運動を2つ皆で行い、最初に自分のことでも周囲のことでも認知症に関して気になることがあるときには包括へ連絡をいただくように話をした。
	5月	① 群岡・新郷地区西会津町民生児童委員（13名）・福祉協力員（3名） 計 16名 ② 野沢・尾野本地区西会津町民生児童委員（16名）・福祉協力員（4名） 計 20名	テーマ「認知症の方への接し方・見守り方法を知る」 西会津町における認知症の現状として、高齢化率・高齢世帯の増加と、要介護認定者だけでも9割がなんらかの認知症状があらわれていることを説明。認知症ケアパスの資料を用いながら認知症の症状「中核症状」と「周辺症状」、接し方や見守り方のポイントを説明した。地域包括支援センターに寄せられる相談事例を紹介。地域の人たちがさりげなく見守りをしていることで、認知症になっても地域で生活できていることを説明した。
	7月	中野サロン（7名）	テーマ「介護予防・認知症予防について」 地域包括支援センターについて（場所：総合相談窓口である事等）紹介し、介護予防・認知症予防についての資料を使い、要介護状態になる要因と介護予防の3つの柱「運動」「食生活」「社会参加」の詳細について、具体的な資料を基に例を出して説明し、額に手を当てる力を入れる“おでこ体操”をみんなで行った。周囲の人でもいつもと違う様子とか心配な様子があるときは包括に連絡してほしいと話をした。
	8月	中町サロン（13名）	テーマ「人生の最終段階への準備について」 地域包括支援センターについて、場所・総合相談窓口であることを紹介。人生の最終段階への準備という内容で講話する背景（多死時代を迎えてる。厚生労働省から人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインが出ている。元気な時に「自分で前もって考え、周囲の信頼できる人たちと話し合い、共有することが重要」であ

		すること)を説明した。もしもの時の医療・ケアについて伝えるカードの使用や、持参したエンディングノートを参加者に見ていただいた。
10月	① 奥川元気クラブ（13名）	テーマ「もしものときのために」 地域包括支援センターについて、場所・総合相談窓口であることを紹介。「もしも」の時や認知症が重度になると、自分の気持ちを伝えられなくなる。病状の説明を受けたら自分で治療方針を選ぶことができる時代である。元気な時に「大切にしていること」「信頼できる人」について考え、「もしも」の時の希望も信頼できる人と話して伝えておき、記録を残しておくと、いざという時自分の気持ちが尊重され、残された人もその気持ちを大切に支援することができると説明した。エンディングノートについても、必要性やメリット・デメリットを説明しながら、実物を見ていただいた。
	② 牧サロン（9名）	テーマ「もしものときのために」 地域包括支援センターについて、場所・総合相談窓口であることを紹介。資料を基に説明。「もしも」のための医療・ケアについて伝えるカードは気持ちが変われば書き直すこともできる。「もしも」について、考えたくないというのも個人の選択肢ではあると説明した。

【平成31年度認知症サポーター養成講座実施状況】

開催回数	対象者	トピックス
8回	西原輪サロン 8人	住民キャラバンメイト（1グループ）が企画・実施。介護経験のある住民メイトが介護体験も踏まえて講話をした。参加者からはDVDでの対応例を見ながら、「あの対応はひどい」という自然な感想が出ていた。自分であつたらどの様に対応することが望ましいかを考えながら参加できていたが、参加者自身が『自分たちに何ができるか』までは話題が広めることは難しかった。
	西会津小学校5学年（児童・教員） 39人	前年度小学校の福祉教育カリキュラムが5年生に変更になったことから、今年は5年生を対象に実施。○×クイズを取り入れたりした内容とした。グループワークを実施せず、振り返りシートの内容を変更し、講座を受けての感想と自分たちに出来ることを記述式で書いてもらった。来年以降は再び以前のように6年生が福祉教育のカリキュラムとなる。
	西会津中学校3学年（生徒・教員） 40人	中学3年生を対象に講座を実施。中学生にも冒頭に○×クイズを取り入れ、小学校で学んだことの振り返りを入れ、講話だけでなく、生徒にも参加型の講座内容を取り入れた。どの生徒も積極的に学んでおり、認知症の方の気持ちを理解した上で対応の大切さを感じた生徒が多かった。
	小山サロン 10人	住民キャラバンメイト（2グループ）が企画・実施。8名のキャラバンメイトのうち、住民メイト（元介護職員）1名と専門職メイト（グループホーム職員）1名が初めて講話を実施した講座であったが、介護の現場の声やエピソードで分かりやすく説明した。最後に頭の体操を全員で行い、笑って終了出来た。
	福祉施設・役場・シルバー人材センター事務局職員 29人	町内の福祉施設職員・役場職員等の合同研修会として講座を実施。標準教材テキストと併用でパワーポイント資料を活用することで、前半の講義では要点をまとめ簡潔に説明することができた。認知症の方への接し方はロールプレイを取り入れ、職域ごとにグループ編成し、日頃の業務の中でよくある帰宅願望時の対応と、地域課題の1つでもある徘徊時の声掛けの仕方を取り入れた。専門職キャラバンメイトが対応の例を説明することで、「実際の対応の仕方が分かりやすかった」という感想も多かった。

	下野尻サロン 19人	ボランティアサポートセンターからの依頼で、住民キャラバンメイト（2グループ）が実施。町の現状の中で、介護認定を受けている方は、何かしら生活の中で認知機能に低下が見られている割合が9割になっていることを説明すると、受講者から驚きの声が上がった。認知症の方に接する時の心構えは『西会津版 認知症の人に起こりやすいことと、その開わり方について』をもとに、住民メイトから自分の体験談（同じ話を繰り返す・物盗られ妄想・小銭がいっぱい・お茶のみに来てなかなか帰らない）を解説。受講者は頷きながら話を聞いていた。
	雪処理支援隊 6人	冬期間高齢者世帯を中心に除排雪支援に関わる役場臨時職員（雪処理支援隊）を対象に講座を実施。テキストと併用となるパワーポイント資料を活用し、認知症の理解（症状・治療・予防）の説明を行った。後半はグループワークやロールプレイで接し方や対応について理解を深めてもらった。受講者には接し方（3つのないの心得）と、心配な場合に出くわした際には、福祉介護課や地域包括支援センターにつなぐことの大切さを説明。受講者のアンケートからも、今後の業務上高齢者宅の支援で高齢者に接する時に活かしたいと感じてもらえた。講座翌日には受講者から、有事の際の連絡先としてオレンジリングに役場と包括の連絡先を張り付けてもらいたいとの依頼があった。
	西会津高校3学年（生徒・教員） 20人	約半数が西会津中学校卒業生のため、中学校3年生の時に1度受講済（中学生用テキスト）であったが、他市町村出身の生徒は初めての受講の機会となった。前半はテキストの内容を中心としたパワーポイント資料で認知症の理解を講義で深め、後半は演習（個人ワークとロールプレイ）で認知症の方の思いを知ることと、認知症の方への対応の仕方について生徒から意見発表や対応例の実演を行った。対応を披露した男子生徒の高齢者への声掛けの仕方が優しく丁寧でとても良い手本となった。アンケート結果から、社会人になる前に認知症のことを学ぶ機会があり良かったことと、接し方についても理解できた生徒が多くった。
合計	全 8回 延べ参加者数 171人 <学校：3 自治区：3 職域：1 各種団体：1 >	
30年度	全14回 延べ参加者数 289人 <学校：4 自治区：8 職域：1 各種団体：1 >	

【平成31年度 認知症カフェ（オレンジカフェいいで会）実施状況】

開催回数	開催月	会 場	参加人数	内 容
3回	9月	介護センター実習室	本人 11名 家族（介護者）1名 専門職 11名 地域住民 3名 合計 26名	ミニ講話 「頭と身体の体操」 講師 にしあいづ地域包括支援センター 保健師 斎藤美香氏
	10月	介護センター実習室	本人 7名 家族（介護者）0名 専門職 6名 地域住民 6名 合計 19名	ミニ講話 「笑いヨガ」 講師 地域おこし協力隊 成田尚美氏
	11月	介護センター実習室	本人 10名 家族（介護者）1名 専門職 7名 地域住民 2名 合計 20名	ミニ講話 「お薬手帳の重要性」 講師 さゆり薬局 薬剤師 長谷川大氏

ア 施設外研修状況 平成31年度 にしあいづ地域包括支援センター

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	全会津介護支援専門員協会 総会・記念講演	○総会 ○記念講演 介護支援専門員が知っておきたい成年後見制度～実践事例をふまえて～ 川島康司 司法書士事務所 川島康司氏	主任介護支援専門員 主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症 地域支援推進員	森千香子 佐藤小百合 鈴木朋美	H31.4.23	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース	復命書 朝礼で報告
2	養護者による高齢者虐待対応基礎研修	○高齢者虐待防止法の概要と市町村の実際 県高齢者虐待対応専門チーム 運営委員長 弁護士 平石典生氏 ○高齢者虐待における初動期及び対応期の要点 東日本国際大学 教授 松本喜一氏 ○養護者による高齢者虐待への対応の手順と初動期段階のポイント 県高齢者虐待対応専門チーム 谷川ひとみ氏	保健師	齊藤美香	R1.5.14～5.15	福島県高齢福祉課 コミュニケーション福島	復命書 朝礼で報告
3	県社協地域包括・在介センター協議会 総会講演	平成30年度事業報告・収支決算報告令和元年度事業計画・収支予算 講演：米沢市における「自立支援型地域包括ケア会議」の取組みについて 米沢市包括センター長 平眞一氏	主任介護支援専門員	森千香子	R1.5.27	福島県社会福祉協議会 福島県農業総合センター	復命書 朝礼で報告
4	介護予防ケアマネジメント 実務者研修	○自立支援を目指した介護予防と日常生活支援事業について ○総合事業における介護予防ケアマネジメントの実践について (株)ライフリー代表取締役佐藤孝臣氏	主任介護支援専門員	佐藤小百合	R1.6.5	福島県健康づくり推進課 けんしん郡山文化センター	復命書 朝礼で報告

5	自立支援型地域ケア会議 トップセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ○自立支援型ケア会議の意義と目的 ㈱ライフリー代表取締役佐藤幸臣氏 ○公開地域ケア会議 ○自立支援型地域ケア会議の実践 アドバイザー <ul style="list-style-type: none"> ・県柔道整復会・県柔道士会 ・県歯科衛生士会・県理学療法士会 ・県作業療法士会・県言語聴覚士会 スーパー・バイザー ㈱ライフリー代表取締役佐藤幸臣氏 	主任介護支援専門員	秦千香子	R1.6.6	福島県健康づくり推進課 県総合病院	復命書 朝礼で報告
6	福島県地域包括・在宅介護支援センター協議会	<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○包括的基本的業務と役割 県保健福祉部 横山ひとみ氏 ○総合相談支援業務 喜久山地域包括管理者柳内晃彦氏 ○権利擁護業務 いわき市権利擁護・成年後見センター鈴木栄央氏 ○包括的継続的ケアマネジメント業務 猪苗代町地域包括管理者内山尚子氏 ○介護予防ケアマネジメント業務 福島市吉井田地域包括管理者遠藤裕美氏 事例検討 ○自立支援に向けたアセスメントを学ぶ 福島市吉井田地域包括管理者遠藤裕美氏 ○虐待事例等に見る支援方法 会津美里町地域包括所長宮口正徳氏 	保健師	齊藤美香	R1.6.12～6.13	福島県社会福祉協議会地域包括・在宅介護支援センター 福島県農業総合センター	復命書 朝礼で報告
7	介護予防支援従事者研修	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防ケアマネジメント基本的考え方とプロセス 講師:白河市地域包括 黒吉典氏 ○演習 事例紹介:西郷村地域包括 菊池智重氏 ○ロールプレイ 講師:渡利地域包括 紺野奈々氏 	保健師	齊藤美香	R1.6.19	一般社団法人福島県介護支援専門員協会 福島県農業総合センター	復命書 朝礼で報告

8 認知症地域支援推進員研修【現任者研修】	<p>講義Ⅰ：認知症施策の動向と推進員の役割の確認 演習Ⅱ：活動成果の確認と共有実践報告・演習Ⅲ：成果を生み出すための工夫と実際 報告者 新潟県分水地区包括活力石野弘氏 和歌山県御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口泰之氏 演習Ⅳ：自地域の課題の整理と統清に向けた具体的な検討 演習Ⅴ：活動計画の立案・共有 指師：認知症介護研究・研修東京センター 永田久美子氏</p>	<p>社会福祉士兼認知症地域支援推進員 鈴木朋美</p>	R1.6.27	<p>認知症介護研究・研修東京センター TKPガーデンシティ仙台</p>	<p>復命書 朝礼で報告</p>
9 全会津介護支援専門員協会 第1回研修会	<p>自立支援型ケアプランの作成を学ぶ～ケアマネージャーに求められるケアマネジメントとコンプライアンス～ 講師：あたご研究所 代表 後藤桂苗氏</p>	<p>主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員 佐藤小百合 鈴木朋美</p>	R1.7.26	<p>全会津介護支援専門員協会 アピオスペース</p>	<p>復命書 朝礼で報告</p>
10 地域包括・在介支援センター リーダー職員研修会	<p>○講義 地域包括・在介支援センターを取り巻く情勢とセンター長等リーダーに求められる役割等について 講師：全国地域包括・在介支援センター協議会 研修委員会 山田圭子氏</p> <p>○実践発表 市町村（保険者）との関係調整等において工夫したこと 発表者：旭川市永山包括高橋透江氏 丹波市障害包括相談次葉絆子氏 鹿児島市中央包括相談室幸恵氏</p> <p>ファシリテーター 全国地域包括・在介支援センター協議会 研修委員会 村山文彦氏</p> <p>○演習 地域課題の解決に向けて市町村（保険者）とともに取り組むために～政策提言をイメージしながら、センター長等リーダーの役割について考えよう～ ファシリテーター 全国地域包括・在介支援センター協議会 研修委員会 村山文彦氏・南部好宏氏</p>	<p>主任介護支援専門員 犀千香子</p>	R1.7.25～26	<p>全国地域包括・在介センター 全国社会福祉協議会 会議室</p>	<p>復命書 朝礼で報告</p>

11	福島県認知症グループ ホーム協議会第17回公開講座	第1部講演 「認知症って何ですか？～変わりつつある医療と介護の常識～」 演者：樋口直美氏（レビー小体病当事者） 第2講演 「レビー小体型認知症の正しい理解」 演者：あずま通りクリニック院長 小林直人氏	主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症地域支援推進員	佐藤小百合 鈴木朋美	R1.8.19	福島県認知症グループ ホーム協議会 ピッグパレットふくしま	復命書 朝礼で報告
12	福島県地域医療介護総合確保基金事業 認知症ケアに携わる人材育成のための研修会	基調講演 「会津若松市における認知症初期集中支援チーム活動」 ～懇談実際と、チーム活動に思うこと 講師：会津西病院副院長新井田有耕氏 シンポジウム 「認知症初期集中支援チームの効果的な活動の在り方」 報告①白河市認知症初期集中支援チーム 湖南こころのクリニック鈴木まゆみ氏 報告②本宮市認知症初期集中支援チーム 東北病院総合相談支援室 佐藤瑞子氏 報告③郡山市認知症初期集中支援チーム あさかホスピタルリハビリテーショングループ 阿部哲教氏 座長：介護老人保健施設ひもろぎの園 リハビリテーション科長 石井利幸氏	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R1.9.29	一般社団法人 福島県作業士会 ユラックス熱海	復命書 朝礼で報告
13	ひきこもり支援者向けセミナー	○ひきこもり当事者との対話交流会セッション 当事者に聞いてみたいこと 協力:NPO法人からこころセンター	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R1.10.17	福島県ひきこもり支援センター 道の駅あいづ 湯川・坂下会議室	復命書 朝礼で報告

14	福島県認知症高齢者等 SOSネットワーク模擬訓練	○声かけ訓練 ○地域情報伝達訓練	主任介護支援専門員 秦千香子	R1.10.24	福島県高齢福祉課 会津本郷体育馆	復命書 朝礼で報告
15	会津障がい保健福祉団体連絡会及び厚生労働省保健指導支援事業に伴うヒアリングについて	『ピアソーシング活動について』 県精神保健福祉センター三瓶真美氏 『ピアソーターからの活動報告』 五十嵐信亮氏、他2名 『地域で生活をしていくための本人、地域への関わり』 △会社△東京協会△連絡会△民	保健師 齊藤美香	R1.10.17	福島県会津保健福祉事業所障がい者支援チーム 竹田総合病院	復命書 朝礼で報告
16	地域包括・在宅介護支援センター協議会 会津支部 研修会	○令和元年度介護予防市町村支援計画及び実施状況 会津保健福祉事務所 古川光一氏 ○会津若松市における在宅医療・介護連携支援センターの活動状況 会津若松市在宅医療・介護連携支援センター 梅宮真智子氏・大堀晃寛氏 ○在宅での看取りについて 小川医院 今田かおる氏 ○会津で生きるを守る会『会津17よこ糸ねっと』活動報告 会津美里町高齢者あんしんセンター 三津谷若子氏	主任介護支援専門員 秦千香子	R1.11.21	地域包括・在宅介護支援センター協議会 会津支部 会津西病院	復命書 朝礼で報告

17	高齢者の自立支援に向けた介護事業所向け研修	1. 福島県における自立支援型地域ケア会議の取組みについて 福島県健康づくり推進課 谷岡道子氏 2. 高齢者の自立支援に向けた介護事業所のありかた (株)ライフリー 佐藤孝臣氏	保健師	齊藤美香	R1.11.1	福島県健康づくり推進課 けんしん郡山文化センター	復命書 朝礼で報告
18	認知症疾患医療センター 事例検討会	事例検討2件	主任介護支援専門員 社会福祉士兼認知症 地域支援推進員	佐藤小百合 鈴木朋美	R1.11.21	認知症疾患医療センター 竹田総合病院	復命書 朝礼で報告
19	西会津町ささえ支援会 懇親会研修	○喜多方市の現状 高齢福祉課地域包括ケア推進係 熊倉憲英氏 ○わんわんパトロール隊の活動概要について 高齢福祉課地域包括ケア推進係 三浦朋子氏	保健師	齊藤美香	R1.11.26	西会津町社会福祉協議会 喜多方市役所	復命書 朝礼で報告
20	全会津介護支援専門員協会 第2回研修会	○映画鑑賞 奇跡の小学校 ○意見交換会	主任介護支援専門員 主任介護支援専門員	秦千香子 佐藤小百合	R1.11.26	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース	復命書 朝礼で報告
21	地域包括・在宅介護支援センター協議会 職員(現任者)研修	○講演 地域包括ケアシステムにおいて包括・在介センターに期待される機能と職員に求められる役割 ○グループワーク 包括・在介センターに期待される役割を果たすためには ○講師 東北福祉大学 准教授 工藤健一氏	主任介護支援専門員	佐藤小百合	R1.11.29	県社会福祉協議会 地域包括・在宅介護支援センター協議会 ウイル福島	復命書 朝礼で報告

22	認知症カフェセミナー2 020	<p>○講演「認知症カフェの独自性と効果的運営」 藤田医科大学 教授 武地一氏</p> <p>○ディスカッション「認知症カフェの独自性と効果の考え方」 武地一氏・矢吹知之氏</p> <p>○事例でわかる認知症カフェのこれからを開く</p> <p>①特集でも地域に広がるオープンな認知症カフェ 熊澤則子氏(山形県)</p> <p>②若年性認知症カフェ+オランダスタイルの認知症カフェの作り方 中島珠子氏(東京都)</p> <p>③認知症カフェ「安心オレンジネット」取り組み紹介 荒谷里美氏(仙台市)</p> <p>④認知症だからできること~出張おれんじドア~ おれんじドア実行委員会(仙台市)</p>	主任介護支援専門員	秦千香子	R2.1.11	仙台市、認知症介護研究・研修仙台センター 東北福祉大学仙台東口キャンパス	復命書 朝礼で報告
23	認知症対策担当者等意見交換会及び会津地域認知症疾患連携協議会	<p>1. 会津地域認知症疾患連携協議会 令和元年度実績報告</p> <p>2. 認知症対策担当者意見交換会 (1) 実績報告 ア 認知症高齢者等SOSネットワーク模擬訓練</p> <p>①会津美里町 健康ふくし課 遠藤綾美氏 地域包括支援センター 斎藤光樹氏</p> <p>②会津若松市 北会津ふれあいネットワーク 佐藤光彦氏</p> <p>③会津若松警察署会津美里分庁舎 刑事第一課長代理 織田裕美氏</p> <p>イ 高齢者見守りネットワーク 「SUN8ネット」 会津若松市若松第3地域包括支援センター 小柳慎氏</p>	社会福祉士兼認知症地域支援推進員	鈴木朋美	R2.1.29	福島県会津保健福祉事務所 会津若松市北会津支所 ピカリンホール	復命書 朝礼で報告

24	会津地域在宅医療推進研修会	<p>○喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取組みについて 地域包括ケア推進係 大須義智氏</p> <p>○病気を持って自分らしく在宅で療養生活を送るために支援 Ⅰ 心疾患を持つ一人暮らしのIさんを多職種で支援 ニティケアセンターしおかわ 高橋健一氏</p> <p>Ⅲ 2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介 さくうん訪問 所長 鈴木みどり氏</p> <p>Ⅳ 人工呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援 会津保健福祉事務所 黒田裕子氏</p> <p>○私たちのめざす会津地域の在宅療養～3事例を通して～ 会津保健福祉事務所 黒田裕子氏</p>	主任介護支援専門員	秦千香子	R2.2.15	会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼で報告
25	生活支援体制整備事業情報交換会	<p>I 報告 生活支援体制整備事業について</p> <p>II 講演 S Cと行政、関係機関の強みを生かした地域づくり 秋田県小坂市 福祉課 三枝貴秀氏</p> <p>III グループワーク 目指したい暮らしぶりとこれから取り組み</p>	主任介護支援専門員	佐藤小百合	R2.2.17	福島県会津保健福祉事務所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下会議室	復命書 朝礼で報告

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：にしあいづ地域包括支援センター

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	0	0	0	1	1
合計		0	0	0	0	0	0	2	2

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	2	2
合計		0	0	0	0	0	2	2

平成31年度
障がい相談事業所にしあいづ事業報告

1. 基本方針

障害者総合支援法に定める基本理念に基づき、障がい者本人が望む生活の場において安心して生活できるよう、障害福祉サービス等の利用につなぎ支援を行ってきた。

社会参加の機会が確保されるよう障がい者本人等に利用できる資源について情報提供し、行政やサービス事業者・関係機関等との連携を図り、定期的に外出する機会を提供することができた。新たな社会資源開発や改善には至らなかったが、現在の資源を有効に活用し日常生活の支援ができた。

2. 重点目標

(1) 相談支援と権利擁護

障がい者等からの相談に応じ、利用できるサービス内容や利用までの手順など必要な情報の提供や助言を行い、サービス利用に伴う調整を各事業所等と速やかに行うことができた。

虐待ケースについては、本人と家族々の意向を確認し、分離しての生活をすることで本人の安全や家族の負担軽減を図ることができた。

(2) 個別支援

本人と家族が望む生活を、希望する生活の場において継続できるよう自宅や事業所へ出向き、面談にて確認や情報提供し個別に対応することで、本人等の不安の解消に努めることができた。

(3) サービス利用調整

本人が主体となるサービス提供が行えるよう自宅等へ訪問し、サービスの利用に関する意向を聞きながら、就労や生活介護・居宅介護などのサービス等利用計画を作成し、サービス利用につなげた。

作成したサービス等利用計画については、自宅やサービス事業所等へ出向きサービス提供状況の確認を行った。必要に応じサービス等利用計画の変更を行い、身体や精神状況に変動のある利用者に対しても、医療機関でのケア会議に積極的に参加し、多くの関係者と情報共有を行い対応してきた。それにより退院後の生活もサービスの継続利用により不安なく過ごすことができた。

(4) 相談支援専門員の質の向上

相談支援専門員として、相談支援ワーキンググループや専門コース別研修などに参加し、障がいの特性を深めることができ、本人との関わり方をさらに理解することができた。

障がい相談事業所にしあいづ
(平成31年4月～令和2年3月)

(計画相談支援を利用している障害者等の人数)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
	障害者	障害児																								
身体障害	3	0	5	0	2	0	5	0	1	0	5	0	5	0	4	0	5	0	4	0	3	0	4	0	46	0
重度心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	8	0	7	0	6	0	8	0	9	0	6	0	11	0	7	0	13	0	11	1	10	0	11	0	107	1
精神障害	7	0	8	0	8	0	7	0	8	0	7	0	7	0	8	0	5	0	7	0	7	0	8	0	83	0
発達障害	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	18	1	20	1	16	0	20	0	16	0	18	1	23	0	19	0	23	0	22	1	20	0	21	0	236	4

(計画相談支援月別状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害者	2	2	5	1	4	4	4	7	4	2	5	6	46
障害児	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
計	3	2	5	1	4	4	4	7	4	3	5	7	49

(障害福祉サービス利用実施状況) ※重複利用あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就労	1	1	3	1	2	2	4	4	3	0	5	4	30
居宅	0	0	2	0	2	3	0	2	0	0	0	1	10
生活介護	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4
短期入所	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
グループホーム	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	5
療育	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	3	2	7	1	5	6	4	10	4	2	5	8	57

ア 施設外研修状況 平成31年度 障がい相談事業所にしあいづ

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	福島県障がい者相談支援 (障がい者ケアマネジメント)従事者専門コース別研修	<ul style="list-style-type: none"> ○本研修の目的と精神障害者の障害特性の総論的理 解 ○障害特性の理解と具体的な対応① <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症 針生ヶ丘病院松本マチ子氏 ・気分障害 一陽会病院 佐藤周平氏 ○設定場面での対応① 郡山コスマス会 水野博文氏 ○当事者の思いを理解 県精神保健福祉センター 三瓶真美氏 ○障害特性の理解と具体的な対応② <ul style="list-style-type: none"> ・老齢期の精神障害 安積地域包括 安西里実氏 ・依存症 福島学院大学 北本明日香氏 ・発達障害 郡山コスマス会 遠藤慶介氏 ○設定場面での対応② 白河市東部包括 須藤美樹氏 ○社会資源と連携、家族支援 ○より良い支援のための連携のあり方 メンタルクリニックなごみ須藤康宏氏 	相談支援専門員	佐藤千春	R1. 5. 30~5. 31	福島県 郡山総合福祉センター	復命書 朝礼で発表
2	相談支援事業に関する ワーキンググループ 高齢分野との連携を考える	事例検討グループワーク 障がい福祉サービス利用者が介護保険サービスへ移行する時の支援を考える	相談支援専門員	佐藤千春	R1. 10. 8	会津障がい保健福祉団体連絡会 会津若松市コミュニティ施設ピカリンホール	復命書 朝礼で発表
3	市町村知的障がい者福祉担当者等研修	障がいのある子の「親なきあと」～「親のあるあいだ」の準備～ 渡部行政書士社労士事務所 渡部伸氏	相談支援専門員	佐藤千春	R1. 11. 25	福島県障がい者総合福祉センター 福島県青少年会館	復命書 朝礼で発表

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：障がい相談事業所にしあいづ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
申立者	利用者	説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	0	0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

平成31年度事業報告書
グループホームのぞみ

<事業の概況>

平成31年度は、安心して自分らしい暮らしが出来る様に、食事の準備、清掃洗濯物たたみなどの家事を行うに当たり、入居者が出来るところは出来るだけご本人に行って頂きながら、入居者同士の大きなトラブルが起きないように配慮、支援してきた。また、家族への行事参加や家族会の参加への促しを行い、遠足や、盆踊への参加協力を得ることが出来た。畑作業においては、こゆり子供園の園児と一緒に、夏にはじやがいも掘りを楽しみ、秋には、落花生の収穫を楽しんで行い、園児と一緒に楽しい時間が過ごす事ができた。

<重点目標について>

(1) 個別援助計画

平成31年度は、入居者の方との日々のコミュニケーションを大切にし、思いをくみ取るよう努めた。毎月モニタリングを行い、状態の変化に合わせて、計画作成に反映できた。

(2) 生活相談

福祉会独自の連携会議に参加して他職種との連携を図るとともに、当ホームの利用状況を伝える事で、身体能力が低下された入居者の、他施設への移動や情報収集をスムーズに行う事ができた。

(3) 生活援助

平成31年度は、4名の方が身体能力が低下され、その方に合った施設へ移る支援を行った。その分、当ホームに合った程度な方が入居した事により、施設内での自室や廊下の掃除、茶碗拭き、洗濯物たたみを行って頂ける機会が多く持てるようになった。

入居者間で認知症への理解が難しい事で、入居者同士のトラブルが時々起きてしまい、職員間で連携し怪我に繋がらないように支援した。

(4) 機能訓練

日常生活の中での残存機能は維持してきたが、痛みによる歩行困難等もあり以前よりは、シルバーカーを使用したりする方が増えては来ている。が、散歩が困難な方は、日光浴をするなど、施設外で過ごすし、気分転換できるようにするなどの機会を作るよう心掛けてきた。

(5) 健康管理

入居者の状態報告は、入居者各人の主治医へ文書を作成し、訪問を通して状態報告・提出を行うことで、訪問、診療所ともに同じ内容で報告することで、状態の共有ができた。感染に関しては、今年度も、手洗いうがいを実施し、インフルエンザやノロによる感染症に対応できた。

(6) 衛生管理

平成31年度は、大規模な施設内消毒が実施できなかつたが、居間、台所のエアコン清掃を実施した。時年度は施設内消毒の実施に向け計画をして行く。

(7) 施設設備

避難・誘導・通報訓練は、消防署と連携して、毎月実施することが出来た。建物の修繕箇所が多く目立ち、水道、トイレなど水回りの修繕も早急に対応してきた。次年度も、急な修繕が必要な時は速やかに対応していく。

(8) 職員の資質向上について

各研修会に職員が参加したり、毎月施設内勉強会を行う事で福祉施設職員としての自身のスキルアップ及び、サービスの質の向上を図った。令和元年10月に外部評価事業の訪問調査を実施し、助言に対しては施設内で検討していく予定。

(9) 他施設、地域社会との連携

町内にある他のグループホームとの情報交換は、11月には天候不順によりこゆりこども園との合同での落花生掘は中止となつたが交流会を実施出来た。次年度も、定期的に情報交換の場を設けるとともに、職員や入居者同士の交流も視野に入れて実施していきたい。

町のイベントやお祭り見学には、職員だけでは限られた人数になつてしまふ事が多く、来年度は、出来るだけボランティアの依頼をして、多くの入居者が参加できるようにして行きたい。

(10) 事業内容（目標）について

自由活動においては、趣味や買い物、畠仕事等、各自のしたいことを行つてもらう様心掛けはきた。趣味に関しては、集中して作業を行う事が難しくなつてきていているため、無理のない程度で行ってもらう様声掛けしてきた。散歩に関しては、職員と一緒に寄り添い散歩に出掛ける事により季節を感じてもらい気

分転換できるように努めてきた。

(1.1) 行事内容(行事)について

野沢祭礼、文化祭見学、敬老会など町内や、さゆり体育館へ出かける機会もあり、人數は限られてしまったが、参加した入居者は、楽しく過ごすことが出来た。

遠足(柳津)は全員参加する事が出来た。(家族も4家族が参加)

町内のグループホームと、こゆりこども園合同でのじゃが芋堀、落花生堀の収穫を通して交流することができた。

H31年度 利用状況

(単位：人)

	在籍者数		入退所		入退院		合計
	男性	女性	入所	退所	入院	退院	
H31.4月	3	6	0	0	0	0	9
R1 5月	3	7	1(施)	1(病)	1	0	10
6月	3	6	0	0	0	0	9
7月	3	7	1(施)	1(施)	0	0	10
8月	4	6	1(施)	1(施)	0	0	10
9月	4	5	1(施)	1(病)	0	0	10
10月	4	5	0	0	0	0	9
11月	3	6	1	0	0	0	9
12月	3	6	0	0	0	0	9
R2. 1月	3	6	0	0	0	0	9
2月	3	6	0	0	0	0	9
3月	3	6	0	0	0	0	9

※ (在 → 在宅 (施 → 施設

H31年度 延べ利用人数

(単位：人)

月	実人数	延べ人数
H30.4月	9	270
R1 5月	10	274
6月	9	270
7月	10	271
8月	10	273
9月	10	269
10月	9	279
11月	9	270
12月	9	279
R2 1月	9	279
2月	9	261
3月	9	279
合 計		3,274

H31年度 要介護度別実人数

(単位：人)

	要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
H31.4月	0	0	0	0	0	2	2	3	1	1	0	0	3	6
R1.5月	0	0	0	0	3	2	3	1	1	0	0	0	3	7
6月	0	0	0	0	3	2	3	1	0	0	0	0	3	6
7月	0	0	0	0	4	2	3	1	0	0	0	0	3	7
8月	0	0	1	0	4	1	3	1	0	0	0	0	4	6
9月	0	0	2	0	4	1	2	1	0	0	0	0	4	6
10月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5
11月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5
12月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5
R2.1月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5
2月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5
3月	0	0	2	0	4	1	1	1	0	0	0	0	4	5

平均要介護度 要介護3

H31年度 年齢別利用人数

	65~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	計	平均年齢
H31.4月	1	1	3	3	1	9	87
R1.5月	1	2	4	2	1	10	87
6月	1	2	3	2	1	9	87
7月	1	3	3	2	1	10	87
8月	2	3	3	2	1	10	87
9月	2	2	3	2	1	10	86
10月	2	2	3	1	1	9	86
11月	2	2	3	1	1	9	86
12月	2	2	3	1	1	9	87
R2.1月	2	2	3	1	1	9	87
2月	2	2	3	1	1	9	87
3月	2	2	3	1	1	9	87
	20	25	37	19	12	113	

最高年齢 94歳 最低年齢 65歳 平均年齢 86歳

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	「バイタルサイン」～グループホームで必要な基礎や応急処置	・バイタルサインの必要性と測定方法 それに伴う応急処置	介護員	五十嵐淳子	R元年. 9. 18	カルチャーセンター	復命書 職員会議で報告
2	令和元年度 福島県認知症介護実践者研修	・認知症介護への基本的な理解、具体的な支援方法	サービス計画担当者	岩原祐美	R元年. 8. 29	ピックパレットふくしま	復命書 職員会議で報告
3	福島県認知症GH協議会第2回会津地区研修会	・他のGHの施設の環境整備や取り組みを学ぶ	サービス計画担当者	岩原祐美	R元年.10. 5	GHみなづる	復命書 職員会議で報告
4	福島県認知症GH協議会第2回会津地区研修会	・同上	介護員	新田イチ子	R元年10. 5	GHみなづる	復命書 職員会議で報告
5	東北ブロック認知症GH連合会2019福島大会	・GHの地域社会との関わりや、今後の役割や可塑性や進むべき方向性	管理者	小島敏夫	R元年11. 5	ホテル福島グリーンパレス	復命書 職員会議で報告
6	・令和元年度 一般職員研修会	・認知症の種類とそれに伴う嚥下障害の違いと嚥下方法 ・口腔ケアのリスクと口腔ケアの方法など	介護員	小島敏夫	R元年11. 15	アビオスペース(会議室)	復命書 職員会議で報告
7	・令和元年度 一般職員研修会	・同上	介護員	若林まゆみ	R元年11. 15	アビオスペース(会議室)	復命書 職員会議で報告
8	・令和元年度 第3回会津地区研修会	・「ACP:アドバンスケアプランニング」	介護員	長谷川利子	R元年12. 17	ピカリーンホール	復命書 職員会議で報告
9							
10							
11							

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：グループホームのぞみ

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
申立者	利用者	説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
		0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	2	0	0	0	0	0	2
合計		0	2	0	0	0	0	0	2

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)	2	0	0	0	0	0	2
サービスの質 (内容)	0	0	0	0	0	0	0
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	0	0	0	0	2

平成31年度
こゆりこども園業務報告書

<事業の概要>

就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき教育・保育を必要とする乳幼児を保育し、養護と教育の一体化を図りながら豊かな人間性を持った子どもを育成することを基本としたこども園運営に努力してきた。

<重点事項>

1. 児童保育について

- ①個々の子どもの健康状態や発達段階を把握し、個々に応じた保育に努めてきた。
- ②施設内の環境保全に十分留意し、快適に過ごせるように努めてきた。
- ③個々の子どもの気持ちや考えを理解して受容し、保育者との信頼関係を作り情緒の安定を図ってきた。
- ④自発性を大切にし、興味や要求を受け入れ、生活経験に即した総合的な指導に努めてきた。
- ⑤運動や表現遊びなどいろいろな活動を通して、子ども相互の集団活動が出来るよう努めてきた。また、運動会や発表会等で発表する機会を作り、子どもの成長した姿を保護者に伝えるようにしてきた。
- ⑥七夕祭り・団子さし・節分・ひな祭り等の伝統行事を実施し、由来などを知らせ社会の事象に关心を持たせてきた。
- ⑦発育障害と思われる児童についての相談業務を子育て支援センターや児童相談所・耶麻福祉相談コーナーの相談員と協力し、保護者の相談活動に努めてきた。
- ⑧延長保育の児童に対しては、温かな雰囲気の中で気楽に遊ぶことが出来るような環境を整え、個人的な配慮が行き届くように努めてきた。

2. 児童の健康管理について

- ①常に子どもの健康状態を把握するため、登園時の視診により病気やけがの有無やその状態について観察し、健康管理に努めてきた。
- ②園内での感染症防止のため、感染症対応マニュアルに基づいて全職員が的確かつ迅速に対応してきた。
- ③楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食事をし、嫌いな食べ物でも少しずつ食べれるように指導してきた。
- ④天気の良い日は出来る限り戸外遊びを取り入れ（野外保育・固定遊具・砂場等）心身の発達に努めてきた。
- ⑤各種診察の実施（尿検査・歯科検診・内科検診・身体計測）

3. 児童の食事について

- ①離乳の進行にあたっては、町栄養士と相談しながら栄養バランスに気をつけ、一人ひとりの発育・発達状態、食べ方や健康状態に配慮して行えた。

- ①離乳の進行にあたっては、町栄養士と相談しながら栄養バランスに気をつけ、一人ひとりの発育・発達状態、食べ方や健康状態に配慮して行えた。
- ②様々な人と一緒に食べる楽しさを味わうことができた。
- ③園での食事の状況について、家庭との連絡を十分に取り合うことができた。
- ④毎月の給食委員会でアレルギー児への対応について職員間での情報共有をはかった。

4. 防火・安全体制について

- ①施設内外における危険箇所、危険なものがないか等の点検を常に行い安全の確保に努めてきた。
- ②安全な教育・保育環境を確保するため、子どもの年齢・場所・活動内容に留意し、事故予防対策マニュアルに基づきながら安全の確認を行ってきた。
- ③災害時における組織体制づくりを明確にし、避難方法に習熟するため毎月1回の避難訓練と年2回の防災訓練を実施してきた。
- ④登園あるいは野外保育における交通安全には特に重点をおき、絶対に事故が発生しないよう日頃からの指導を行ってきた。交通教育専門員の指導により交通安全教室の開催を実施してきた。

5. 地域社会との交流について

特別養護老人ホーム「さゆりの園」訪問、グループホームのぞみでの活動等を通して地域の方々との交流を図ると共に、保育実習や総合学習体験活動（ボランティア）等の受け入れを積極的に行ってきました。

6. 小学校との連携

- ①小学校との交流計画・連携計画の中で、教育・保育を行って行くことで小学校へのスムーズな接続を行った。
- ②学校活動や学校の見学などを通じて異年齢との交流により豊かな人間性と社会性を育んできた。

7. 職員の研修について

保育者としての意識の高揚と専門知識・保育技術の向上、更にはこども園運営と保育の充実を図るため計画的に各種研修会には積極的に参加させた。（別紙1アのとおり）

職員間のコミュニケーションを活発化し、知識・情報の共有化を図るために、国内研修を行った。（別紙1イのとおり）

8. 保護者との連携について

保護者に対しこども園での子どもの生活状態や各種行事等を「園便り・クラス便り・連絡帳」で知らせ、家庭との連携を密にし、円滑なる施設運営に努めてきた。

また、園には保護者会が組織されており、行事には積極的に協力を頂き親子との触れ合いの場として成果を挙げることが出来た。

9. 月別保育児童数について（別紙2のとおり）

10. 月別保育業務内容について（別紙3のとおり）

11. 子育て支援事業について（別紙4のとおり）

①放課後児童健全育成事業

保護者が昼間に就労等により家庭にいない小学校児童に、適切な遊びと生活の場を提供し、保護者の子育て支援を行った。

②一時預り保育

保護者の就労形態に伴う一時的な保育や、保護者の傷病による緊急時の保育を行い、児童の福祉の増進と健全育成を図るとともに、保護者の子育て支援を行った。

③子育てサークル事業

子どもの遊び、親子の触れ合いを通して、子育てのあり方について学習活動を行い、また保護者同士の仲間づくりの交流の場を提供した。

(別紙2)

平成31年度 月別保育児童数

(基準日毎月末日現在)

(単位 人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
145	148	151	153	155	157	156	156	157	161	160	161
(7)	(10)	(12)	(12)	(12)	(15)	(15)	(15)	(17)	(15)	(15)	(16)

()は、延長保育人数

【内訳】※令和2年3月31日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男児	5	7	18	10	20	14	74
女児	11	12	24	14	12	14	87
合計	16	19	42	24	32	28	161

(別紙3)

月別保育業務内容

(H31.4~R2.3)

西会津町こゆりこども園

月 日	保育業務内容	月 日	保育業務内容
4. 2 10~24 16 17 10・25 18~19 22 23 26	入園式・家庭訪問 英語教室(4・5歳児) 身体計測 新入園児歓迎会 健診診断 歯科検診 遊鑑訓練 誕生会 子どもの日の集い	7. 1~26 2~11 6 10 12~24 16 17 20 23 31	英語教室(4・5歳児) 個別相談 七夕誕生会 ダンス教室(5歳児) お話しの会 身体計測 プール開き 夕涼み会※保護者会主催 遊鑑訓練 運動教室(4歳児)
5. 8~29 9~30 10 14 15~22 17 21 27 29	英語教室(4・5歳児) 野外保育 交通安全教室(3~6歳児) 体位計測 お話しの会 遠足(4・5歳児)マリンピア日本海※保護者会主催 誕生会 遊鑑訓練 運動教室(4歳児)	8. 1 2 6~30 7 7~21 19 21 26 27	すいか割り 人形劇 英語教室(4・5歳児) ダンス教室(5歳児) お話しの会 身体計測 音楽教室(3歳児) 遊鑑訓練 運動教室(4歳児)
6. 5 7~10 8 11 12~19 18 21 25 27	ダンス教室(5歳児) 英語教室(4・5歳児) 保育参観 身体計測 お話しの会 誕生会 音楽教室(3歳児) さゆりの園訪問 防災訓練	9. 6~8 8 13 19 24 28 10. 3 3~24	英語教室(4歳児) お話しの会 体位計測 誕生会 遊鑑訓練 運動会 就学時検診 秋の遠足(0~3歳児)町内

月 日	保育業務内容	月 日	
4 9 11 15 16 18 21 21~23 25 30 31	音楽教室(3歳児) お話しの会 祖父母交流会 身体計測 ダンス教室(5歳児) 誕生会 英語教室(5歳児) 歯科検診 非常食体験 運動教室 マラソン大会	21 22 23 24~27 29 30	ダンス教室(5歳児) 音楽教室(3歳児) 誕生会 英語教室 避難訓練 運動教室(4歳児)
11. 5~15 6 8~20 12 13 19 30	お話しの会 健康診断 英語教室 身体計測 菓花生収穫 防災訓練 誕生会 発表会	2. 3 4~14 4~7 6 12 13 14 18 20 25 26	豆まき 個別相談(0~4歳児) 英語教室(4歳児) お話しの会(0歳児) 小学校体験入学 ダンス教室(4・5歳児) 身体計測 入園説明会 誕生会 ダンス教室(4・5歳児) 避難訓練
12. 3 6 9~11 12 19 24 25	ダンス教室 観劇会 英語教室 身体計測 個別相談 クリスマス誕生会 避難訓練	3. 3 4~9 6 10 13 16 18 25	ひなまつり誕生会 英語教室(3歳児) 音楽教室(3歳児) 身体計測 お別れ会 避難訓練 卒園式予行練習 卒園式
1. 6 8~15 10 14 17	保育始め お話しの会 団子さし 身体計測 お店屋さんごっこ		

別紙1-ア 施設外研修状況

西会津町こども園

NO.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	場所	研修結果の報告方法
1	令和元年度社会福祉施設等職員初任者基礎研修	講義「社会福祉施設等の職員の心構え・福祉と権利擁護」 講師 社会福祉法人郡山清和教養園 理事長 鮎波朝重氏	保育士	薄上マリン	R1.5.8	郡山市 (郡山ユックス熱海)	復命書 職員会議で報告
2	令和元年度保育所新任保育士研修	講義「一人ひとりと向き合う保育・保育に活かせる実技」 講師 学校法人袋山学園しらこばと幼稚園 理事長 菊地政隆氏	保育士	薄上マリン	R1.5.28	郡山市 (ヒツババレットふくしま)	復命書 職員会議で報告
3	令和元年度児童厚生員・放課後児童指導員研修	講義「こども心の大切さ・ものづくりで心ウキウキ」 講師 仙台青葉学院短期大学 教授 芳賀哲氏	保育士	矢部穂乃香	R1.6.4	郡山市 (ヒツババレットふくしま)	復命書 職員会議で報告
4	ワンダーワンダセミナーパラダイス 運動会	講義「ダンス・競技・体操」 講師 佐藤弘道・谷口國博氏	保育士	五十嵐唯	R1.6.8	郡山市 (南東北総合卸センター)	復命書 職員会議で報告
5	令和元年度第1回会津支部研修会	講義「準備の要らない工作」 講師 TOYクリエイター 野出正和氏	保育士	中島奈津美	R1.6.15	磐梯町 (磐梯町中央公民館)	復命書 職員会議で報告
6	令和元年度福島県保育協議会会津支部研修会	講義「子どもに学び、子どもと育つ めざす幼児教育とは」 講師 福島県教育庁義務教育課 指導主事 米屋真由美氏	保育士	橋本まどか	R1.6.21	猪苗代町 (磐梯青少年交流の家)	復命書 職員会議で報告
7	令和元年度福島県保育所等安全対策推進研修	講義「事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン解説 再発防止に向けた要因分析・危険予知トレーニング 保育所等におけるアレルギー対応・感染症対策」 講師 MS & ADインターリスク総研(株) 囲田祐己氏	保育士	須藤博子 五十嵐美穂	R1.7.6	会津若松市 (アピオスベース)	復命書 職員会議で報告
8	第1回認定こども園実践研修会	講義「乳児保育の基本・子育ての支援について」 講師 認定こども園こどものもり 副園長 若盛清美氏	保育士	三留藍	R1.7.22	須賀川市 (須賀川教会)	復命書 職員会議で報告
9	令和元年度第2回会津支部保育士部会研修会	講義「国内外の課題に対する危機管理について」 講師 郡山女子大学附属幼稚園 園長 賀門康弘氏	副園長 保育係長	岩橋百合子 小原裕美子	R1.8.24	湯川村 (湯川村公民館)	復命書 職員会議で報告
10	福島県保育士等キャリアアップ研修	講義「障害の理解・障害児保育の環境・発達の援助」 講師 株式会社ボビンズ	保育士	塙原由紀	R1.8.25.26	会津若松市 (アピオスベース)	復命書 職員会議で報告
11	福島県放課後児童支援員認定資格研修	講義「放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容・一般原則と権利擁護・子どもの遊びの理解と支援」 講師 株式会社ボビンズ	保育士	矢部穂乃香	R1.9.3.5.6	会津若松市 (会津大学)	復命書 職員会議で報告
12	令和元年度発達障がい児支援者大作 アップ研修	講義「発達障がいの特性と支援」 講師 県発達障がい者支援センター長 増子博文氏	保育士	石川育子	R1.10.23	湯川村 (湯川村公民館)	復命書 職員会議で報告
13	令和元年度第2回会津若松市保育士会研修会	講義「ほんとうの知的教育」 講師 保育業者 平山静江氏	保育士	山口かおり 渡部千佳子 伊藤洋子	R1.11.9	会津若松市 (会津若松市文化センター)	復命書 職員会議で報告
14	令和元年度第3回会津若松市保育士会研修会	講義「愛着障がいと発達障がい」 講師 福島県立医科大学 教授 横山浩之氏	保育士	星菜保子 長谷川紀子	R2.2.8	会津若松市 (会津若松市文化センター)	復命書 職員会議で報告

別紙1-イ 施設内研修状況

西会津町こゆりこども園

	研修名	研修内容	発表者	参加職種	参加人数	期間	研修結果の周知方法
1	施設内研修	子どものよりよい保育のために 気になる子どもの様子	三留望	保育士	25名	R1.5.29	資料全員配布
2		コーチングについて～保育における視点～	作業療法士 岡本宏二氏	保育士	25名	R1.6.27	資料全員配布
3		10の姿プラス5について エビデンの使い方	伊藤麻衣子	保育士	19名	R1.7.25	資料全員配布
4		保育カンファレンス	五十嵐唯	保育士	19名	R1.8.26	資料全員配布
5		社会生活との関わりと思考力の芽生え	石川青子	保育士	19名	R1.9.19	資料全員配布
6		自然との関わりと生命尊重 数量や图形・文字などへの関心と感覚	橋本まどか	保育士	17名	R1.10.29	資料全員配布
7		保育カンファレンス	中島奈津美	保育士	18名	R1.11.22	資料全員配布
8		乳児保育・特別支援教育	矢部穂乃香	保育士	22名	R1.12.20	資料全員配布
9		10の姿プラス5について 保育カンファレンス	五十嵐美穂	保育士	21名	R2.1.29	資料全員配布
10		保育カンファレンス	薄上マリン	保育士	22名	R2.2.26	資料全員配布
11		保育カンファレンス	菊地恵	保育士	9名	R2.3.19	資料全員配布

子育て支援事業報告(平成31年度)

西会津町こゆりこども園

【子育てサークル(平日)】

開所日時:毎週木曜日 10:00~12:00

開所場所:こゆりこども園内 一時預かり室

(利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用延べ人數(組)	10	13	12	12	6	13	17	9	12	9	12	0	125

(活動内容)

月 日	内 容	場 所	参加人数	担当者
4. 24	親子で散歩する	子育て支援室	8人	
5. 29	新しい指導者を知り遊ぶ	子育て支援室	6人	
6. 19	好きな遊びを楽しむ	子育て支援室	8人	
7. 17	絵描きをして遊ぶ	子育て支援室	11人	
8. 22	ボール遊び	子育て支援室	15人	
9. 18	散歩	子育て支援室	18人	
10. 17	子育てに関する情報交換	子育て支援室	20人	
11. 20	コンピカーで遊ぶ	子育て支援室	20人	
12. 11	おやつ作り	子育て支援室	23人	
1. 15	ごっこ遊び	子育て支援室	19人	
2. 20	園定遊具で遊ぶ	子育て支援室	30人	

※毎週木曜日は、保健師さんによる育児指導と身長・体重測定の実施

【健診サポート】

(赤ちゃん栄養教室)

月 日	場所	担当者
4. 19		
6. 18		
8. 20	こゆりこども園 子育て支援室	八幡幸江
10. 18		
12. 20		
2. 21		

(1歳6ヶ月・3歳健診)

月 日	場所	担当者
5. 23		
7. 18		
9. 10	こゆりこども園 子育て支援室	八幡幸江
11. 21		
1. 23		
3. 12		

【放課後児童健全育成事業(ひだまり子どもクラブ)】

開所場所:こゆりこども園内 学童保育室

(開所日数・利用人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	20	20	21	23	22	20	22	21	21	20	19	21	250
利用延べ人数	890	942	977	1,102	837	923	992	874	809	766	743	679	10,534

(特別活動内容)

月 日	内 容	場 所	参加人数	担当保育士
4. 9	はじめましての会	こゆりこども園	53人	
4. 22	お花見散歩	こゆりこども園	29人	
5. 20	誕生会	こゆりこども園	52人	
6. 21	誕生会	こゆりこども園	54人	
7. 5	七夕誕生会	こゆりこども園	54人	
8. 5	すいか割り	こゆりこども園	47人	
8. 9	夏祭り	こゆりこども園	55人	
8. 28	誕生会	こゆりこども園	52人	
9. 27	誕生会	こゆりこども園	45人	
10. 31	ハロウィンパーティー	こゆりこども園	47人	
11. 15	誕生会	こゆりこども園	42人	
12. 24	クリスマス誕生会	こゆりこども園	38人	
1. 27	誕生会	こゆりこども園	50人	
2. 8	豆まき	こゆりこども園	46人	
3. 26	お別れ会	こゆりこども園	30人	

雅楽川千賀子 五十嵐美穂
矢部穂乃香

【一時保育】

利用期間	延べ人数	満年齢	実施場所	理 由
4/18-25	2	1	こゆりこども園	病院受診の為
5/9-29	4	1	こゆりこども園	病院受診の為
6/6-20	4	1	こゆりこども園	病院受診の為
7/4-25	5	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
8/1-29	5	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
9/5-26	6	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
10/3-28	9	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
11/6-27	9	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
12/2-26	10	1	こゆりこども園	リフレッシュ保育・病院受診の為
1/9-30	4	1	こゆりこども園	病院受診の為
2/6-27	4	1	こゆりこども園	病院受診の為
3/5-19	3	1	こゆりこども園	病院受診の為

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町こゆりこども園

<なし>

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0

平成 31 年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」事業報告

1. 基本方針

西会津町介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を開した。具体的な実施報告は、別紙の各係「実施評価報告」の通りである。

2. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

西会津町史や会津地区の古い写真を加工し、映像化したものを活用する回想法のアプローチを実施した。また、利用者の年代別に編集した歌謡曲をリハビリテーションやケアの提供時に流し、音楽療養の要素を取り入れた認知症ケアを実践してきた。

「見る」「話す」「触れる」「立つ」のユマニチュード技法をチームで実践していくことで、ケアの好循環を生み ADL・IADL の向上と、認知症状の軽減を図ることが出来た。また、町主催の認知症ケアスキルアップ研修会へ 10 名の職員を派遣し、センター方式アセスメントの導入を推進した。

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

在宅生活を想定した施設サービス計画を策定し、在宅復帰・在宅療養に必要な医学的管理、住環境設定、ADL・IADL の維持向上を生活の場面から支援した。各関係機関と協働してアセスメントを行うことで、入所前から退所後まで継続的にフォローアップ出来る体制を取っている。また、在宅復帰・在宅療養支援等指標を基に計画的に運用することで、年度末在宅復帰率 71.4%、ベッド回転率 10.5%、重度者割合(要介護 4・5) 53.6% で経過し、新たに、在宅復帰・在宅療養支援機能加算(I)の算定要件を満たしたこと、加算算定に至った。

(3) 職員の専門性の向上

職員のスキルアップのため、OJT・OFF-JT・SDS の体制構築を図った。各委員会にて施設内研修会・勉強会を企画し、法定研修会を含めて年 18 回開催。外部研修への派遣については、年 48 件となっている。研修評価については、3 カ月評価・6 カ月評価まで実施し、振り返ることで効果の促進に努めた。

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の運用においては、新たにアセッサー(評価者)を 1 名養成。また、介護職員レベル認定を 3 名申請した。

平成31年度西会津町介護老人保健施設「慈の森」入所 実施評価報告

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア及び認知症リハビリテーションを実施し、多職種によるチームアプローチを通じADLとIADLの維持・向上を図る。また、より専門的な見地から認知症ケアを実践するため、ユマニチュードの技法、センター方式を活用したアセスメントを実施していく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①センター方式のシートを活用する。事例検討や新規利用者入所時にシートを使用し、24時間での心身状態の変化を記録することで、何が影響を与えていたかを把握し、予防的に関わるタイミングやケア内容を協議していく。事例検討会では、その後の評価まで行い、それを一連の流れとする。</p> <p>②認知症ケアへの取り組みについての説明を施設内に掲示し、来所者が正しく理解出来るように工夫していく。ユマニチュードケアを基本として認知症ケアに取り組み、その周知についても強化していく。</p>	<p>①センター方式シートを用いて7月・9月に施設内事例検討会を開催。パート職員を含む全職員が参加し、行動観察とケース記録の共有、関わり方のポイントを協議した。パート職員の関わりが本人へプラス(好きな音楽の共有等)に影響し不安行動の減少が確認された。また、ケアマネジメント研修会へ事例を提供し、これまで関わってきた地域と事業所で本人の置かれる状況を再度整理し、次の生活に移行しても繋がりのあるケアが提供出来る様に協議を進めることができた。</p> <p>②認知症ケアについての掲示が出来ていないため、現在施設で取り組むユマニチュードやセンター方式についてのポスターを次年度には準備していく。</p>
医療 看護	<p>①パーソンセンタードケア(その人を中心としたケア)を基本に、認知症の進行度・病態に合わせてアプローチをしていく。また、個人の抱える疾患や認知症に起因する身体合併症の管理を実施し、看護の視点から、療養上の留意点をチームで共有していく。</p> <p>②その人を知るためにセンター方式のシートを使用して看護間で共有した内容を開発機関に伝達する。</p> <p>③ユマニチュード先進施設(福島県内)を視察し、看護職として具体的な対応を挙び取り入れる。</p>	<p>①認知症進行の観察を行い担当医に報告しながら内服薬の管理をし、一人一人病状の変化の観察を行った。</p> <p>②看護計画書へは個別の状態を記載してケア方法や進行時のリスクの説明を家族に伝えた。</p> <p>③ユマニチュード先進施設への視察は実施することができなかったが、ユマニチュード研修を受講してきた他部門の職員からの伝達を受けた。その会話や慣する技法等を利用者に合わせて実践した。</p>
介護	<p>①利用者への理解を深めるためセンター方式のシートを活用する。また、その内容を事例検討会内で協議し、それぞれの症状に合わせた個別ケアの実践に繋げる。</p> <p>②「見る」「話す」「触れる」「立つ」のユマニチュード技法をケアの中に取り入れる。「その人らしさ」を支援することで、信頼関係を構築し、ケアの好循環を生むことで認知症状の軽減を図っていく。</p> <p>③見当識障害へのアプローチとして、一日の流れや、季節の行事を意識的に行うことで、利用者のコミュニケーション能力を高めることや、認知症の進行を遅らせることを目指す。</p> <p>④不安や寂しさの軽減を目指すとともに、本人の持っている知恵を引き出せるようなレクリエーションを個別援助計画に組み入れ実施する。</p>	<p>①センター方式シートを活用し、申し送り内でミニカンファレンスを開き介護内容を統一することが出来たため、それぞれの症状に合わせた個別ケアの実践に繋げられた。</p> <p>②ユマニチュードを意識し、繊々に合わせた支援方法を行った。不穏が続いている利用者が職員や他利用者とうまくコミュニケーションがとれレクリエーションに参加し、不安なく生活できるようになってきた。</p> <p>③毎月の誕生日会の実施。豆まき、施設内の装飾ではクリスマス、お正月、団子さし、ひな祭りと季節感を味わっていただいた。憩間では演歌歌手、日本舞踊、音語り、笑いヨガ等楽しく参加されていた。毎日のレク活動では、玉入れ、ボーリング、福笑いと呂発に行われ、お星前の活動時間を楽しむにされる方が増えてきた。</p> <p>④不安や寂しさの軽減を目指すために、同じ時間に体操やレク活動を行うことにより、毎日の生活リズムが取れ利用者に安心感を持っていただいた。本人の持っている知恵を引き出せるようなレクリエーションである書き初め、塗り絵、歌を介護計画書に組み入れ、本人の能力を活かし参加できるように配慮した。</p>
リハビリ テーション	<p>①利用者の認知機能や症状に合わせたチームアプローチによる認知症ケアを実施出来るために、センター方式のシートを活用し、利用者の状態を客観的に把握していくと共にユマニチュードによる対応を実施する。</p> <p>②認知症ケア・リハビリの知識と技術を習得していくために、SDS等による認知症ケア学会等の研修を通して、係内で伝達や事例検討を実施していく体制を整備する。</p> <p>③季節感を利用者に持っていただくため、リハビリ室内の飾り付けは維持し、対象者の年齢や好みに合わせた音楽や作業療法を取り入れた認知症リハビリを実施する。また、過去の写真や映像等を用いた回想法も実施していく。</p>	<p>①各開発機関や各職種と連携しながら、認知症利用者への チームアプローチやユマニチュードの対応を実験した。センター方式のシートの活用については、D-1型シート(できることの焦点情報)と D-2型シート(わかることの焦点情報)を用いて一部利用者に対して試行を行った。しかし全体業務への導入に至っておらず、次年度には実施していく予定である。</p> <p>②認知症ケア学会等には参加出来なかったが、職業団体が開催する認知症に関する研修会にスタッフが参加してきた。係内における SDS 体制については、所属団体生協の研修会を把握し研修会に行きやすい勤務調整や研修内容を伝達する機会を設けた。係スタッフ内の事例検討については3件実施したが、次年度には回数を増やしていく予定である。</p> <p>③認知症リハビリの楽痴癒術として、リハ室内は季節感のある飾り付けを行い、庭やプランターでは、キュウリやスイカ等の季節野菜を栽培し、利用者が四季を感じられるように整備した。音楽療法の要素を取り入れ、季節感のある音楽や1950年～1990年にかけて年代別に収集した歌謡曲を利用者の世代に合わせてリハビリ中に流せるようにした。デジタル操作端末を用い、無線スピーカーから音楽を流せる環境も整備したことで様々な場所で演奏が出来るようになった。会津地区的古い写真を動画やスライドに加工し、回想法のアプローチを行った。次年度には広報にしあいづや町史からの画像を用いて植物を増やしていく予定である。</p>

栄養 給食	①認知症により摂食が困難となっている利用者に対し、摂食嚥下の5期の中でどの段階に問題が生じて いるかを正確にアセスメントし適切な栄養ケアを行う。	①認知症により、摂食嚥下の5期のどの段階に問題があるのかアセスメントする際に既存の栄養マネジメン トのシステムでは評価項目が少なく不十分であった為、効率よく詳細に評価できる様に独自の摂食嚥下評価 シートを作成行った。しかし、作成した評価シートの十分な活用はまではまだ出来ていない為、次年度に活 用していきたい。
----------	--	---

(2) 在宅復帰・在宅療養への積極的な支援と連携強化

施設サービス計画に基づいた、身体機能・認知機能の維持向上を目的とした生活リハビリテーションの提供、ADL・認知機能・摂食嚥下機能の評価や栄養管理など、老健施設の有する機能を發揮し在宅復帰を目指す。

在宅療養支援のため施設内のみならず、各関係機関との協働アセスメントを実施することで連携強化を図っていく。

保・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①入所前後訪問を多職種で実施することで生活環境を把握し、在宅生活維持に必要なADL・IADL・サー ビス・支援の程度等を計り在宅復帰を自慢したプランを策定する。在宅復帰を推進するために、多職種 で在宅訪問ができるように働きかける。また、そのための書式を作成し、スムーズな支援に繋げる。</p> <p>②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受け入れ先として対応していく。また、要請があ った際は速やかに情報を収集し、各係へ伝達できるよう努める。</p>	<p>①入所前後訪問指導の書類様式を作成し体制構築した。訪問時に写真や動画を撮影し、ICTを活用し職員間 で共有することで、在宅を想定したケアマネジメントの推進に努めている。3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果から在宅復帰のタイミングを多職種で照会し、在宅復帰に繋げているため、 年度末での在宅復帰率は73%と高い水準を維持できている。また、届宅CMと連携・協働し、在宅復帰後の サービス利用の見通しを立てることで、支援する家族も生活を想定しやすい体制をとっている。</p> <p>②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受け入れを実施した。各関係機関と連携し協働アセスメン トし、利用終了後のフォローアップについても協議することが出来た。</p>
医療 看護	<p>①看護計画のモニタリング結果から、治療方針や疾患の予後予測、療養上の留意点を各部署・関係機関 と共有していく。</p> <p>②体制変化時には家族・支援者へ連絡し状態説明をする。また、担当医の医療方針・ICの内容をわかり やく説明するハブ機能を担っていく。</p>	<p>①サービス担当者会議に参加することで、看護としての視点からチームケアに繋いでいる。退所前後訪問に 同行して自宅での様子を知り、家族へ施設での療養上の留意点を説明できた。</p> <p>②施設内での状態変化時には東京への連絡は出来ているが、経過説明が不足しているので来年度に繋げたい。 「始元の施設で看取りたい」との意向があった利用者家族の気持ちに寄り添い対応してきた。担当医、ケアス タッフ、相談等チームでの連絡連携が出来ていたので、個別に家族と方向性決定する事が出来た。また、他の町村の医療・介護・福祉の支援体制連携等の取り組みについての研修会に職員が参加し、医療・介護・福祉の 支援体制構築について学ぶことが出来た。今後伝達研修に繋げたい。</p>
介護	<p>①在宅での生活状況を把握し施設でのケア方法を検討するため、実態調査・居宅サービス担当者会議へ 積極的に参加する。</p> <p>②住環境や家族の介護力を踏まえて、出来る限り本人の望む生活が継続できるよう而在宅生活を想定し たADL・IADL生活リハビリを個別援助計画に組み入れ実施する。</p>	<p>①在宅での生活状況と住環境を把握しケア方法を検討するために、実態調査に同行した。その際、本人と家 族の状況を把握し介護計画書に組み入れた。また専門職(看護・リハ・栄養・ケアマネ・相談)から意見を聞 き反映させた。同行できない時は、参加した職員が撮影してきた写真や動画等を用いた情報収集と共有を実施 した。次年度は誰でも、どの時間でも積極的に参加できるように調整していく予定である。</p> <p>②出来る限り本人の望む生活が継続できるように、在宅生活を想定した生活リハビリを介護計画書に組み入れ 實施した。住環境と家族の介護力の把握にも努めている。退所の際は、施設でのケア内容を在宅に繋げら れるように指導した。</p>
リハビリ テーション	<p>①リハビリテーションマネジメント体制を構築し、在宅復帰や在宅療養支援を推進するために、安定し た人員配置を目指して体制を整備すると共に、心身機能の評価に基づいた個別リハビリテーション、生 活リハビリテーションの提供を行っていく。</p> <p>②心身機能評価の見える化を図るために、全国老人保健施設協会の推奨する心身機能評価尺度である 「ICFステージング」の導入を試行していく。また、情報共有の精度を高め、円滑化を図るために、福祉見聞録システムやICTの活用を推進する。</p> <p>③施設生活から在宅復帰への移行が円滑となるために、各関係機関・専門職との協働アセスメントを 実施し、在宅復帰に必要となる環境設定や在宅訪問を実施していく。</p>	<p>①老健加算型介護報酬取得に向けて、リハビリテーションマネジメント体制の強化を図り、リハ専門職配置割合の安定化を進めてきた。年度を通して、在宅復帰・在宅療養支援等指標による配当割合3以上を維持で きた。在宅を想定した個別リハビリテーション、生活リハビリテーションの提供を行える体制を整備した。</p> <p>②心身機能評価の見える化を図るために、写真や動画等を用いた情報共有を行っており、福祉見聞録シス テムやICTも活用した体制は整備した。次年度においては、各係との見える化の情報共有を進めていくために タブレット端末等の機器利用を検討していく予定である。しかし、全老健の推奨する心身機能評価尺度であ る「ICFステージング」の導入を試みてきたが、実用までには至らなかった。次年度は、他の評価尺度も検討 していく予定である。</p> <p>③老健加算型介護報酬の要件である在宅訪問を9件実施し、生活環境や福祉機器の選定、各関係機関との 協働アセスメントを実施した。また、効果的なチームアプローチを行うために、在宅訪問時には日常生活と 住環境を動画等にて記録し、情報共有を行った。</p>

栄養 給食	<p>①施事業所や在宅の利用者の食事形態を正確に把握するために、職下ピラミッド早見表を作成する(日本振食療下リハビリテーション学会のコード表に基づく)。</p> <p>②栄養介入が必要な利用者に対し、適切な改善を行うために、早見表を用いた栄養指導を行う。</p>	<p>①長期入所者の入退所前後訪問(5回参加)や訪問介護事業所と連携し、在宅研修を実施することができた。在宅での食事環境を知ることで栄養・食事に関する新たな情報や問題点を知ることができ、入所時には早い段階から退所に向けた栄養計画作成や、退所時には障害に在宅生活に向けた説明をすることができた。</p> <p>②早見表の作成は完成出来ず、活用までには至らなかった。</p>
----------	---	---

(3) 職員の専門性の向上

職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発支援制度)を推進することで、専門性の向上に努める。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用し、段位に応じて求められる知識や技能などの共通の指標をもとに評価し、サービスの標準化を図る。また、介護老人保健施設の有する機能を發揮出来るように研修の場を設けていく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①定期的に権利擁護員等を招き外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。</p> <p>②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、アドバンス・ケア・プランニングを実施できるよう推進していく。</p>	<p>①7月16日人権擁護員による権利擁護啓発活動と聞き取りを実施。人権には十分に配慮出来ているとの評価を受けるも、9月に不適切なケアが発覚し不適切ケアの予防のための再研修会を開催した。虐待のサティックリスト・マナーチェックリスト・ストレス要因度チェックリストの集計分析の結果から、備考作成し全職員一丸となって職場の環境改善に努めている。また、第18回東北地区老人保健施設大会へ参加し、「権利擁護啓発活動について」の演題発表を行うことが出来た。</p> <p>②町主催のアドバンス・ケア・プランニング(人生会議)勉強会へ参加し、人生の最終段階における意思決定プロセスについて学んでいる。施設内においても、適宜対応し支援を継続している。事前に本人家族の意向を確認し、ケアプラン第一表に記載することで各職種との共有を図っている。</p>
医療 看護	<p>①介護保険施設に勤務する看護師として、生活モデルの視点を持つために、事例検討会等に積極的に参加する。</p> <p>②感染症・看取りの研修会へ積極的に参加し専門性の向上を図る。</p>	<p>①事例検討会等に積極的に参加することで、介護保険施設に勤務する看護師として、生活モデルの視点を持つことが出来た。</p> <p>②看護に対する外部研修会参加した職員で伝達研修会を開催する事が出来き、褥瘡経験と栄養について学ぶことができた。町主催のACPの勉強会へ参加し、季節インフルエンザ、ノロウイルスによる集団感染が無かった。</p>
介護	<p>①介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用する。「知識」・「実践的スキル」の両面から評価する取り組みを通じOJT指導を実施することで介護職の資質向上を図る。また、アセッサー(評価者)の養成も継続していく。</p> <p>②個別支援を組み入れた介護計画の作成ため、係内において勉強会を開催する。</p> <p>③利用者の権利擁護の意識を高めるため、接遇・虐待防止・身体拘束の外部研修に積極的に参加する。</p>	<p>①介護の標準化に合わせ、同じ手順で業務が出来るようにOJTを実施し業務手順書を作成した。アセッサー養成は1名合格し、キャリア段位認定では3名を人選し申請中である。</p> <p>②少人数の勉強会を実施したことにより、家族にも説明することができる詳細な箇別支援を記載した介護計画を作成出来るようになった。</p> <p>③全職員が研修に参加できるように業務の調整を行った。利用者の権利擁護を意識し、特に不適切なケアについては、お互いに注意喚起ができるように備考を作成し環境を整備するまでは至った。また、身体拘束廃止については月1回会議を開催し、ミトン外しの取り組みを推進した。</p>
リハビリ テーション	<p>①リハビリ職としての専門性と資質向上を図るために、所属する職業団体における基礎研修を終了し、専門部会への所属を図る。</p> <p>②ケアマネジャー等の業務開拓資格の取得を支援するため、SDS・OFF-JTの体制を整備すると共に、資格取得を目的とした勉強会を実施していく。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握し、それに基づいたOJTの体制を構築する。</p>	<p>①福祉用具の運用力と住環境の設定力を強化するために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行った。今年度の国際福祉機器展(HCR)の基本テキストを用いて、係内で勉強会を行った。昨今の状況としては、福祉用具のICT化が急速に進んでいるため、次年度においては、その点の知識の充実を図っていく予定である。</p> <p>②職員各々で職業団体主催の基本教育プログラムや地域包括ケアに関する研修会等に参加した。基本教育プログラム研修と地域包括ケア・介護予防推進リーダー研修それぞれ1名修了した。研修等で得た知識を共有化するために、係内で伝達講習を実施した。SDS支援として、係スタッフを含めた老健職員を対象としたケアマネの受講勉強会を開催した(15回)。また、職業団体認定の資格取得も促した。次年度については、職業団体主催の臨床実習指導者講習会等への参加を支援していく予定である。</p> <p>③スタッフのキャリアプランに基づいたOJT体制を構築するため、係スタッフとの面接を実施し、各自の置んでいるスキルとキャリアを把握した。それに基づいた整備を進めるため、係内にてキャリアパスの勉強会を実施した。</p>

栄養 給食	<p>①専門とする分野の知識・技術習得を行う為、所属する職業団体（日本栄養士会）の生涯教育制度を自らに受講・単位取得を行う。また、受講により専門分野のネットワーク作りを行い、情報収集の場として活用する。</p>	<p>①管理栄養士は、所属する職業団体（日本栄養士会）の研修へ参加し1単位取得、その他の栄養に関する県内外の研修にも積極的に参加する事が出来た。また、時間介護事業所と連携した在宅研修や会津地域医療推進研修に参加することで、在宅生活の実際を理解する機会を得ることができた。看護員は、チームコンペクションオープン調理（基礎～応用）の研修へ2名が参加し、研修内容から調理方法の具体的な見直しを提案する事が出来、調理技術・作業効率の向上ができた。</p>
----------	---	---

平成31年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」利用実績

①入所利用実績

	実人数						延べ日数
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	
平成31年4月	1	4	9	12	8	34	912
令和元年5月	1	3	10	10	10	34	887
令和元年6月	0	1	10	14	8	33	823
令和元年7月	1	1	10	17	7	36	1,018
令和元年8月	1	1	11	15	8	36	936
令和元年9月	0	1	12	12	7	32	906
令和元年10月	2	2	12	10	5	31	914
令和元年11月	2	2	11	12	6	33	869
令和元年12月	3	2	10	13	7	35	960
令和2年1月	3	1	10	11	8	33	898
令和2年2月	3	3	10	11	7	34	942
令和2年3月	3	2	12	11	8	36	1,041
合計	20	23	127	148	89	407	11,106
前年度	(9)	(57)	(128)	(136)	(101)	(431)	(12,004)

②介護度年齢別状況

*()内は前年度実績

		~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	要介護2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	要介護3	0	0	0	0	0	3	1	0	1	5
	要介護4	1	0	0	0	0	2	2	1	0	6
	要介護5	0	0	0	1	0	5	2	0	0	8
小計		1	0	1	1	0	11	6	1	1	22(17)
平均		4	0	2	5	0	3.9	3.6	4	3	3.7(3.1)
女性	要介護1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	要介護2	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4
	要介護3	0	0	1	1	1	3	4	2	0	12
	要介護4	0	0	0	0	2	6	4	4	0	16
	要介護5	1	0	0	1	2	1	0	2	1	8
小計		1	0	1	2	5	11	12	9	1	42(45)
平均		5	0	3	4	4.2	3.6	2.9	3.6	5	3.5(3.8)
合計		2	0	2	3	5	22	18	10	2	64(62)
平均		4.5	0	2.5	4.3	4.2	3.7	3.1	3	4	3.6(3.6)
男性平均 96.2歳 女性平均 88.7歳 全体平均 87.8歳 最高 101歳 最低 46歳											

③入退所状況

	自宅	GIE	小規模	有料等	老健	特養	病院	永眠	合計	
	入所 退所	退所	入所	退所						
平成31年4月	3	3	0	0	0	0	1	0	0	1
令和元年5月	3	5	0	1	0	0	0	0	0	2
令和元年6月	5	1	0	0	0	0	1	0	0	5
令和元年7月	3	1	1	0	0	0	0	1	0	0
令和元年8月	1	3	1	0	0	0	0	0	1	0
令和元年9月	1	4	0	0	0	0	0	0	0	2
令和元年10月	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
令和元年11月	3	1	0	0	0	0	0	0	1	2
令和元年12月	3	4	0	0	0	0	0	0	1	1
令和2年1月	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0
令和2年2月	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1
令和2年3月	1	3	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	32	25	3	1	0	0	1	1	2	6
前年度	(36)	(26)	(1)	(1)	(0)	(0)	(3)	(0)	(2)	(0)
									51	47
									(11)	(45)
										(51)

④市町村別年間実人数

*()内は前年度実績

市町村名	男性	女性	合計
西会津町	21(17)	42(45)	63(62)
喜多方市	1(0)	0(0)	1(0)
合計	22(17)	42(45)	64(62)

平成 31 年度

医療処置一覧

介護老人保健施設「憩の森」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	530	311	409	443	459	331	414	464	467	388	476	567
経管栄養者人数	96	101	86	94	97	92	99	94	93	95	86	70
PEG・Mチューブ交換	2	3	17	4	5	6	5	5	5	7	6	2
Hr.カテーテル挿入者人数	185	132	127	124	132	120	126	120	107	93	84	93
Hr.カテーテル交換	10	5	4	7	3	5	6	4	4	3	3	3
膀胱洗浄	12	5	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	9	9	3	4	11	2	10	12	5	5	5	2
臨時検査	10	9	9	12	9	8	7	3	16	10	17	16
点滴 Div	21	12	32	14	59	38	3	10	14	32	25	30
抗生素 iv	10	5	32	9	31	27	3	10	10	17	17	42
インスリン	30	20	2	20	30	30	31	30	61	39	29	26
受診	0	2	0	3	0	0	0	1	1	0	2	0

処置人数	5259件 (6396件)	膀胱洗浄	20件 (64件)
経管栄養者人数	1103件 (1123件)	定期検査(採血・Bx-p・EKG)	77件 (84件)
PEG・Mチューブ交換	67件 (40件)	臨時検査	126件 (170件)
Hr.カテーテル挿入者人数	1443件 (1630件)	点滴 Div	290件 (548件)
Hr.カテーテル交換	57件 (71件)	抗生素 iv	213件 (225件)
		インスリン	348件 (311件)
		受診	9件 (20件)

平成31年度行事食一覧表

平成31年				令和元年				令和2年				介護老人保健施設 恵の森			
平成31年	4月	18日	お花見御膳	春のちらし寿司 吸い物(手まり鮨) 炊き合わせ 揚げだし 豆腐の梅だれかけ いちごゼリー		11月	3日	文化の日	赤飯 小づゆ 炊き合わせ ブロッコリーの棒かつお和え		12月	3日	新そば会	新そば かき揚げ りんごのコンポート 漬物	
		27日	副菜選択デー	すんだ和え フルーツカスター和え		18日	18日	新そば会	新そば かき揚げ りんごのコンポート 漬物		28日	副菜選択デー	ツナサラダ 新ごぼうの味噌煮		
		29日	昭和の日	赤飯 なめこ汁 エビフライ 胡瓜の酢の物		24日	クリスマス献立	クリスマス献らし寿司 麦根のすり流し汁 チキン豆腐団子芋サラダ	27日		副菜選択デー	春菊の白和え 南瓜のミルク煮			
	5月	1日	天皇即位の日	ご飯 小づゆ 魚の煮付け クルミの白和え		31日	大晦日	年越しそば かき揚げ インゲンの胡麻味噌和え	31日		大晦日	年越しそば かき揚げ インゲンの胡麻味噌和え			
		3日	憲法記念日	赤飯 味噌汁(豆腐) 魚の山椒焼き ポテトの味噌炒め		1月	1~3日	お正月 特別献立	銀鮭の照り煮 伊達巻 焼前煮 故らし寿司 姫煮墨煮物 きんとん 粉汁 紅白なます おたふく豆 鰯の照り焼き 精進揚げ 野菜のやみ味噌和え 五目煮しめ たたき牛蒡 三日とろろ 七福神イモ雑煮 鮎なます 肉内の南蛮焼 春菊の酢の物		15日	小正月御膳	三色おはぎ 小づゆ 桜たらの甘露煮 故の子豆 いご		
		4日	みどりの日	焼肉ピーフカレー 味噌汁(大根) インゲンと帆立の煮物		25日	副菜選択デー	カリフラワーサラダ ヤーコンのすんだ和え	3日		節分御膳	大豆御飯 ざくざく 天ぷら盛 ほうれん草の胡桃和え			
		5日	こどもの日	春のちらし寿司 あさりの潮汁 ポテトサラダ こどもの日ポンチ		11日	達磨記念日	赤飯 小づゆ 魚の味噌煮 ゼンマイと油揚げの煮付け	11日		副菜選択デー	さつま芋サラダ さつま芋とナスのカレー煮			
		15日	お田植え御膳	しそ味噌のおにぎり 味噌汁(じゃが芋とうるい) 春の天ぷら 天つゆ わらびのナムル		26日	副菜選択デー	ひな祭り御膳	3日		ひな祭り御膳	ひな祭り寿司 吸い物(花鮨) 煮魚 菜花のお浸し 和菓子盛			
		27日	副菜選択デー	アスパラのゆず味噌がけ 鮭と春キャベツのグラタン		17日	彼岸入り	三色おはぎ 小づゆ 鮭たらの甘露煮 故の子豆 いご	17日		彼岸入り	三色おはぎ 小づゆ 魚の生姜煮 鮭芋のマリネ			
	6月	3日	さなぶり御膳	寿司(鮓・白身・帆立・太巻き) 吸い物(花鮨) 鮭の桜えび フリッパー ふきとうどの油炒め 和菓子風ムースヨモギ		20日	お中日	赤飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ 味噌マヨサラダ	20日		お中日	赤飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ 味噌マヨサラダ			
		20日	副菜選択デー	ナスのおろし煮 トマトとワカメの胡麻サラダ		23日	甚芋明け	いなり寿司 吸い物(うど) 五目煮しめ 野菜の白和え	23日		副菜選択デー	いなり寿司 大根のマヨネーズ和え 大根と鶏のくず煮			
		27日	副菜選択デー	ごぼうサラダ ナスのミートグラタン		27日	副菜選択デー	大根のマヨネーズ和え 大根と鶏のくず煮							
令和元年	7月	8日	七夕御膳	冷やしうめん 菜味 精進揚げ 鮭豆腐 七夕ポンチ											
		15日	海の日	ご飯 豚汁 魚の朝唐味噌焼き マカロニサラダ											
		24日	副菜選択デー	ごぼうサラダ ナスのミートグラタン											
		27日	土用の丑の日	うな丼 吸い物(花鮨) 胡瓜もみ 梅漬け大根											
		9日	薬膳献立	十五穀米御飯 豆と根菜のスープ 鮭と小松菜の生姜炒め 春菊とのりの和え物											
	8月	13日	盆入り	御飯 吸い物(花鮨) 精進揚げ 天つゆ クルミの白和え あわせせるゼリー(桃)											
		15日	鉢巻記念日	赤飯 小づゆ 煮魚 揚げ出し豆腐の枝豆あん											
		30日	副菜選択デー	冬瓜の帆立あんかけ 冬瓜の梅和え											
		21日	お役岸入り御膳	三色おはぎ 小づゆ 魚の酒粕焼き 冬瓜の醤あんかけ											
		23日	お中日	赤飯 かき卵汁 ブリの照り焼き えのきの煮しめ											
9月	26日	彼岸明け	いなり寿司 小づゆ 肉と野菜の旨煮 柿の白和え												
		30日	副菜選択デー	秋野菜のかき揚げ 秋ナスのナムル											
	10月	14日	体育の日	しめじ御膳 お月見汁 魚の香り漬け 五目豆											
		16日	秋の味覚御膳	御飯 鮭丼 卵紅葉蒸し 青菜と鶏の胡桃和え 柿											
	29日	副菜選択デー	ほうれん草の胡桃和え 揚げ芋の海苔あんかけ												

平成31年度給食栄養実績年計表

介護老人保健施設 森の森

	1ヶ月	1食平均	1か月	1人1日平均	経験栄養	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	炭水化物 mg	カルシウム mg	鉄 mg	カロテン ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg	塩分 g
	食数	食数	購入金額(円)	食材料費(円)	1食単価(円)											
4月	(入所) 2,380	(入所) 27	312,268	(入所) 772	(入所) 1205											
	(SS) 1,491	(SS) 17	391,403	(SS) 788	(SS) 0	1,475	59.8	35.9	207.6	675	12.0	4,019	2.53	1.02	87	7.20
	(DC) 477	(DC) 19	164,520	(DC) 347	(DC) 0											
5月	(入所) 2,384	(入所) 27	601,054	(入所) 757	(入所) 203											
	(SS) 1,668	(SS) 18	427,960	(SS) 774	(SS) 0	1,482	58.4	35.7	211.0	580	12.1	4,320	2.51	1.02	85	7.30
	(DC) 436	(DC) 18	154,191	(DC) 356	(DC) 0											
6月	(入所) 2,233	(入所) 26	538,323	(入所) 724	(入所) 186											
	(SS) 1,609	(SS) 192	416,394	(SS) 735	(SS) 0	1,486	57.4	37.3	211.0	588	11.8	3,844	2.54	1.00	94	7.40
	(DC) 453	(DC) 19	153,789	(DC) 334	(DC) 0											
7月	(入所) 2,833	(入所) 31	716,056	(入所) 803	(入所) 290											
	(SS) 1,364	(SS) 15	353,822	(SS) 812	(SS) 0	1,484	57.6	36.2	210.3	582	12.1	4,366	2.56	1.06	86	7.00
	(DC) 481	(DC) 19	185,163	(DC) 356	(DC) 0											
8月	(入所) 2,566	(入所) 29	629,149	(入所) 739	(入所) 228											
	(SS) 1,507	(SS) 17	373,672	(SS) 743	(SS) 0	1,491	58.5	36.5	208.3	602	11.8	4,085	2.50	1.03	89	7.20
	(DC) 482	(DC) 20	163,612	(DC) 341	(DC) 0											
9月	(入所) 2,475	(入所) 28	602,647	(入所) 726	(入所) 250											
	(SS) 1,470	(SS) 16	362,215	(SS) 736	(SS) 0	1,487	59.1	36.9	210.0	577	11.8	4,325	2.50	10.60	90	7.40
	(DC) 436	(DC) 18	150,360	(DC) 343	(DC) 0											
10月	(入所) 2,456	(入所) 27	579,471	(入所) 707	(入所) 265											
	(SS) 1,622	(SS) 17	387,928	(SS) 717	(SS) 0	1,494	59.6	32.9	212.0	609	11.8	4,789	2.49	1.11	91	7.30
	(DC) 452	(DC) 18	139,330	(DC) 310	(DC) 0											
11月	(入所) 2,309	(入所) 27	685,883	(入所) 761	(入所) 374											
	(SS) 1,532	(SS) 17	390,587	(SS) 766	(SS) 0	1,515	59.8	38.3	211.6	584	11.9	4,509	2.55	1.53	91	7.30
	(DC) 442	(DC) 18	151,823	(DC) 346	(DC) 0											
12月	(入所) 2,750	(入所) 31	666,103	(入所) 726	(入所) 297											
	(SS) 1,571	(SS) 17	381,044	(SS) 728	(SS) 0	1,504	58.7	38.3	213.2	602	12.4	4,391	2.55	1.09	87	7.60
	(DC) 466	(DC) 20	171,276	(DC) 369	(DC) 0											
2020年	(入所) 2,405	(入所) 27	655,708	(入所) 695	(入所) 288											
	(SS) 1,677	(SS) 18	385,746	(SS) 690	(SS) 0	1,511	58.6	37.1	216.4	589	12.1	4,611	2.52	0.99	89	7.40
	(DC) 433	(DC) 19	146,927	(DC) 341	(DC) 0											
1月	(入所) 2,367	(入所) 28	602,911	(入所) 764	(入所) 288											
	(SS) 1,306	(SS) 15	334,607	(SS) 768	(SS) 0	1,503	59.5	37.0	216.9	599	11.8	4,825	2.49	1.03	92	7.00
	(DC) 447	(DC) 19	152,060	(DC) 342	(DC) 0											
2月	(入所) 2,798	(入所) 31	671,901	(入所) 721	(入所) 149											
	(SS) 1,267	(SS) 14	308,253	(SS) 730	(SS) 0	1,507	58.6	35.9	218.3	600	12.1	3,997	2.50	1.10	87	7.20
	(DC) 472	(DC) 19	159,646	(DC) 340	(DC) 0											
3月	(入所) 29,946	(入所) 339	7,362,480	(入所) 8895	(入所) 2993											
	(SS) 18,184	(SS) 200	4,513,632	(SS) 8987	(SS) 0	17,939	705.6	438.0	2546.6	7,087	143.7	52,081	30.24	22.58	1,068	87.30
	(DC) 5,437	(DC) 226	1,872,936	(DC) 4130	(DC) 0											
	(入所) 2,406食	(入所) 28食	(入所) 613,640円	(入所) 741円	(入所) 249円	1,400	50.5	35.0	200.0	600	10.0		1.20	1.00	100	8.00
	(SS) 1,814食	(SS) 17食	(SS) 376,136円	(SS) 749円												
	(DC) 457食	(DC) 19食	(DC) 156,083円	(DC) 344円		1,495	58.8	36.5	212.2	591	12.0	4,340	2.52	1.88	89	7.25

平成31年度 介護老人保健施設「憩の森」施設外研修参加状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者	復命方法
1	平成31年度全会津介護支援専門委員協会 総会・記念講演	記念講演「介護支援専門員がしつておきたい成年後見制度の概要について ～実践事例を踏まえて」	介護員	平野保子	平成31年4月23日	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表
2	平成31年度全会津介護支援専門委員協会 総会・記念講演	記念講演「介護支援専門員がしつておきたい成年後見制度の概要について ～実践事例を踏まえて」	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	平成31年4月23日	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表
3	平成31年度全会津介護支援専門委員協会 総会・記念講演	記念講演「介護支援専門員がしつておきたい成年後見制度の概要について ～実践事例を踏まえて」	介護支援専門員	小林栄里	平成31年4月23日	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表
4	動きやすい職場になる為に ～職場つくりのヒント～	講演「福祉職場環境を考える」	事務員	伊藤智美	令和元年5月16日	㈱ハッピーケア・白十字 会津若松市神楽郷2階	復命書 朝礼にて発表
5	スーパースチーム調理講習会	スチコン基礎～応用まで 導入現場の使用実例紹介 真空調理・クックチルの利用方法	調理員	佐藤孝哉	令和元年5月30日	株式会社マルゼン郡山営業所 郡山市安積総合学習センター	復命書 朝礼にて発表
6	令和元年度キャリアバス制度理解研修	事例で学ぶ「今日からはじめるキャリアバス」長く働ける職場を創造し 長く働きたい職場を作るヒント 福祉・介護人材定着促進事業について キャリアバス制度導入 事例発表会	介護支援専門員 兼看護係長	八幡一子	令和元年5月30日	社会福祉法人福島県 社会福祉協会 ユラックス熱海	復命書 朝礼にて発表
7	令和元年度キャリアバス制度理解研修	事例で学ぶ「今日からはじめるキャリアバス」長く働ける職場を創造し 長く働きたい職場を作るヒント 福祉・介護人材定着促進事業について キャリアバス制度導入 事例発表会	リハビリ係長	横谷貴之	令和元年5月31日	社会福祉法人福島県社会福祉協会 ユラックス熱海	復命書 朝礼にて発表
8	令和元年度老人福祉施設職員研修Ⅰ	講義「介護職の専門性とは何か」～医療・看護ではない介護の独自性～ 講義「認知症介護の専門性とは何か」～医学から人間学へ、認知症ケアの最深部 ～～	介護員	黒澤裕明	令和元年6月10日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ユラックス熱海	復命書 朝礼にて発表
9	令和元年度老人福祉施設職員研修Ⅰ	講義「介護職の専門性とは何か」～医療・看護ではない介護の独自性～ 講義「認知症介護の専門性とは何か」～医学から人間学へ、認知症ケアの最深部 ～～	介護員	鈴木芳夫	令和元年6月10日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ユラックス熱海	復命書 朝礼にて発表
10	令和元年度福祉職員キャリアバス対応生涯 研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての醸成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発料目の講義と演習	介護員	鈴木美津江	令和元年 6月12日～14日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表

11	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての職成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発科目的講義と演習	管理栄養士 佐藤明日香	令和元年 6月12日～14日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表
12	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての職成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発科目的講義と演習	介護員 尾形亮太	令和元年 6月26日～28日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表
13	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての職成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発科目的講義と演習	准看護師 斎藤ひろみ	令和元年 6月26日～28日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表
14	2019年度老人保健施設管理医師総合 診療研修会（第Ⅰ期）	1日目 高齢者の多病と多様性1 老人保健施設管理医師について 高齢者に対する適切な医療提供の指針について 高齢者に対する薬物療法の基本的な考え方 高齢者の多病と多様性2 2日目 生活の場に即した医療提供 老人保健施設の認知症ケア1 老人保健施設の認知症ケア2 老人保健施設の役割について 隣の場に即した医療提供 高齢者総合機能評価(計画書の作成)	医師 坂田敏夫	令和元年 6月29日～30日	一般社団法人日本老年医学会 公益社団法人全国老人 保健施設協会 TIPガーデンシティPREMIUM京橋	復命書 朝礼にて発表
15	令和元年度介護保険事業者集団指導	令和元年度指定介護保険サービス事業所等指導方針 業務管理体制確認検査 平成30年度実施指導・監査における主な指摘・指導事項 事業者指定営業手続等 介護職員等特定処遇改善加算 高齢者保健福祉施設等における事故及び感染症等報告 介護職員による喀痰吸引等の実施 高齢者の権利擁護 介護労働者の労働条件の確保・改善のポイント 2019年度統覧・医療情報の交換点検	事務員 伊藤智美	令和元年6月11日	福島県福祉監査課 会津大学	復命書 朝礼にて発表
16	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての職成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発科目的講義と演習	事務員 伊藤智美	令和元年 7月3日～5日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表
17	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 福祉サービスの基本理念と倫理の理解を深める中堅職員としての職成 チームケアと問題解決～遭遇要因分析 啓発科目的講義と演習	介護員 鈴木淳子	令和元年 7月3日～5日	福島県社会福祉協議会 福島県総合 社会福祉センター講堂	復命書 朝礼にて発表
18	令和元年度全会津 介護支援専門員協会第1回研修会	介護保険制度の理念等 ケアマネジメントの定義と課題 利用者の自己選択・自己決定の保障 質疑応答、意見・情報交換	介護支援専門員 小林栄里	令和元年7月26日	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表
19	令和元年度全会津 介護支援専門員協会第1回研修会	介護保険制度の理念等 ケアマネジメントの定義と課題 利用者の自己選択・自己決定の保障 質疑応答、意見・情報交換	支援相談員 近藤貴之	令和元年7月26日	全会津介護支援専門員協会 アビオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表

20	令和元年度特定給食施設等講習会	<p>第一部 講義「衛生管理について」 福島県会津保健所生活衛生部衛生推進課食品衛生チーム 技師 長谷川涼亮氏</p> <p>第二部 事例発表 「高齢者の低栄養に伴う疾患予防のための取り組み」 磐梯町保健医療福祉センター 管理栄養士 藤上 美樹子氏 財団法人穴澤病院 管理栄養士 滝谷 陽子氏 福島県立宮下病院 専門栄養技師 小野 知恵氏</p>	管理栄養士	佐藤明日香	令和元年8月23日	福島県会津保健所 会津大学	復命書 朝礼にて発表
21	令和元年度特定給食施設等講習会	<p>第一部 講義「衛生管理について」 福島県会津保健所生活衛生部衛生推進課食品衛生チーム 技師 長谷川涼亮氏</p> <p>第二部 事例発表 「高齢者の低栄養に伴う疾患予防のための取り組み」 磐梯町保健医療福祉センター 管理栄養士 藤上 美樹子氏 財団法人穴澤病院 管理栄養士 滝谷 陽子氏 福島県立宮下病院 専門栄養技師 小野 知恵氏</p>	調理員	佐藤孝哉	令和元年8月23日	福島県会津保健所 会津大学	復命書 朝礼にて発表
22	第80回 ユマニチュード入門1日間コース	<p>講義1 Humanitudeとは(歴史) 講義2 Humanitudeの哲学 講義3 5つのステップ 講義4 4つの柱 講義5 4つの柱「話す」 講義6 4つの柱「触れる」 講義7 4つの柱「立つ」 講義8 第3の誕生</p>	理学療法士	遠藤広崇	令和元年8月28日	株式会社エクサウイザーズ ユマニチュード事務局 一般社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院3階大会議室	復命書 朝礼にて発表 職員会議にて 伝達研修
23	第80回 ユマニチュード入門1日間コース	<p>講義1 Humanitudeとは(歴史) 講義2 Humanitudeの哲学 講義3 5つのステップ 講義4 4つの柱 講義5 4つの柱「話す」 講義6 4つの柱「触れる」 講義7 4つの柱「立つ」 講義8 第3の誕生</p>	介護員	鈴木淳子	令和元年8月28日	株式会社エクサウイザーズ ユマニチュード事務局 一般社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院3階大会議室	復命書 朝礼にて発表 職員会議にて 伝達研修
24	第18回 東北地区 介護老人保健施設大会 IN福島	<p>演題発表 (ポスター発表) 其擇講演「介護報酬改訂の動向と今後の老健の在り方について」 講師 東慈太郎氏 公益社団法人 全国老人保健施設協会 会長 市民公開講座「地震、津波、原発事故と福島のいま」 講師 長谷川 有史氏 福島県立医科大学 放射線災害医学講座 主任教授</p>	介護支援専門員	小林栄里	令和元年8月31日	一般社団法人福島県 老人保健施設協会 ザ・セレクトン福島	復命書 朝礼にて発表 職員会議にて 事前発表
25	第18回 東北地区 介護老人保健施設大会 IN福島	<p>演題発表 (ポスター発表) 其擇講演「介護報酬改訂の動向と今後の老健の在り方について」 講師 東慈太郎氏 公益社団法人 全国老人保健施設協会 会長 市民公開講座「地震、津波、原発事故と福島のいま」 講師 長谷川 有史氏 福島県立医科大学 放射線災害医学講座 主任教授</p>	理学療法士	赤城夕奈	令和元年8月31日	一般社団法人福島県 老人保健施設協会 ザ・セレクトン福島	復命書 朝礼にて発表 職員会議にて 事前発表
26	第18回 東北地区 介護老人保健施設大会 IN福島	<p>演題発表 (ポスター発表) 其擇講演「介護報酬改訂の動向と今後の老健の在り方について」 講師 東慈太郎氏 公益社団法人 全国老人保健施設協会 会長 市民公開講座「地震、津波、原発事故と福島のいま」 講師 長谷川 有史氏 福島県立医科大学 放射線災害医学講座 主任教授</p>	支援相談員	近藤貴之	令和元年8月31日	一般社団法人福島県 老人保健施設協会 ザ・セレクトン福島	復命書 朝礼にて発表 職員会議にて 事前発表

27	第18回 東北地区 介護老人保健施設大会 IN福島	講題発表（ポスター発表） 其講演「介護報酬改訂の動向と今後の老健の在り方について」 講師 東京太郎氏 公益社団法人 全国老人保健施設協会 会長 市民公開講座「地震、津波、原発事故と福島のいま」 講師 長谷川 有史氏 福島県立医科大学 放射線災害医学講座 主任教授	介護副保長	鈴木芳夫	令和元年8月31日	一般社団法人福島県 老人保健施設協会 ザ・セレクトン福島	復命書 朝礼にて表彰 職員会議にて 事前発表
28	第13回福島県在宅褥瘡セミナー	講演1 写真で学ぼう D E I G N - R 講演2 I.A.D (失禁関連皮膚障害)と褥瘡の関連性 講演3 足のトラブルを予防するブートケア 特逆行為研修についてのご案内 グループワーク	准看護師	齋藤恵美	令和元年9月29日	一般社団法人日本褥瘡学会 ボラリス保健看護学院	復命書 朝礼にて発表
29	ステーム・ソリューションセミナー	講演① 施設内実演① 施設内実演② 新開発システムの活用① 講演③ 新開発システムの活用② 質疑応答	看護員	大石由紀	令和元年10月17日	㈱マルゼン新潟営業所 ㈱マルゼン新潟営業所 テストキッチン	復命書 朝礼にて発表
30	高齢者虐待防止セミナー	講演1 高齢者虐待防止法と虐待の実態について 講演2 要介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取り組みについて	介護支援専門員	小林栄里	令和元年11月8日	福島県保健福祉部高齢福祉課 コミュニケーション福島	復命書 朝礼にて発表
31	高齢者虐待防止セミナー	講演1 高齢者虐待防止法と虐待の実態について 講演2 要介護施設従事者等による高齢者虐待防止の取り組みについて	介護員	長谷川寿	令和元年11月8日	福島県保健福祉部高齢福祉課 コミュニケーション福島	復命書 朝礼にて発表
134-	福島県介護支援専門員、再研修、更新研修 (実務未経験者)	1回目 講義 介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント 講義 地域包括システム及び社会資源 講義・演習 地域包括ケアシステムの基本 講義 入浴の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理 講義 ケアマネジメントに係る法令等の理解 講義・演習 介護支援専門員に求められるマネジメント(チームマネジメント) 2回目 講義 ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の意義 講義 基礎理解 介護支援専門員証交付申請について 講義・演習 症状別疾患及び費用対効用に関する事例 講義・演習 腹痛疾患に関する事例 講義・演習 内臓の機能不全に関する事例 3回目 講義・演習 内臓の機能不全に関する事例 講義・演習 認知症に関する事例 講義・演習 看取りに関する事例 講義・演習 アセスメント及び居宅サービス計画等の作成の総合演習 講義・演習 研修の振り返りと自己評価	介護員	平野保子	令和元年11月11日 11月18日～19日 26日～28日 12月10日～12月12日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ピックパレット福島1階 コンベンションホール	復命書 朝礼にて発表
32							
33	県中地域低食嚥下ケア体制整備事業における 食形態の平準化研修会	行政説明「県中地域低食嚥下ケア体制整備事業における食形態の平準化について」 講義「嚥下調整分類2013の理解と運用」	管理栄養士	佐藤明日香	令和元年11月13日	県中保健福祉事務所健康増進課 郡山市立中央公民館 多目的ホール	復命書 朝礼にて発表
34	令和元年社会福祉施設栄養士研修	講義1 健康診断結果から読み解く健康管理～見えてくる生活習慣～ 講義2 健康診断結果に応じた栄養ケアの実際～事例検討～	管理栄養士	佐藤明日香	令和元年11月20日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 朝礼にて発表

35	全会津介護支援専門員協会第2回研修会	第一部 映画「奇跡の小学校の物語 この学校はなくさない！」上映 第二部 意見交換会「奇跡の小学校の物語」を観て地域包括ケアを考える	介護支援専門員	小林栄里	令和元年11月26日	全会津介護支援専門員協会 アピオスペース展示ホール	復命書 朝礼にて発表
36	令和元年度会津地域 現任認定調査従事者研修会	(1)説明「介護保険運営状況等について」 (2)講義「基本調査項目のポイント・特記事項記載のポイント等について」	介護支援専門員	小林栄里	令和元年12月19日	福島県会津保健福祉事務所 会津若松北会津公民館大ホール	復命書 朝礼にて発表
37	令和元年度会津地域 現任認定調査従事者研修会	(1)説明「介護保険運営状況等について」 (2)講義「基本調査項目のポイント・特記事項記載のポイント等について」	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	令和元年12月19日	福島県会津保健福祉事務所 会津若松北会津公民館大ホール	復命書 朝礼にて発表
38	令和元年度老人福祉施設職員研修II	講義「身体拘束の廃止に向けて」 講義・演習「施設における身体拘束等廃止の取り組みについて」	准看護師	佐藤かつ子	令和元年12月26日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 朝礼にて発表
39	令和元年度老人福祉施設職員研修II	講義「身体拘束の廃止に向けて」 講義・演習「施設における身体拘束等廃止の取り組みについて」	介護員	黒谷川ウタ子	令和元年12月26日	社会福祉法人福島県 社会福祉協議会 ピックパレット福島	復命書 朝礼にて発表
40	令和元年会津地域在宅医療推進研修会	(1)「喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取り組みについて」 (2)病気を伴っても自分らしく在宅で療養生活を送る為の支援(事例報告) Ⅰ「心疾患を持つ一人暮らしのIさんを他施設で支援」 Ⅱ「2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介」 Ⅲ「人口呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援」 (3)まとめ「私たちのめざす会津地域の在宅医療～3事例を通して」 (4)意見交換	介護支援専門員	小林栄里	令和2年2月15日	福島県会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼にて発表
41	令和元年会津地域在宅医療推進研修会	(1)「喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取り組みについて」 (2)病気を伴っても自分らしく在宅で療養生活を送る為の支援(事例報告) Ⅰ「心疾患を持つ一人暮らしのIさんを他施設で支援」 Ⅱ「2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介」 Ⅲ「人口呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援」 (3)まとめ「私たちのめざす会津地域の在宅医療～3事例を通して」 (4)意見交換	管理栄養士	佐藤明日香	令和2年2月15日	福島県会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼にて発表
42	令和元年会津地域在宅医療推進研修会	(1)「喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取り組みについて」 (2)病気を伴っても自分らしく在宅で療養生活を送る為の支援(事例報告) Ⅰ「心疾患を持つ一人暮らしのIさんを他施設で支援」 Ⅱ「2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介」 Ⅲ「人口呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援」 (3)まとめ「私たちのめざす会津地域の在宅医療～3事例を通して」 (4)意見交換	准看護師	齋藤恵美	令和2年2月15日	福島県会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼にて発表

43	令和元年会津地域在宅医療推進研修会	(1)「喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取り組みについて」 (2)病気を持っても自分らしく在宅で療養生活を送る為の支援(事例報告) I 「心疾患を持つ一人暮らしのIさんを他職種で支援」 II 「2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介」 III 「人口呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援」 (3)まとめ「私たちのめざす会津地域の在宅医療～3事例を通して」 (4)意見交換	介護士	鈴木淳子	令和2年2月15日	福島県会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼にて発表
44	令和元年会津地域在宅医療推進研修会	(1)「喜多方市の医療・介護・福祉の支援体制構築の取り組みについて」 (2)病気を持っても自分らしく在宅で療養生活を送る為の支援(事例報告) I 「心疾患を持つ一人暮らしのIさんを他職種で支援」 II 「2年間の在宅介護を経て最終的に在宅看取りに至ったケースの紹介」 III 「人口呼吸器をつけて我が家で暮らす難病患者Sさんへの支援」 (3)まとめ「私たちのめざす会津地域の在宅医療～3事例を通して」 (4)意見交換	作業療法士	長嶋耕一	令和2年2月15日	福島県会津保健福祉事務所 喜多方市総合福祉センター	復命書 朝礼にて発表
45	ハイジエニック・ビューティシャン・ ハイジエニックネイリスト	ハイジエニック・ビューティシャン講義 1月10日(金) H.J.B概論・基礎ハンド理論・技術・言葉のコミュニケーション 爪切りの基 構・基礎フット技術(トリートメント) 1月11日(土) 清潔ケア技術(足の拭き方、洗い方)・清潔ケア技術(タオルスリップ)・復習 1月20日(月) 技術テスト・筆記テスト・からだの仕組み、介護総論(有資格者免除) 1月21日(火) 介護総論(有資格者免除) ハイジエニック・ネイリスト講義 2月3日(月) H.J.N概論・爪の理論(構造・しくみ)・道具の正しい使い方・爪切り実技(手) 2月10日(月) 爪切り実技(足)・復習テスト	介護員	大山希奈	令和2年1月10日 11日・20日・21日 2月3日・10日	社会福祉法人にしあいづ福祉会 西会津町生活支援ハウス さゆりの園 デイサービスセンターⅡ	復命書
46	ハイジエニックビューティシャン・ ハイジエニックネイリスト	ハイジエニック・ビューティシャン講義 1月10日(金) H.J.B概論・基礎ハンド理論・技術・言葉のコミュニケーション 爪切りの基 構・基礎フット技術(トリートメント) 1月11日(土) 清潔ケア技術(足の拭き方、洗い方)・清潔ケア技術(タオルスリップ)・復習 1月20日(月) 技術テスト・筆記テスト・からだの仕組み、介護総論(有資格者免除) 1月21日(火) 介護総論(有資格者免除) ハイジエニック・ネイリスト講義 2月3日(月) H.J.N概論・爪の理論(構造・しくみ)・道具の正しい使い方・爪切り実技(手) 2月10日(月) 爪切り実技(足)・復習テスト	事務長兼主任介護支援専門員	伊勢恵久美子	令和2年1月10日 11日・20日・21日 2月3日・10日	社会福祉法人にしあいづ福祉会 西会津町生活支援ハウス さゆりの園 デイサービスセンターⅡ	復命書

平成31年度 介護老人保健施設「憩の森」施設内研修状況

1. 委員会企画研修

No.	研修名	研修内容	講師・企画	参加職種	参加人数	日時	研修結果の周知方法
1	介護技術向上研修 移乗動作について	移乗介助技術の習得 身体介護技術の標準化体制を構築するため、基本技術の共有と習得	岡本OT・介護技術向上委員会	看護・介護職員 (パート職員含む)	16名	令和元年5月10日	振り返りシートまとめ回覧
					22名	令和元年6月7日	
2	法定研修 事故防止対策について	介護事故予防ガイドラインについて	リスクマネジメント委員会	全常勤職員	28名	令和元年6月18日	ガイドライン配布
3	介護技術向上研修 移乗動作について②(実践編)	移乗介助技術の習得 応用的な移乗介助を取得し、腰痛予防の視点からも移乗介助技術を理解する	岡本OT・介護技術向上委員会	看護・介護職員 (パート職員含む)	19名	令和元年7月5日	振り返りシートまとめ回覧
					22名	令和元年8月2日	
4	法定研修 衛生・食中毒について	食中毒についての知識の習得 介護現場でできる食中毒対策	リスクマネジメント委員会	全職員 (パート職員含む)	42名	令和元年8月20日	振り返りシートまとめ回覧
5	介護技術向上研修 体位交換について	体位変換基本介助技術の習得 身体介護技術の標準化体制を構築する為、基本技術の共有と習得	岡本OT・介護技術向上委員会	看護・介護職員 (パート職員含む)	22名	令和元年9月6日	振り返りシートまとめ回覧
					17名	令和元年10月4日	
6	接遇・不適切ケアについての研修会	職場環境 不適切ケアについて グループワーク 接遇の技術	権利擁護委員会	全職員 (パート職員含む)	42名	令和元年9月19日	マナーチェックリストの回収まとめ回覧
7	消防設備取扱い説明会	消防設備の説明	防災・環境委員会	興動職員 新人職員	4名	令和元年10月31日	実施報告を回覧
8	介護技術向上研修 認知症について	認知症ケアの習得 認知症ケアの標準化体制を構築するため、基本知識の共有	岡本OT・介護技術向上委員会	看護・介護職員 (パート職員含む)	19名	令和元11月1日	振り返りシートまとめ回覧
					21名	令和元年12月6日	

9	法定研修 褥瘡予防研修会	排泄支援・褥瘡マネジメント加算算定に向けた試行方法の検討 褥瘡の発生状況及びリスク者についての共有	排泄褥瘡委員会	全職員 (パート職員含む)	34名	令和元年11月21日	振り返りシート まとめ回覧
10	法定研修 身体拘束廃止及び虐待防止	身体拘束廃止に向けて 施設における身体的拘束等廃止の取り組みについて	権利擁護委員会	全職員	39名	令和2年1月21日	振り返りシート まとめ回覧
11	介護技術向上研修 誤嚥予防のための姿勢と口腔体操	誤嚥予防のための姿勢と口腔体操について 誤嚥予防の標準化体制を構築する為、基本知識の共有	岡本OT・介護技術向上委員会	看護・介護職員 (パート職員含む)	18名	令和2年1月10日	振り返りシート まとめ回覧
					24名	令和元年2月7日	

2. 在宅研修

No.	研修名	受講内容	参加職種	参加者名	期間	場所	復命方法
1	訪問看護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	看護師	渡部一広	令和元年9月6日	訪問看護事業所	復命書 係会議にて発表
2	訪問看護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	看護係長兼 介護支援専門員	八幡一子	令和元年9月10日	訪問看護事業所	復命書 係会議にて発表
3	訪問看護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	看護師	佐藤かつ子	令和元年9月12日	訪問看護事業所	復命書 係会議にて発表
4	訪問看護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	看護師	齋藤恵美	令和元年9月13日	訪問看護事業所	復命書 係会議にて発表
5	訪問看護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	看護師	中島愛	令和元年7月17日	訪問看護事業所	復命書 係会議にて発表
6	訪問介護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	介護員	尾形亮太	令和元年9月12日	訪問介護事業所	復命書 係会議にて発表
7	訪問介護在宅研修	在宅での支援の特徴や関係機関との連携方法 記録方法について 自事業所利用者に関する情報収集・情報共有に努める	介護副係長	鈴木芳夫	令和元年10月15日	訪問介護事業所	復命書 係会議にて発表
8	訪問介護在宅研修	在宅での食事環境を学ぶ	管理栄養士	佐藤明日香	令和2年1月28日	訪問介護事業所	復命書 係会議にて発表

3. 外部研修伝達研修

研修内容	発表者	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
第18回東北地区老人保健施設大会ポスター発表事前報告	支援相談員・近藤貴之 理学療法士・赤城夕奈	全職種	30名	令和元年8月20日(火)	資料全員配付
第80回エマニチュード入門1日間コース福島伝達研修	理学療法士・遠藤広崇 介護係・鈴木淳子	全職種 パート職員含む	42名	令和元年9月19日(木)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
第80回エマニチュード入門1日間コース福島伝達研修	さゆりの園職員 さゆりの園職員	調理員 調理員	7名 2名	令和元年12月19日(木) 令和元年12月24日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
在宅褥瘡セミナー	看護係・斎藤恵美 介護係・長谷川良三	全職種	29名	令和元年11月21日(木)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
老人福祉施設職員研修Ⅱ「身体拘束廃止」	看護係・佐藤かつ子 介護係・長谷川ウタ子	全職種 パート職員含む	39名	令和2年1月21日(木)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

4. 事例検討会

テーマ	事例提供者	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
本人を知り、どの様に関わるケアを行なえばよいか	介護係長 鈴木あや子	全職種	29名	令和元年7月16日(火)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
同上テーマの継続(モニタリング)	介護係 佐藤留美	全職種 パート職員含む	30名	令和元年9月11日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

5. 法人研修会【法人主催】

研修名	講師	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
腰痛予防のための労働衛生教育研修会	(株)源氣堂 代表取締役・平栗辰也氏	全職種 パート職員含む	24名 28名	令和元年10月9日(水) 令和元年10月16日(水)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧
フットケア・ネイルケアブレ研修会	(株)ハンサムウーマン 厚谷積子氏	全職種 パート職員含む	31名 23名	令和元年11月7日(木) 令和元年11月14日(木)	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

6. チームアプローチ研修会参加【地域包括支援センター主催】

テーマ	事例提供者	参加職種	参加人数	開催日	研修結果の周知方法
看取りについて	薔の森ショート	相談員・介護員、准看護師・作業療法士	10名	令和元年 5月14日(火)	振り返りシートまとめ回覧
社会資源を活用しながら自立に向けた支援について	さゆりの園デイサービスⅡ	理学療法士・准看護師・介護員他	5名	令和元年 6月11日(火)	振り返りシートまとめ回覧
精神疾患をもつ高齢者の理解と対応について	訪問看護ステーションこころのあいあいづ	CM・理学療法士・准看護師・介護員	13名	令和元年11月12日(火)	振り返りシートまとめ回覧
本人（独居高齢者、末期癌患者）が望む生活を支援する為に～医療と介護の連携について～	西会津町居宅介護事業所、地域包括支援センター	CM・支援相談員・准看護師・介護員	4名	令和元年12月10日(火)	振り返りシートまとめ回覧

7. 西会津町主催研修会【福祉介護課主催】

研修名	講師	参加職種	参加人数	開催日・会場	研修結果の周知方法
高齢者・障がい者福祉施設等における虐待防止研修会	認知症介護研究・研修仙台センター研究部長 吉川悠貴氏	全職種 パート職員含む	43名	令和元年10月29日(水) 西会津中学校多目的ホール	資料全員配付・振り返りシートまとめ回覧

平成31年度介護老人保健施設「憩の森」自己啓発支援制度（SDS）状況

内容	主催	対象職員	参加人数	期間	支援内容と結果
令和元年度西会津町認知症ケアスキルアップ研修会	西会津町福祉介護課	全職種	10名	令和元年7月9日、8月6日、9月10日、10月8日	参加を可能とする為に勤務調整
健腸長寿と免疫	福祉社会栄養委員会	全職種	4名	令和元年 7月24日（木）	資料印刷の提供
ところみ剤の適切な使い方	福祉社会栄養委員会	全職種	9名	令和元年 9月18日（水）	資料印刷の提供
令和元年度福島県介護支援専門員実務研修受講試験勉強会	リハビリ係他	受験予定者	7名	令和元年9月～ 令和2年2月	場所・資料印刷の提供 1名合格
令和元度全会津介護支援専門員協会第2回研修会	全会津介護支援専門員協会	会員	2名	令和元年11月26日（火）	参加を可能とする為に勤務調整
感染対策研修（ノロウイルス・インフルエンザ）	リスクマネジメント委員会	全職員	31名	令和元年12月12日（木）	欠席者も含めて全員に資料配布
地域包括ケア会議リーダー研修（e-ラーニング）	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年7月20日（土） ～28日（火）	受講を可能とする為に勤務調整及び情報提供
地域包括ケア会議リーダー導入研修	福島県理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年7月27日（土）	参加を可能とする為に勤務調整
介護予防推進リーダー研修（e-ラーニング）	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年7月24日（水） ～26日（金）	受講を可能とする為に勤務調整及び情報提供
介護予防推進リーダー導入研修	福島県理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年7月28日（日）	参加を可能とする為に勤務調整
第38回関東甲信越ブロック理学療法士学会	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年10月26日（土） ～27日（日）	参加を可能とする為に勤務調整
新プロ教育研修（e-ラーニング）	日本理学療法士協会	理学療法士	1名	令和元年10月20日（日） ～25日（金）	受講を可能とする為に勤務調整及び情報提供
竹田総合病院リハビリテーション部部内学会	竹田総合病院リハビリテーション部部内学会実行委員会	リハビリ職	1名	令和2年2月29日（土）	参加を可能とする為に勤務調整
第4回福島県PEGと経腸栄養と在宅フォーラム	左記実行委員会	管理栄養士	1名	平成31年4月13日（土）	参加を可能とする為に勤務

					調整
リハ栄養フォーラム2019 in仙台	リハビリ栄養推進協会	管理栄養士	1名	令和元年5月25日（土）	参加を可能とする為に勤務調整
吉田貞夫先生・宮澤靖先生研修会	県北集団給食研究会	管理栄養士	1名	令和元年6月21日（金）	参加を可能とする為に勤務調整
高齢者ケア施設の栄養科スタッフがしっておきたいよくあるケース別に学ぶトラブルへの対応の仕方	ステップアップメディカル教育研修事業部	管理栄養士	1名	令和2年1月25日（土）～	参加を可能とする為に勤務調整
日本社会福祉士会全国大会・社会福祉学会	日本社会福祉士会	社会福祉士	1名	令和元年6月1日（土）～2日（日）	参加を可能とする為に勤務調整
認知症の人を知り、介護者のケアストレスを救う	東北福祉大学会津地区同窓会	全職種	1名	令和元年7月6日（土）	参加を可能とする為に勤務調整

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：西会津町介護老人保健施設「憩の森」

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	1	1	0	0	0	0	2
	その他	0	1	0	0	0	0	0	1
	合計	0	3	1	0	0	0	0	4

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度（接遇）		3	0	0	0	0	0	3
サービスの質（内容）		1	0	0	0	0	0	1
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	0	0	0	0	4

平成31年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護 事業報告

1. 基本方針

西会津町介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を開いた。具体的な実施報告は、別紙の各係「実施評価報告」の通りである。

2. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

西会津町史や会津地区の古い写真を加工し、映像化したものを活用する回想法のアプローチを実施した。また、利用者の年代別に編集した歌謡曲をリハビリテーションやケアの提供時に流し、音楽療養の要素を取り入れた認知症ケアを実践してきた。

「見る」「話す」「触れる」「立つ」のエマニチュード技法をチームで実践していくことで、ケアの好循環を生み ADL・IADL の向上と、認知症状の軽減を図ることが出来た。また、町主催の認知症ケアスキルアップ研修会へ10名の職員を派遣し、センター方式アセスメントの導入を推進した。

(2) 在宅生活・療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に基づいた個別援助計画書を作成し、在宅療養上必要な医学的管理、ADL・IADL の維持向上を生活の場面から支援した。また、医師から要請で、入院治療までは行かないが在宅療養困難な利用者に対し、担当医の指示のもと、各種検査や施設で提供可能な範囲での治療、経過観察等を実施した。

各関係機関と連携し協働アセスメントを実施していくことで、在宅復帰後も、療養支援としてのショートステイを活用できるように、フォローアップ体制を取っている。

(3) 職員の専門性の向上

職員のスキルアップのため、OJT・OFF-JT・SDS の体制構築を図った。各委員会にて施設内研修会・勉強会を企画し、法定研修会を含めて年13回開催。外部研修への派遣については、年48件となっている。研修評価については、3ヶ月評価・6ヶ月評価まで実施し、振り返ることで効果の促進に努めた。

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の運用においては、新たにアセッサー(評価者)を1名養成。また、介護職員レベル認定を3名申請した。

平成31年度西会津町介護老人保健施設「森の森」短期入療養介護 実施評価報告

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア及び認知症リハビリテーションを実施し、多職種によるチームアプローチを通じADLとIADLの維持・向上を図る。また、より専門的な見地から認知症ケアを実践するため、ユマニチュードの技法、センター方式を活用したアセスメントを実施していく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①センター方式のシートを活用する。事例検討や新規利用者入所時にシートを使用し、24時間での心身状態の変化を記録することで、何が影響を与えていたかを把握し、予防的に関わるタイミングやケア内容を確認していく。事例検討会では、その後の評議まで行い、それを一連の流れとする。</p> <p>②認知症ケアへの取り組みについての説明を施設内に掲示し、来所者が正しく理解出来るように工夫していく。ユマニチュードケアを基本として認知症ケアに取り組み、その周知についても強化していく。</p>	<p>①センター方式シートを用いて7月・9月に施設内事例検討会を開催。パート職員を含む全職員が参加し、行動観察とケース記録の共有、関わり方のポイントを協議した。パート職員の関わりが本人へプラス(好きな音楽の共有等)に影響し不安行動の減少が確認された。また、ケアマネジメント研修会において事例を提供し、これまで関わってきた地域と事業所で本人の置かれる状況を再度整理し、次の生活に移行しても繋がりのあるケアが提供出来る様に協議を進めることができた。</p> <p>②認知症ケアについての掲示が出来ていないため、現在施設で取り組むユマニチュードやセンター方式についてのポスターを次年度には準備していく。</p>
医療 看護	<p>①パーソンセンタードケア(その人を中心としたケア)を基本に、認知症の進行度・病歴に合わせてアプローチをしていく。また、個人の抱える疾患や認知症に起因する身体合併症の管理を実施し、看護の視点から、療養上の留意点をチームで共有していく。</p> <p>②その人を知るためにセンター方式のシートを使用して看護間で共有した内容を関係機関に伝達する。</p> <p>③ユマニチュード先進施設(福島県内)を視察し、看護職として具体的な対応を学び取り入れる。</p>	<p>①認知症の進行度・病歴に合わせてアプローチをするため、認知症利用者の自宅での状態を家族に聞き取り、施設内のチームで共有した。その結果、状態変化を担当医に報告する事で内服薬の調整を行ない、在宅へ情報を伝えることができた。また、急激な体調変化が見られた際、異常な早期発見や把握しづらい利用者の対応も出来るようになった。</p> <p>②個別援助計画書へ療養管理上の留意点を記載することで、ケア方法や認知症進行時のリスクを共有した。</p> <p>③ユマニチュード先進施設への視察は実施することができなかったが、ユマニチュード研修を受講してきた他部門の職員からの伝達を受けた。その会話を接する技法等を利用者に合わせて実践した。</p>
介護	<p>①利用者への理解を深めるためセンター方式のシートを活用する。また、その内容を事例検討会内で協議し、それぞれの症状に合わせた個別ケアの実践に繋げる。</p> <p>②「見る」「話す」「触れる」「立つ」のユマニチュード技法をケアの中に取り入れる。「その人らしさ」を支援することで、信頼関係を構築し、ケアの好適度を生むことで認知症状の軽減を図っていく。</p> <p>③見当識障害へのアプローチとして、一日の流れや、季節の行事を意識的に行うことで、利用者のコミュニケーション能力を高めることや、認知症の進行を遅らせることを目指す。</p> <p>④不安や寂しさの軽減を目指すとともに、本人の持っている知恵を引き出せるようなレクリエーションを個別援助計画に組み入れ実施する。</p>	<p>①センター方式シートを活用し、申し送り内でミニカンファレンスを開き介護内容を統一することが出来たため、それぞれの症状に合わせた個別ケアの実践に繋げられた。</p> <p>②ユマニチュードを意識し、個々に合わせた支援方法を行った。不穏が続いている利用者が職員や他の利用者とうまくコミュニケーションがとれレクリエーションに参加し、不安なく生活できるようになってきた。</p> <p>③毎月の誕生会の実施、豆まき、施設内の装飾ではクリスマス、お正月、団子さし、ひな祭りと季節感を味わっていただいた。慰问では盆歌歌手、日本舞踊、昔語り、笑いヨガ等楽しく参加されていた。毎日のレクリエーションでは、玉入れ、ボーリング、搞笑いと活動に行われ、お昼前の活動時間を楽しみにされる方が増えってきた。</p> <p>④不安や寂しさの軽減を目指すために、同じ時間に体操やレクリエーションを行うことにより、毎日の生活リズムが取れ利用者に安心感を持っていただいた。本人の持っている知恵を引き出せるようなレクリエーションである書き初め、塗り絵、歌を介護計画書に組み入れ、本人の能力を活かし参加できるように配慮した。</p>

リハビリ テーション	<p>①短期間での評価が必要となるため、利用者との触わりや生活動作を観察する中で気づいたこと等は記録し、在宅と施設利用中の状態を比較出来ないように経過を見ていく。</p> <p>②短期入所に適したアセスメントシートを用いて、客観的な評価を実施し、必要時には他関係機関や他職種と連携しながら、情報共有を密に行っていく。また、エマニチュードによる対応を実施していく。</p> <p>③季節感を利用者に持つていただくため、リハビリ室内の飾り付けは継続し、対象者の年齢や好みに合わせた音楽や作業療法を取り入れた認知症リハビリを実施する。また、過去の写真や映像等を用いた回想法も実施していく。</p>	<p>①短期間でのアセスメントが必要なため、他関係機関や他職種と連携しながら情報共有し、チームアプローチを実施した。また、各関係機関や家族へ分かりやすい情報伝達を図るために、必要時には写真や動画等を用いた伝達を導入した。</p> <p>②エマニチュードの対応については、リハビリ業務にも取り入れた。センター方式のシートを活用については、D-1型シート（できることの焦点情報）とD-2型シート（わかることの焦点情報）を用いて一部利用者に対して試行を行った。しかし全体業務への導入に至っておらず、次年度において実施予定である。</p> <p>③認知症リハビリの環境整備として、リハ室には季節感のある飾り付けを行い、庭やプランターでは、キュウリやスイカ等の季節野菜を栽培し、利用者が四季を感じられるように整備した。苦楽園法の要素を取り入れ、季節感のある音楽や1950年～1990年にかけて年代別に撮影した歌謡曲を利用者の世代に合わせてリハビリ中に聴せるようにした。デジタル操作端末を用い、無線スピーカーから音楽を流せる環境も整備したことと様々な場所で演奏が出来るようになった。会津地区的古い写真を動画やスライドに加工し、回想法のアプローチを行ってきた。次年度には、広報にしあいづや町史等からの画像を用いて相談を増やして行く予定である。</p>
栄養 給食	<p>①認知症により摂食が困難となっている利用者に対し、授食導下の5期の中でどの段階に問題が生じているかを正確にアセスメントし適切な栄養ケアを行う。</p>	<p>①認知症により、授食導下の5期のどの段階に問題があるのかアセスメントする際に既存の栄養マネジメントのシステムでは評価項目が少なく不十分であった為、効率よく詳細に評価できる様に独自の授食導下評価シートを作成行った。しかし、作成した評価シートの十分な活用はまではまだ出来ていない為、次年度に活用していきたい。</p>

(2) 在宅生活・療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に基づき、身体機能・認知機能の維持向上を目的とした生活リハビリテーションの提供、ADL・認知機能・授食導下機能の評価や栄養管理など、老健施設の有する機能を発揮し在宅生活・療養を支援する。また、各関係機関との協働アセスメントを実施することで連携強化を図ると共に、サービス内容も検査していく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①各関係機関との協働アセスメントを実施し、必要なADL・IADL・サービス・支援の程度等を計ることで、在宅生活・療養を維持できるように支援していく。</p> <p>②町や診療所からの要請による緊急入所が必要なときの受け入れ先として対応していく。また、要請があった際は速やかに情報を収集し、各機関へ伝達できるよう努める。</p>	<p>①多職種での訪問については軟件であるが実施することができた。訪問時に写真や動画を撮影し、ICTを活用し職員間で共有することで、在宅を想定したケアマネジメントの推進に努めている。3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、モニタリングの結果から、在宅復帰のタイミングを多職種で協議し、在宅復帰に繋げているため、年度末での在宅復帰率は73%と高い水準を維持できている。また、居宅DXと連携・協働し、在宅復帰後のサービス利用の見直しを立てることで、支援する家族も生活を想定しやすい体制をとっている。</p> <p>②要請があった場合は、ベッドの調整が可能な限り受け入れを実施した。各関係機関と連携し協働アセスメントし、利用終了後のフォローアップについても協働することが出来た。</p>
医療 看護	<p>①個別援助計画のモニタリング結果から、治療方針や疾患の予後予測、療養上の留意点を各部署・関係機関と共有していく。</p> <p>②体調変化時には家族・支援者へ連絡し状態説明をする。また、担当医の医療方針・ICの内容をわかりやすく説明するハブ機能を担っていく。</p>	<p>①個別援助計画のモニタリングに沿って治療方針や疾患の予後予測、療養上の留意点を各部署・関係機関と共有し、町の施設機能として医療が必要な利用者に治療を提供できる体制を整備してきた。その結果として、家族も認知症のため付き添い介護が難しい重度の認知症利用者の受け入れたケース、看取りの利用者で最期の時間を自宅で過ごしたいとの希望を実現するため、その支援を行なったケースにも対応できた。</p> <p>②看護会議の中で看護師として家族や関係機関へのハブ機能としての役割を話し合い、情報の共有を忘れない体制を検討し強化した。医療依存度の高い利用者宅へ同行しサービス担当者会議へ参加した事で、施設での状況をその場で伝える事が出来た。</p>

介護	<p>①在宅での生活状況を把握し施設でのケア方法を検討するため、実態調査・居宅サービス担当者会議へ積極的に参加する。</p> <p>②住環境や家族の介護力を勘案して、出来る限り本人の望む生活が継続できるように在宅生活を想定した ADL・IADL 生活リハビリを個別援助計画に組み入れ実施する。</p>	<p>①在宅での生活状況と住環境を把握しケア方針を検討するために、実態調査に同行した。その際、本人と家族の状況を把握し介護計画書に組み入れた。また専門職(看護・リハ・栄養・ケアマネ・相談)から意見を聞き反映させた。同行できない時は、参加した職員が撮影してきた写真や動画等を用い情報収集と共有を実施した。次年度は誰でも、どの時間でも積極的に参加できるように調整していく予定である。</p> <p>②出来る限り本人の望む生活が継続できるように、在宅生活を想定した生活リハビリを介護計画書に組み入れ実施した。住環境と家族の介護力の把握にも努めている。追所の際は、施設でのケア内容を在宅に繋げられるように指導した。</p>
リハビリテーション	<p>①在宅生活を想定し、心身機能に合った在宅生活が出来るために、各関係機関・専門職との協働アセスメントを実施し、情報共有をしていく。</p> <p>②利用者の状態に応じて速やかに他関連機関や他職種と連携を図り、必要性があれば在宅訪問を行い、環境設定を実施する。</p> <p>③情報共有の精度を高め、円滑化を図るために、福祉見聞録システムや ICT を活用した記録管理を進めること。</p>	<p>①写真や動画等を用いた情報共有を、各事業所、各職種、ご家族等に向けて実施し、身体機能や認知機能の協働アセスメントを行ってきた。それにより、在宅生活を想定したチームアプローチが実現できるように体制を強化してきた。次年度には、各係との見える化の情報共有を進めていくためにタブレット端末等の機器利用を検討していく予定である。</p> <p>②在宅における ADL 指導と自主トレーニングの執行を利用者に促した。個別在宅プログラムの作成指導を 3 件実施した。また、在宅訪問は 1 件実施し、福祉用具の選定や住環境設定を行った。</p> <p>③計画書作成やリハビリ記録に関しては、IT 機器を利用して、業務の効率化と利便性の向上を図ってきた。しかし、福祉見聞録システムの活用は、業務上の情報照会や一部の記録作成には用いているが、リハビリ記録会員の活用にまでは至らなかった。次年度には、福祉見聞録を活用できる体制を進めていく予定である。</p>
栄養給食	<p>①他事業所や在宅の利用者の食事形態を正確に把握するために、喉下ピラミッド早見表を作成する(日本栄養食下リハビリテーション学会のコード表に基づく)。</p> <p>②栄養介入が必要な利用者に対し、適切な改善を行うために、早見表を用いた栄養指導を行う。</p>	<p>①訪問介護事業所と連携し在宅研修を実施する事が出来た。実際に、在宅生活を見ることで栄養・食事面の必要な支援方法について理解をより深めることができた。</p> <p>②早見表の作成は完成出来ず、活用までには至らなかった。</p>

(3) 職員の専門性の向上

職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発支援制度)を推進することで、専門性の向上に努める。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用し、段位に応じて求められる知識や技能などの共通の指標をもとに評価し、サービスの標準化を図る。また、介護老人保健施設の有する機能を発揮出来るように研鑽の場を設けていく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
相談	<p>①定期的に権利擁護員等を招き外部評価を受けることで、施設での取り組みが人権へ配慮できているか確認していく。</p> <p>②人生の最終段階における医療・ケア決定プロセスにおいて、アドバンス・ケア・プランニングを実施できるよう推進していく。</p>	<p>①7月 16 日人権擁護員による権利擁護啓発活動と聞き取りを実施。人権には十分に配慮出来ているとの評価を受けるも、9月に不適切なケアが発覚し不適切ケアの予防のための再研修会を開催した。虐待の茅チェックリスト・マナーチェックリスト・ストレス対応度チェックリストの集計分析の結果から、標準化し全職員一丸となって職場の環境改善に努めている。また、第 18 回東北地区老人保健施設大会へ参加し、「権利擁護啓発活動について」の演題登壇を行いう事が出来た。</p> <p>②町主催の AGP(人生会議)勉強会へ参加し、人生の最終段階における意思決定プロセスについて学んでいる。施設内においても、適宜実施し支援を継続している。</p>
医療看護	<p>①介護保健施設に勤務する看護職として、生活モデルの視点を持つために、事例検討会等に積極的に参加する。</p> <p>②感染症・看取りの研修会へ積極的に参加し専門性の向上を図る。</p>	<p>①事例検討会等に積極的に参加することで、介護保健施設に勤務する看護職として、生活モデルの視点を持つことが出来た。</p> <p>②看護に対する外部研修会参加した職員で伝達研修会を開催する事が出来き、糖尿病と栄養について学ぶことができた。季節インフルエンザ、ノロウイルスによる集団感染が無かった。</p>

介護	<p>①介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用する。「知識」・「実践的スキル」の両面から評価する取り組みを通じOJT指導を実施することで介護職の資質向上を図る。また、アセッサー(評価者)の養成も継続していく。</p> <p>②個別支援を組み入れた介護計画の作成ため、係内において勉強会を開催する。</p> <p>③利用者の権利擁護の意識を高めるため、接遇・虐待防止・身体拘束の外部研修に積極的に参加する。</p>	<p>①介護の標準化に合わせ、同じ手順で業務が出来るようにOJTを実施し業務手順書を作成した。アセッサー養成は1名合格し、キャリア段位認定では3名を人選し申請中である。</p> <p>②少人数の勉強会を実施したことにより、家族にも説明することができる詳細な個別支援を記載した介護計画を作成出来るようになった。</p> <p>③全職員が研修に参加できるように勤務の調整を行った。利用者の権利擁護を意識し、特に不適切なケアについては、お互いに注意喚起ができるように部署を作成し環境を整備するに至った。</p>
リハビリテーション	<p>①施設と自宅では生活環境が異なるため、それぞれの環境に適した福祉用具が活用できるように、福祉用具の選定力と住環境の設定力の強化を図る。</p> <p>②在宅生活の支援において的確な助言ができるように、所属する職業団体の研修への参加等により専門性の向上を図る。また、 SDS・Off-JTへの支援体制を整備していく。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握し、それに基づいたOJTの体制を構築する。</p>	<p>①福祉用具の選定力と住環境の設定力を強化するために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行った。今年度の医療福祉機器展（HCR）の基本テキストを用いて、係内で勉強会を行った。昨今の状況としては、福祉用具のICT化が急速に進んでいるため、次年度には、その分野の知識充実を図っていく予定である。</p> <p>②職員各自で職業団体主催の基本教育プログラムや地域包括ケアに関する研修会等に参加した。基本教育プログラム研修と地域包括ケア・介護予防リーダー研修それぞれ1名修了した。研修等で得た知見を共有化するために、係内で伝達講習を実施した。SDS支援として、保育スタッフを含めた老健職員を対象としたケアマネの受験勉強会を開催した（15回）。また、職業団体認定の介護予防リーダー等の資格取得も促した。次年度には、職業団体主催の臨床実習指導者講習会等への参加を支援していく予定である。</p> <p>③スタッフのキャリアプランに基づいたOJT体制を構築するため、係スタッフとの面接を実施し、各自の望んでいるスキルとキャリアを把握した。それに基づいた整備を進めるため、係内にてキャリアパスの勉強会を実施した。</p>
栄養給食	<p>①専門とする分野の知識・技術習得を行う為、所属する職業団体（日本栄養士会）の生涯教育制度を自主的に受講・単位取得を行う。また、受講により専門分野のネットワーク作りを行い、情報収集の場として活用する。</p>	<p>①管理栄養士は、所属する職業団体（日本栄養士会）の研修へ参加し1単位取得、その他の栄養に関する県内外の研修にも積極的に参加する事が出来た。また、訪問介護事業所と連携した在宅研修や会津地域医療推進研修に参加することで、在宅生活の実態を理解する機会を得ることができた。調理員は、チームコンペクションオープン調理（基礎～応用）の研修へ2名が参加し、研修内容から調理方法の具体的な見直しを提案する事が出来、調理技術・作業効率の向上ができた。</p>

平成31年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」短期入所療養介護利用実績

⑥短期入所療養介護利用実績

	実人数							延べ日数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
平成31年4月	0	1	2	14	14	12	9	52 559
令和元年5月	0	0	3	13	16	13	11	56 621
令和元年6月	0	1	4	13	13	11	10	52 630
令和元年7月	0	0	5	14	14	7	9	49 518
令和元年8月	0	1	4	10	13	7	8	43 571
令和元年9月	0	1	8	12	13	8	7	49 564
令和元年10月	0	1	7	14	13	9	7	51 614
令和元年11月	1	1	5	15	15	9	7	53 600
令和元年12月	0	2	4	15	14	7	6	48 561
令和2年1月	0	2	5	16	13	9	6	51 621
令和2年2月	0	1	3	18	10	10	5	47 497
令和2年3月	0	1	4	16	12	9	4	46 486
合計	1	12	54	170	160	111	89	597 6,842
前年度	(3)	(10)	(56)	(146)	(131)	(136)	(114)	(596) (5,913)

⑥短期入所介護度年齢別状況

※()内は前年度実績

	~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計
男性	要介護1	0	0	0	2	1	2	1	0	6
	要介護2	0	0	0	1	5	1	2	0	9
	要介護3	0	0	0	2	3	2	3	1	11
	要介護4	0	1	0	0	1	1	2	1	6
	要介護5	0	0	0	0	2	3	3	1	9
	要支援1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	要支援2	0	0	0	0	1	1	1	0	3
小計		0	1	0	3	14	10	13	4	45(36)
平均		0	4	0	2.6	2.6	3.5	3.1	3.2	3(3.2)
女性	要介護1	0	0	0	0	1	1	1	0	6
	要介護2	0	0	0	0	2	5	7	0	15
	要介護3	0	0	2	1	0	3	3	0	12
	要介護4	0	1	0	0	1	3	10	4	19
	要介護5	0	0	0	0	0	2	3	3	9
	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		0	1	2	1	4	14	24	13	61(66)
平均		0	4	3	3	2.2	3	3.2	3.3	3.1(3.3)
合計		0	2	2	4	18	24	37	17	106(102)
平均		0	4	3	2.7	2.5	3.1	3.2	3.2	3.1(3.3)

⑦入所・短期入所療養介護合算実績

※()内は前年度実績

	ロング	ショート	計	平均
平成31年4月	912	(1,076)	559	(403)
令和元年5月	887	(1,057)	621	(463)
令和元年6月	823	(1,000)	630	(467)
令和元年7月	1,018	(974)	518	(652)
令和元年8月	936	(980)	571	(560)
令和元年9月	906	(952)	564	(626)
令和元年10月	914	(843)	614	(680)
令和元年11月	869	(881)	600	(578)
令和元年12月	960	(1,056)	561	(476)
令和2年1月	898	(1,160)	621	(349)
令和2年2月	942	(1,024)	497	(356)
令和2年3月	1,041	(1,001)	486	(503)
合計	11,106	(12,004)	6,842	(5,913)
			17,948	(17,909)
				49.0 (49.0)

平成 31 年度

医療処置一覧

「憩の森」短期入所療養介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処置人数	139	197	125	95	83	131	164	126	120	178	173	166
経管栄養者人数	7	7	3	8	11	13	7	8	12	9	7	5
PEG・Mチューブ交換	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Hr.カテーテル插入者人数	0	19	10	0	11	0	5	0	0	0	0	0
Hr.カテーテル交換	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
膀胱洗浄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
臨時検査	1	4	4	5	2	4	3	3	1	7	2	0
点滴 Div	15	15	7	14	21	20	4	1	1	1	0	3
抗生素 iv	4	6	3	10	8	2	3	5	2	0	1	3
インスリン	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
受診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

処置人数	1697件 (1721件)
経管栄養者人数	97件 (82件)
PEG・Mチューブ交換	3件 (0件)
Hr.カテーテル插入者人数	45件 (19件)
Hr.カテーテル交換	4件 (2件)

膀胱洗浄	0件 (0件)
定期検査(採血・Bx-p・EKG)	2件 (1件)
臨時検査	36件 (35件)
点滴 Div	102件 (99件)
抗生素 iv	47件 (86件)
インスリン	1件 (8件)
受診	0件 (1件)

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：「憩の森」短期入所療養介護事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
	家族	1	1	2	0	0	0	1	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	1	2	0	0	0	1	5

2. 苦情解決状況

	苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足	1	0	0	0	0	0	1
職員の態度 (接遇)	1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)	2	0	0	0	0	0	2
サービスの量	0	0	0	0	0	0	0
権利侵害	0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	5	0	0	0	0	0	5

平成31年度

西会津町介護老人保健施設「憩の森」通所リハビリテーション 事業報告

1. 基本方針

西会津町介護老人保健施設「憩の森」基本方針に則り、以下の重点目標に基づき事業を開した。具体的な実施報告は、別紙の各係「実施評価報告」の通りである。

2. 重点目標

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、会津百年の歴史や年代ごとに合わせた音楽療法を取り入れ、また、季節に合わせた装飾や個人の短歌を掲示し認知症ケア・認知症リハビリテーションを実践できるよう努めた。

(2) 在宅生活・療養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に位置付けられた各関係機関と協働アセスメントを実施し、居宅サービス担当者会議で協議・共有し、生活目標を達成していくための具体的なサービス内容を精査し実施することで、要支援者2名・要介護者1名の在宅生活へ移行することが出来た。次年度も老健の有する機能が発揮できるよう努める。

(3) 職員の専門性の向上

職員のスキルアップのためOJT・OFF-JT・SDSの体制構築を図った。令和元年度第18回東北地区介護老人保健施設大会において、リハビリ係と協働し「デイケアでの集団活動における満足度向上の取り組みについて」を演題に研究発表を行った。介護プロフェッショナルキャリア段位制度運用のため昨年に引き続き、アセッサー（評価者）1名養成し、2名となった。現在1名のレベル認定申請中である。段位に応じて求められる知識や技能が共通の指標で評価され、OJTへの活用に期待できるため、次年度も継続して運用していく。

平成31年度西会津町介護老人保健施設「慈の森」通所リハビリテーション 実施評価報告

(1) 認知症ケアの向上

認知症を有する利用者の増加に対応するため、認知症ケア・認知症リハビリテーションを実施し、多職種によるチームアプローチを通じADLとIADLの維持向上を図る。また、認知症ケアを実践するため、センター方式を活用しアセスメントを実施する。

係・部門	実施計画内容	実施報告
デイケア(介護・看護)	<p>①認知症であっても尊厳あるケアが提供されているか、人権擁護委員による外部評価を受ける。</p> <p>②お手玉などを使用したレクリエーションや対象者に合わせた音楽を取り入れ実施する。また、季節感のある装飾作りを実施する。</p> <p>③認知症の悪化を防ぐ為に、BPSD(行動・心理症状)が生じた場合には、ご家族・各関係機関と情報を共有し対応する。</p>	<p>①人権擁護委員による外部評価で、利用者数名の聞き取りを行うことが出来た。委員の方に話を聞いてもらい満足したとの声も聞かれた。時間帯によっては十分な対応が出来ない時は職員同士声掛けを行うことで、サービス提供を行うことが出来た。</p> <p>②お手玉を使用した玉入れや的入れのレクリエーションの実施。9月10日(火)には笑いヨガを開催依頼し実施した。最初は恥ずかしがって距離を置いている利用者が多かったが、時間がたつにつれ馴染んできたのか、普段は笑わない利用者も笑顔で取り組んでいる様子が伺え評判であった。</p> <p>水分補給時は年代に合わせた音楽を流すことが出来た。季節の装飾については、利用者の方と作成した作品の掲示や、個人で俳句を書いてきたものを出行け室内に掲示し、利用者の方に紹介することが出来た。</p> <p>公益社団法人 日本レクリエーション協会インストラクター資格を取得した職員による認知症プログラムの充実を図り、レクリエーション機器（ラダーグッター）を導入し実施することが出来た。</p> <p>③行動や表情を観察することで普段と違う症状が見られた場合、家族や担当介護支援専門員へ状況を説明し共有した。</p>
リハビリテーション	<p>①認知症予防を目的としたリハビリプログラムを実施するため、利用者それぞれの生活歴や性格を踏まえた学習療法を推進し、リハビリ体制を構築する。</p> <p>②チームアプローチによる認知症ケアを実現するために、センター方式を活用したアセスメントシートを利用し、評価の客観性を高める。</p> <p>③各曜日の利用者の傾向を把握し、音楽リハビリテーションを取り入れるために、年代によって異なる音楽の傾向を分析し、利用者に合わせた音楽を流しながらリハビリを実施していく。</p>	<p>①認知症予防や軽度認知障害(MCI)改善を目的としたリハビリプログラムの一環として、簡易的な計算やクロスワードを中心とした学習療法プログラムの提供体制を整備した。</p> <p>②センター方式のアセスメントシートを利用した認知症評価の実施については、センター方式のシートを活用しD-1型シート（できることの焦点情報）とD-2型シート（わかることの焦点情報）を用いて一部利用者に対して試行を行った。しかし全体業務への導入に至っておらず、次年度において実施していく予定である。</p> <p>③認知症リハビリの環境整備として、リハ室内は季節感のある飾り付けを行い、座やプランターでは、キュウリやスイカ等の季節野菜を栽培し、利用者が四季を感じられるように整備した。音楽療法の要素を取り入れ、季節感のある音楽や1950年～1990年にかけて年代別に収集した歌謡曲を利用者の世代に合わせてリハビリ中に流せるようにした。50代～60代の利用者には特に好評であった。デジタル操作端末を用い、無線スピーカーから音楽を流せる環境も整備したことで様々な場所で演奏が出来るようになった。会津地方の古い写真を動画やスライドに加工し、回想法のアプローチを行ってきた。次年度には、広報にしあいづや町史等からの画像を用いて種類を増やして行く予定である。</p>
栄養・給食	<p>①認知症により摂食が困難となっている利用者に対し、摂食嚥下の5期の中でどの段階に問題が生じているかを正確にアセスメントし適切な栄養ケアを行う。</p>	<p>①認知症により、摂食嚥下の5期のどの段階に問題があるのかアセスメントする際に既存の栄養マネジメントのシステムでは評価項目が少なく不十分であった為、効率よく詳細に評価できる様に独自の摂食嚥下評価シートを作成行った。しかし、作成した評価シートの十分な活用はまではまだ出来ていない為、次年度に活用していきたい。</p>

(2) 在宅生活・栄養への積極的な支援と連携強化

居宅サービス計画に位置付けられた各関係機関と協働アセスメントを実施し、居宅サービス担当者会議で協議・共有し、生活目標を達成していくための具体的なサービス内容を精査し実施していく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
デイケア(介護・看護)	<p>①体調や生活環境に変化がみられた場合は、家族・各関係機関と情報共有し、対応方法を協議し支援していく。</p> <p>②生活目標が達成できるよう具体的なサービス内容を精査し、作成した個別援助計画に基づき実施する。</p>	<p>①温疹など体調に変化のあった利用者については、家族・各関係機関・担当介護支援専門員と情報共有しスムーズに対応方法を協議することが出来た。</p> <p>②担当者会議で目標の確認をすることが出来たが、サービスを提供することで達成できる目標ではなかったため、次年度の課題とする</p>
リハビリテーション	<p>①在宅生活を支援するため、身体機能や体調等に変化があった利用者に対して、各施設・機関と円滑に連携を図り、情報発信が出来る体制を整備する。</p> <p>②各施設・機関との情報共有における客観性と効率性を高めるために、福祉見聞録システムやICTを利用した記録管理体制を推進していく。</p> <p>③利用者の状態に応じて速やかに他関連機関や施設等と連携を図り、必要性があれば在宅で実施するリハビリプログラムの作成や動作指導、在宅訪問を行うことで、環境設定を実施する。</p>	<p>①各施設・機関と円滑に連携を図るために、写真や動画等を用いた情報共有を、各施設機関とご家族等に向けて行い、情報発信が出来る体制を整備した。情報保全についても専用の記録媒体を用いて管理した。</p> <p>②福祉見聞録システムの活用は、ケアプラン等の照会や一部の書式作成については行えたが、リハビリ記録の運用までには至らなかった。次年度も体制整備を進めていく予定である。</p> <p>③個別在宅プログラムの作成指導を9件実施した。また、在宅訪問は3件実施し、福祉用具の選定や住環境設定を行った。町リハビリ事業へ参画し、町の進める認知症・介護予防の取り組みを総合的に支援してきた。</p>
栄養・給食	<p>①他事業所や在宅の利用者の食事形態を正確に把握するために、紙下ピラミッド早見表を作成する(日本栄養学会下リハビリテーション学会のコード表に基づく)。</p> <p>②栄養介入が必要な利用者に対し、適切な改善を行うために、早見表を用いた栄養指導を行う。</p>	<p>①居宅ケアマネからの栄養指導の依頼あった利用者に対し、本人とその家族への聞き取りを行い、栄養指導を実施した。訪問介護事業所と連携し、在宅研修を実施する事が出来た。実際に、在宅生活を見ることで栄養・食事面の必要な支援方法について理解をより深めることができた。</p> <p>②早見表の作成は完成出来ず、活用までには至らなかった。</p>

(3) 員員の専門性の向上

職員研修計画を策定し、OJT・OFF-JT・SDS(自己啓発支援制度)を推進することで、専門性の向上に努める。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を運用し、段位に応じて求められる知識や技能などの共通の指標とともに評価し、サービスの標準化を図る。また、介護老人保健施設の有する機能を発揮出来るように研鑽の場を設けていく。

係・部門	実施計画内容	実施報告
デイケア(介護・看護)	<p>①介護職は、根拠のある介護技術を確実に実施出来るように介護キャリア段位制度を運用する。</p> <p>②看護職は、感染症や事故等のリスクに柔軟に対応出来るように、それらに関する研修に参加し、振り返りを行い実践する。また、在宅療養上の医療情報を積極的に得る。</p>	<p>①昨年度に引き続きアセッサー（評価者）1名養成し2名となった。レベル認定申請中で、少しずつ出来る。わかるを身につける事が出来た。次年度も継続的に評価をすることで利用者の状態に即した介護技術が提供できるよう取り組む。</p> <p>②医療情報は担当介護支援専門員を介して情報を得ることで、利用者の対応や様子観察する事が出来た。次年度の課題として、事業者からも各関係機関等へ情報を得るよう積極的に働きかけていく。</p> <p>③令和元年度第18回東北地区介護老人保健施設大会において、リハビリ係と協働し「デイケアでの集団活動における満足度向上の取り組みについて」を演題に研究発表を行った。</p>
リハビリテーション	<p>①自立支援型地域ケア会議等の会議に参加した際、リハビリ職の立場として的確な助言をするために、所属する職業団体における研修へ参加し専門性を磨く。</p> <p>②福祉用具の選定力と住環境の設定力の強化を図るため、係内で勉強会を実施していくと共に、SDS・Off-JTへの支援体制を整備していく。</p> <p>③スタッフのキャリアプランを支援していくために、それぞれのキャリアプランを把握し、それに基づいたOJTの体制を構築する。</p>	<p>①自立支援型地域ケア会議の助言者対象の研修会にスタッフが参加し、その研修で得た知見を係内の伝達練習にて共有化した。その後、職業団体から推薦を受けたスタッフが、西会津町自立支援型地域ケア会議に3回出席し助言を行った。また、令和元年度第18回東北地区介護老人保健施設大会において、デイケア職員と共同研究した「デイケアの集団活動における満足度向上の取り組みについて」の演題発表を行った。次年度においても、共同研究を継続し全国介護老人保健施設大会にて演題発表を行っていく予定である。</p> <p>②福祉用具の選定力と住環境の設定力の強化するために、業者と連携を図りながら福祉用具に関する最新情報の収集を行った。今年度の国際福祉機器展（ICR）の基本テキストを用いて、係内で勉強会を行った。昨今の状況としては、福祉用具のICT化が急速に進んでいるため、次年度には、その点の知識の充実を図っていく予定である。SDS支援として、係スタッフを含めた老健職員を対象としたケアマネの受講勉強会を開催した（15回）。また、職業団体認定の介護予防リーダー等の資格取得も促した。次年度には、職業団体主催の臨床実習指導者講習会等への参加を支援していく予定である。</p> <p>③スタッフのキャリアプランに基づいたOJT体制を構築するため、係スタッフとの面接を実施し、各自の望んでいるスキルとキャリアを把握した。それに基づいた整備を進めるため、係内にてキャリアパスの勉強会を実施した。</p>
栄養・給食	<p>①専門とする分野の知識・技術習得を行う為、所属する職業団体（日本栄養士会）の生涯教育制度を自主的に受講・単位取得を行う。また、受講により専門分野のネットワーク作りを行い、情報収集の場として活用する。</p>	<p>①管理栄養士は、所属する職業団体（日本栄養士会）の研修へ参加し1単位取得、その他の栄養に関する県内外の研修にも積極的に参加する事が出来た。他施設管理栄養士との交流も図り、他の施設での取り組みを知る良い機会にもなった。調理員は、ステムコンベクションオーブン調理（基礎～応用）の研修へ2名が参加し、研修内容から調理方法の具体的な見直しを提案する事が出来、調理技術・作業効率の向上ができた。</p>

平成31年度 西会津町介護老人保健施設「憩の森」
通所リハビリテーション事業所 利用実績

①通所リハビリテーション利用実績

種別日数	実人数								延べ人数
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	
平成31年4月	25	13	18	20	23	14	5	3	96 448
令和元年5月	24	11	18	20	22	17	5	2	95 427
令和元年6月	25	12	19	22	22	18	2	1	96 458
令和元年7月	25	11	21	24	21	17	3	2	99 463
令和元年8月	24	11	21	23	21	16	4	1	97 414
令和元年9月	23	12	22	21	20	18	3	1	97 422
令和元年10月	25	12	20	22	20	18	5	1	98 441
令和元年11月	24	12	22	22	21	16	5	1	99 438
令和元年12月	24	12	21	22	21	16	3	2	97 441
令和2年1月	23	12	22	22	21	17	5	1	100 429
令和2年2月	23	12	22	24	21	17	5	1	102 432
令和2年3月	25	12	25	22	20	16	6	1	102 456
合計	290	142	251	264	253	200	51	17	1,178 5,269
前年度	(296)	(163)	(199)	(283)	(246)	(164)	(81)	(25)	(1,180) (5,196)
									一日平均 18.1人
									前年度 17.5人

②通所リハビリテーション介護度年齢別状況（令和2年3月31日現在）

	50~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳~	合計
男性	要介護1	0	0	0	0	4	1	0	0	5
	要介護2	1	1	0	2	7	0	0	0	11
	要介護3	0	2	0	2	4	1	3	0	12
	要介護4	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	要介護5	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	要支援1	0	0	3	0	0	2	1	0	6
	要支援2	0	0	0	0	2	4	0	0	6
小計		1	3	3	4	18	9	4	0	42(44)
女性	要介護1	2	1	0	1	1	5	5	1	16
	要介護2	0	1	0	0	2	1	4	0	8
	要介護3	0	0	0	1	2	1	1	0	5
	要介護4	0	2	0	0	2	0	2	0	6
	要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援1	0	1	0	2	3	0	1	0	7
	要支援2	0	0	3	0	5	8	2	0	18
小計		2	5	3	4	15	15	15	1	60(53)
合計		3	8	6	8	33	24	19	1	102(97)

男性 77.9歳 最年少 53歳 最高齢 94歳

女性 85.7歳 最年少 56歳 最高齢 98歳

③通所リハビリテーション地区別年間利用実人数（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

性別	地区	雪沢	尾野本	群岡	新郷	奥川	合計
男性	13(16)	12(16)	9(9)	5(8)	14(16)	53(64)	
女性	33(35)	23(25)	10(9)	10(5)	6(10)	82(84)	
合計	46(51)	35(40)	19(18)	15(13)	20(26)	135(148)	

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：「憩の森」通所リハビリテーション事業所

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの質 (内容)	サービスの量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		1	0	0	0	0	0	1
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	0	0	0	1

平成31年度

西会津町地域ふれあいセンター居住部門事業報告

〈事業報告〉

西会津町地域ふれあいセンター条例及び管理運営に関する規則に基づき、高齢のため、居宅において生活することに不安のある者に対し、介護支援機能や居宅機能及び、交流機能を総合的に提供し、利用者が安心して生活を送れるよう積極的にコミュニケーションを図った上で支援し、健康で明るくそして自分らしく過ごせるよう努めた。

〈重点事項〉

[1] 住居・場の提供について

居住において生活することに不安のある高齢者に対し、必要に応じ住居の提供をした。また、建物の一角を交流の場として開放し、入居者へ声かけをする等して積極的に交流をして頂きつつ、楽しく生活して頂けるよう取り組んだ。また、入居者や入居者の御家族、また外部の方に気軽に利用してもらえるように心がけてはいたが、2月後半からは新型コロナウイルスの影響で、外部との接触を極力控えて頂いた。

[2] 生活の援助

入居者との対話を多く持つように心がけをし、毎日朝と夕方の安否確認の際には生活の不便さや健康状態の聞き取り、生活する上で困っていることがあれば自立支援を踏まえた援助等を行った。

また、通所介護・訪問介護・ショートステイ等の介護サービス等の利用の際、他の事業所との連携が必要な場合など担当の介護支援専門員に連絡をし、相談やサービスの調整、また健康面での不安回避などに努めた。

[3] 生活相談

入居者や、家族から生活支援ハウスでの生活上の相談や要望があった場合には速やかに受け入れ、適切に対応するよう努めた。また、相談の内容において他のサービス事業所または、家族との連携を図りながらサービスの向上となるよう援助を行った。

特にサービス担当者会議では、本人の普段の生活の様子など、支援ハウスでしか見ることの出来ない一面等があれば、会議内で共有し、更なるサービスの向上に努めた。また、入居者から苦情があった場合は、内容によって他事業所や町役場と連携をとりながら迅速かつ適切に対応するよう努めた。

[4] 健康管理

日常の生活の中で手洗いうがいなどの励行や、職員自身の毎朝の検温等で感染の防止に努めた。

入居者の健康状態に注意するため朝の安否の確認で早期異常の発見、また職員や夜間対応する宿直員との連絡を密にし不安状況を抱かないようにした。また、症状の異変を担当の介護支援専門員や家族に伝え早期の受診へつなぐなどをし、対応に努めた。また、医療面で強い不安を抱いている方には、サービス提供事業所の職員に相談するなど、少しでも不安を取り除けるように心掛けた。

施設内感染防止では、職員全体で感染防止に関する正確な知識を持ち、共通認識のもと

協力し、防止に努めた。また、入居者が施設外へ行くことがあれば、マスクの着用を依頼し、外から帰って来た際には、必ず手洗いうがいをして頂けるよう依頼した。また、受診等で家族の支援が必要な場合は、ご家族にもマスクの着用を依頼した。

[5] 職員の資質向上

施設内研修等に参加し、入居者のニーズに沿ったサービス提供が出来るよう心掛けた。また、町の初任者研修を受講し、ヘルパーの資格を取得した。

[6] 防災対策

施設内の防災設備の確認・使用方法について定期的に確認する事ができなかつたため、次年度は計画的に確認する時間を設けたい。また、非常時の日用品等の確保ができなかつた為、早急に対応できるよう努めたい。

[7] 生活環境及び施設整備

入居者が快適に生活出来るよう、毎朝施設内の美化に努めることができた。また、入居者が不在の間も緊急で受け入れる事が可能な様、定期的に部屋の換気をしたり、居室の清掃及び設備等の確認を行う事ができた。

平成31年度社会福祉法人にしあいづ福祉会
西会津町地域ふれあいセンター事業報告

月	日	地 域 ふ れ あ い セ イ ナ ー 利 用 状 況 ・ 事 業 報 告
4	1 4 9 10 13 17 26	辞令交付式 事務会議 サービス調整会議・栄養確保事業 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 退居者3名 衛生委員会 退居者1名
5	9 10 14 15 16 22 23 31	事務会議 栄養確保事業 サービス調整会議 サービス連携会議・衛生委員会 職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 監事監査 事務局会議 理事会
6	4 5 6 11 19 20 21 26	サービス調整会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務会議 栄養確保事業 衛生委員会 西会津町福祉大会会議 栄養確保事業 事務局会議
7	2 3 4 9 10 16 17 25 29 30	サービス調整会議 サービス連携会議 事務会議 事務会議 職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 事務会議 衛生委員会 事務局会議 福祉大会打合せ 親睦会会議
8	1 5 6 7 8 15 21 29	事務会議 エレベーターロープ交換工事 栄養確保事業・事務会議 サービス連携会議・職員会議【ディサービスセンター・GH合同】 福祉会盆踊り大会 町盆踊大会参加職員親睦会【ひだまり使用】 衛生委員会 事務局会議

月	日	地 域 ふ れ あ い セ セ ナ タ ー 利 用 状 況 ・ 事 業 報 告
9	3 5 11 17 20 24 25 26	栄養確保事業 事務会議 職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 福祉大会打合せ 福祉大会打合せ 理事会 町指定管理ヒアリング 事務局会議
10	1 3 8 10 31	辞令交付式 事務会議 サービス調整会議 職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 事務局会議
11	5 7 8 9 18 23 24 27 28	苦情解決第三者委員会 事務会議 福祉大会前日準備 福祉大会 入居者 1名 入居者 4名 入居者 3名 入居者 1名 事務局会議
12	3 5 6 12 18	サービス調整会議 事務会議 理事会 職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 衛生委員会
1	8 9 30	職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 事務会議 事務局会議
2	4 5 6 7 19 26 28	サービス調整会議 サービス連携会議 事務会議 職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 衛生委員会 事務局会議 栄養確保事業
3	3 4 5 6 10 18	サービス調整会議 サービス連携会議 事務会議 職員会議 [デイサービスセンター・GH合同] 理事会 衛生委員会

月	日	地域ふれあいセンター利用状況・事業報告
	26	事務局会議・評議委員会

○利用者の買い物援助を毎週水曜日・受診援助は必要に応じて行った。
〔受診は西診の場合に限り〕

平成31年度 地域ふれあいセンター居住部門利用状況

1・年齢内訳 【月初日現在】

年齢	男				小計	女				小計	合計
	70~80	80~85	86~90	91以上		70~80	81~85	86~90	91以上		
4月	0	2	0	0	2	0	2	2	1	5	7
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	1	1	0	2	1	2	3	1	7	9
1月	0	1	1	0	2	1	2	3	1	7	9
2月	0	1	1	0	2	1	2	3	2	8	10
3月	0	1	1	1	3	1	2	2	2	7	10
合 計	0	6	4	1	11	4	10	13	7	34	45

月平均利用者数(前年度) : 9名 (9.2名)

2・介護度別利用 【月初日現在】

介護度	男				小計	女					小計	合計
	自立	事業	支援2	要介護2		事業	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2		
4月	0	1	1	0	2	0	2	2	0	1	0	5
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	1	1	0	0	2	0	2	3	1	0	1	7
1月	1	1	0	0	2	0	2	3	1	0	1	7
2月	1	1	0	0	2	1	2	3	1	0	1	8
3月	1	1	1	0	3	1	2	3	1	0	0	7
合 計	4	5	2	0	11	2	10	14	4	1	3	34

3・入居の状況

	1~3ヶ月以内	4~6ヶ月以内	7~12ヶ月以内	1年以上	合計
男	1	2	0	0	3
女	1	7	0	0	8
計	2	9	0	0	11

4・退居状況

年齢	男				小計	女				小計	合計
	自宅	長期入院	死亡	その他		自宅	長期入院	死亡	その他		
4月	2	0	0	0	2	5	0	0	0	5	7
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
3月	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	2
合 計	2	1	0	0	3	6	0	0	1	7	10

ア 施設外研修状況

No.	研修名	研修内容	参加職種	参加者名	期間	開催者・場所	研修結果の報告方法
1	令和元年度「退職共済事業」事務説明会	福島県社会福祉協議会共済事業事務説明	事務員	須藤歩美	令和元年7月1日	福島県総合社会福祉センター	復命 職員会議で発表

平成31年度苦情受付・解決状況

事業所名：高齢者生活支援ハウス

1. 苦情受付状況

		苦情趣旨							合計
		説明・ 情報不足	職員の態度 (接遇)	サービスの 質 (内容)	サービスの 量	権利侵害	被害・損害 事故	その他	
申立者	利用者	0	1	0	0	0	0	0	1
	家族	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	1	0	0	0	0	0	1

2. 苦情解決状況

		苦情解決 責任者	第三者委員 へ通知	行政へ通知	県運営委員 へ通知	継続中	その他	合計
説明・情報不足		0	0	0	0	0	0	0
職員の態度 (接遇)		0	0	0	0	0	1	1
サービスの質 (内容)		0	0	0	0	0	0	0
サービスの量		0	0	0	0	0	0	0
権利侵害		0	0	0	0	0	0	0
被害・損害・事故		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	1	1